

陸前高田市文化財調査報告第21集

堂の前貝塚発掘調査報告書 Ⅱ

平成11年3月

陸前高田市教育委員会

発刊にあたり

陸前高田市教育委員会

教育長 熊谷 瞳男

陸前高田市は、温暖な気候のもと、多くの美しい自然に恵まれ、縄文時代から現在にいたるまで、海に川に、そして北上山系の山々から、四季折々、多くの恩恵を受け発展してまいりました。中でも海からの恵みは大きく、本市の歴史は海を除いては語れません。このことは、市内各所に立地する貝塚をはじめとした遺跡からも、その海に依った豊かな生活を伺い知ることができます。その数は現在確認されているものだけで200ヶ所を越え、当市は、岩手県内でも「遺跡の宝庫」と呼ぶにふさわしい地域の一つと言えるのではないでしょうか。それだけに、市勢の発展に必要な開発と、これら貴重な遺跡の保護との両立には、特に意を注いできたところです。近年増加傾向にある、これら開発事業につきましては、関係機関と事前の協議をとり進め、調整を図っておりますが、やむを得ぬ事情により緊急発掘調査を実施するに至っております。

失われた埋蔵文化財は二度ともとに戻りません。そのため、調査にあたっては、埋蔵文化財を有効に活用するため、市内の児童・生徒を対象に、発掘体験教室を設け、体験学習を通じて次世代を担う子供達に、遺跡がもつ魅力と埋蔵文化財の重要性を認識させるうえで大変意義深いものであったと思います。

近年は、考古学ブームで、各地方から発掘調査等のニュースが毎日の様に流れますが、この様な社会情勢の中にあっての「堂の前貝塚」の緊急発掘調査の実施は、今までにもまして注目、期待されたところであり、膨大な量の出土遺物や土坑の発見等の成果がありました。

この度ここに、「堂の前貝塚発掘調査報告書Ⅱ」が刊行されましたことは、陸前高田市の先史、とりわけ本市の縄文時代中期から後期までの生活史を知る上で大変意義深いことと言えます。既刊の「堂の前貝塚発掘調査報告書Ⅰ」とあわせ、本書を地域の方々並びに研究者の方々にご活用いただき、ひいては文化財保護思想のさらなる普及啓蒙にお役立下さい。

おわりに、この調査に際しましては、常にご指導、ご協力をいただきました岩手県教育委員会文化課と、作業に従事して下さった多くの方々、並びに関係各位、また学問的見地からご協力を賜りました諸先生方に対し、深く感謝申し上げるとともに、今後ともご指導、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

平成11年3月

例 言

- 1 本書は、岩手県陸前高田市米崎町字堂の前地内に位置する堂の前貝塚の発掘調査報告書であり、平成9年度に行われた調査結果をとりまとめたものである。
- 2 調査は、「団体営農道整備事業農道久野立山線改良工事」に伴う事前の緊急発掘で、陸前高田市農政課より依頼を受け、陸前高田市教育委員会社会教育課で担当した。調査期間、調査体制は以下のとおりである。

調査期間 平成9年6月3日～平成9年8月17日

調査体制 団長 陸前高田市教育委員会教育長 熊谷睦男

総括 上部修一

事務局 社会教育課長補佐 菊池政雄

農政課主査 菅原耕之、同係長 津田耕節、同主任 石井泰子

同主事 東靖信、同主事 黄川田次男、同主事 佐々木帰依

調査担当者 市立博物館専門研究員 細谷英男、市立博物館主任 佐藤正彦

同 主事兼学芸員 熊谷賢、社会教育課主事 高橋和弥

3 野外調査は、細谷・佐藤・熊谷・高橋が行った。室内整理は、佐藤・熊谷・高橋が行った。

4 执筆は、Iは高橋が、II-1・V-3は熊谷が、他は佐藤が担当し、編集は佐藤が行った。

5 調査及び整理に際しては、以下の方々のご指導、ご助言を賜った。記して感謝を申しあげる次第である。

盛岡大学 熊谷常正氏、三陸町教育委員会 佐々木洋氏

6 石材鑑定は、大船渡市立博物館の白土豊氏に依頼した。

7 調査に際しては以下の方々の協力をいただいた。(敬称略、順不同)

青山道子 齋藤すみ子 村上典子 菅野美代 佐藤多恵子 紺野志賀子 鈴木艶子

吉田チヨ子 上野立子 鈴木キミ子 佐藤紀代子 鈴木貞子 菅原とみ子 鈴木徳子

大和田勝子 鈴木牧子 佐藤とも子 塚越真理 渡辺和子

8 室内整理および報告書の作成にあたっては、次の方々の協力をいただいた。(敬称略、順不同)

村上典子 佐藤とも子 鈴木キミ子 吉田泉 佐藤紀代子 鈴木貞子 佐々木奈穂子

青山道子 黄川田澄子 坂本優子 菅野美代

9 土器・石器の実測は、佐藤・坂本優子・佐々木奈穂子が行った。

10 掲載した土層の色調は、小山正忠・竹原秀雄編著「新版標準土色帳」第4版によった。

目 次

発刊にあたり

例言

I 調査に至る経過及び調査過程	1	CI41-1ビット21
II 遺跡の立地と環境	1	DB41-1ビット21
1 遺跡の位置と周辺の地形	1	DD41-1ビット20
2 基本層序	4	5 DE40-42・DF40-42・DG40-42・DH40	
III 調査と室内整理の方法	5	DH41・DI40・DI41グリット検出遺構24
1 調査方法	5	(1)堅穴住居状遺構24
2 室内整理	6	(2)ビット24
IV 発見された遺構	8	DE40-1~3ビット24
1 BI35・BJ35-37・CA34・CA37グリット検出遺構	8	DE41-1・2ビット24
BI35-1・2ビット	8	DE42-1ビット24
BJ35-1ビット	8	DF40-1ビット24
BJ36-1ビット	8	DF41-1~5ビット25
BJ37-1ビット	10	DF42-1~3ビット25
CA34-1・2ビット	10	DG40-1・2ビット25
CA37-1ビット	10	DG40-3ビット26
2 CC40・CD39・CD41グリット検出遺構	11	DG41-1~3ビット26
CC40-1ビット	11	DG42-1ビット26
CD39-1ビット	12	DH40-2・3ビット26
CD41-1ビット	12	DH41-1ビット26
3 CE41・E42・CF40・CF41・CF42・CG40・		DH41-2ビット27
CG41・CG42・CH41・CH42グリット検出遺構	12	DI40-1~727
CE41-1~6ビット	12	DI41-1~3ビット27
CE41-1・2ビット	14	DI41-4ビット31
CF41-3~5ビット	15	6 DJ39-42・EA39-40・EC38-40・	
CE42-1~4ビット	15	ED37-39グリット検出遺構31
CE42-5ビット	16	(1)溝状遺構31
CF42-1~6ビット	16	(2)ビット33
CF42-7ビット	17	DJ39-1・2ビット33
CG40-1~3ビット	17	DJ40-1・2ビット33
CG41-1~3ビット	17	DJ40-6ビット33
CG42-1ビット	18	DJ41-1ビット33
CG42-2~4ビット	20	EA39-1・2ビット33
CH41-1ビット	20	EA40-1~6ビット35
CH42-1・2ビット	20	EB39-1~4ビット35
4 CI41・CI42・DA42・DB41・DB42・DB43		EB39-5~12ビット37
DC42・DC43・DD41グリット検出遺構	20	EB40-1・2ビット37
掘建柱建物状遺構	20	EB40-3~9ビット39
EC39-3~6ビット	40	EC38-1~3ビット39
		EC39-1・2ビット39
		EC38-4ビット40
		第24図 検出遺構・遺構出土遺物43

EC40-1 ピット40	第25図 遺構外出土土器56
ED37-1 ピット40	第26図 遺構外出土土器57
ED38-1 ピット40	第27図 遺構外出土土器58
ED38-2~5 ピット41	第28図 遺構外出土土器59
ED39-1~7 ピット41	第29図 遺構外出土土器60
ED39-8~10 ピット43	第30図 遺構外出土土器61
V 遺構外出土遺物44	第31図 遺構外出土土器62
1 土器44	第32図 遺構外出土土器63
2 土器群のまとめ52	第33図 遺構外出土土器64
3 土製品54	第34図 遺構外出土土器65
4 石器75	第35図 遺構外出土土器66
5 動物遺存体79	第36図 遺構外出土土器67
6 アスファルト80	第37図 遺構外出土土器68
挿 図 目 次			
第1図 堂の前貝塚位置図2	第38図 遺構外出土土器69
第2図 堂の前貝塚の地形と路線予定		第39図 遺構外出土土器70
箇所及び発掘箇所3	第40図 遺構外出土土器71
第3図 土層柱状図4	第41図 遺構外出土土器72
第4図 グリッド設定図5	第42図 遺構外出土土器73
第5図 遺構配置図7	第43図 遺構外出土土器・土製品74
第6図 検出遺構・遺構出土遺物9	第44図 遺構外出土石器81
第7図 検出遺構・遺構出土遺物10	第45図 遺構外出土石器82
第8図 検出遺構11	第46図 遺構外出土石器83
第9図 検出遺構13	表 目 次	
第10図 遺構出土遺物14	第1表 第1号掘立柱遺構のピットの 規模及び形状・出土遺物21
第11図 検出遺構18	第2表 ピット出土石器一覧表55
第12図 検出遺構19	第3表 出土動物遺存体一覧表80
第13図 検出遺構22	第4表 遺構外出土石器一覧84
第14図 検出遺構・遺構出土遺物23	第5表 遺構外出土石器一覧85
第15図 検出遺構28	第6表 遺構外出土石器一覧86
第16図 検出遺構29	第7表 遺構外出土石器一覧87
第17図 検出遺構・遺構出土遺物30	第8表 遺構外出土石器一覧88
第18図 検出遺構・遺構出土遺物31	第9表 遺構外出土石器一覧89
第19図 検出遺構・遺構出土遺物32	第10表 遺構外出土石器一覧90
第20図 検出遺構34	第11表 遺構外出土石器一覧91
第21図 検出遺構・遺構出土遺物36		
第22図 検出遺構・遺構出土遺物38		
第23図 検出遺構・遺構出土遺物42		

I 調査に至る経過及び調査過程

調査は、「団体営農道整備事業農道久野立山線改良事業」に伴う緊急発掘調査である。

平成7年10月6日、同事業の実施にあたり事業主体者である陸前高田市長から、文化財保護法第57条の3第1項の規定に基づく発掘の通知が当教育委員会になされた。これを受けた当教育委員会では、工事予定地内の現地踏査等を行い、結果、事前の試掘調査が必要との判断から、現地調査書を添え、平成7年10月18日岩手県教育委員会事務局文化課に進達した。

平成7年10月23日、文化庁より確認調査（試掘）の指示があり発掘届出者へ通知した。その後、平成7年11月17日に試掘の依頼が事業主体者から当教育委員会になされた。これを受けた、岩手県教育委員会事務局文化課及び工事の担当課である当市農政課との三者間で協議を行ない、平成7年11月27日から試掘調査を開始した。

この試掘調査では、面積約274m²の調査区域を設定し、調査の結果、ピット6基と縄文土器を多量に含む遺物包含層等が検出されたため、平成7年3月11日に当教育委員会では、本調査が必要との見解を事業主体者に示した。

平成8年10月25日、この試掘の結果を受けて主体者側より本調査の依頼があり、本調査の実施に向け発掘の時期や規模、予算や交通規制等の最終的な調整を進めた。発掘調査は、予算事務や測量等の遅れから、調査着手の時期が大幅に遅れ冬季にずれ込んだ。このため、当初予定していた発掘面積約1,440m²を2カ年で調査することとし、平成8年度に480m²を（第一次調査）、残りを平成9年度（第二次調査）に実施することとした。

その後現場事務所の設営や土捨場の確保、電話の設置、発掘器材の購入等の準備をすすめ、11月1日には調査に係る道路（約400m）の全面通行止めの交通規制措置がとられ、11月5日より12月14日まで、1次発掘調査を実施した。調査の成果は、「堂の前貝塚発掘調査報告書1」にまとめた通りである。（注1）

次いで第二次発掘調査は、平成9年6月3日より8月17日まで行われ、その成果は今回報告する通りである。

（高橋和弥）

注1 佐藤正彦 熊谷賢 高橋和弥 「堂の前貝塚発掘調査報告書1 団体営農整備事業農道久野立山線改良工事」 陸前高田市教育委員会 1997年

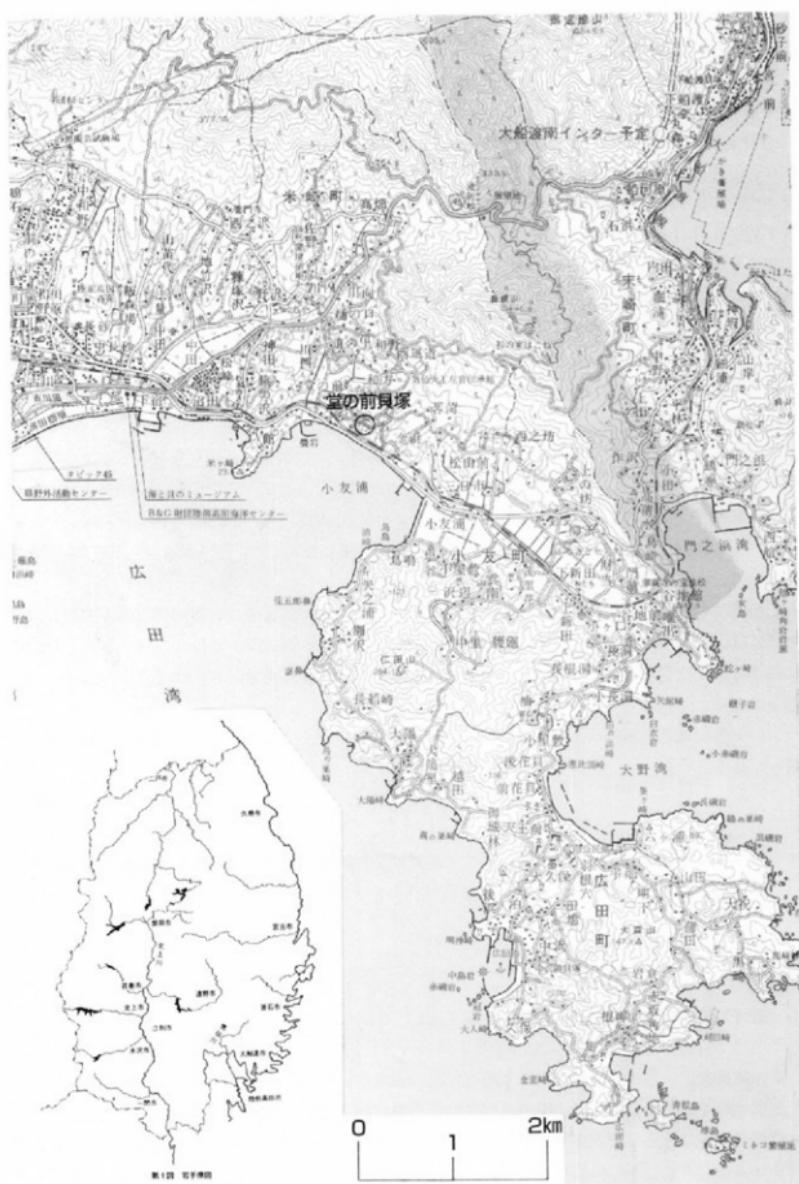
II 遺跡の立地と環境

1 遺跡の位置と周辺の地形（第1図～第2図）

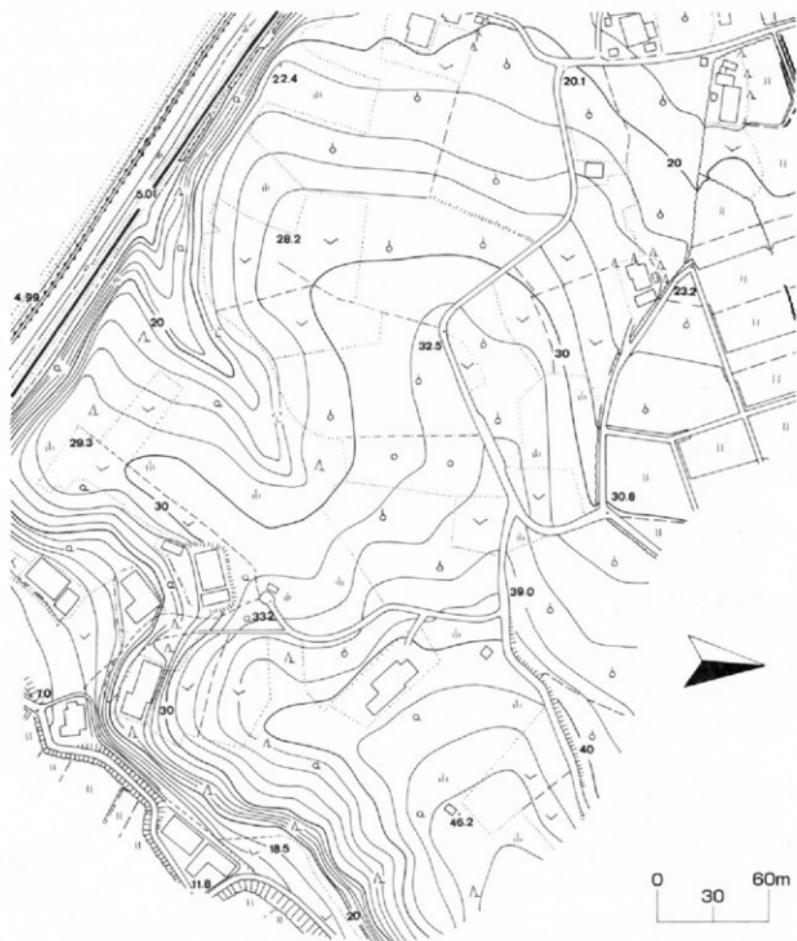
堂の前貝塚は、岩手県陸前高田市米崎町字堂の前地内に所在し、市の中心部から直線距離にして東北東へ約4km、JR大船渡線脇の沢駅より東へ約1.3kmの地点に位置している。

陸前高田市は岩手県の東南端に位置し、宮城県に隣接している。市境は、南は宮城県本吉郡唐桑町及び気仙沼市と、西は東磐井郡大東町、北は気仙郡住田町、東は大船渡市と隣接し、東南は太平洋に面している。

周辺の海岸線は、リアス式海岸特有の岬と湾が交互に連続する複雑な海岸線をなし、本市におい



第1図 堂の前貝塚位置図



第2図 堂の前貝塚の地形

では、広田半島が南東方向の太平洋に大きく突出し、西方には、湾口部約3.5km、湾奥まで約7kmの逆U字状の広田湾を形成している。広田湾は、三陸海岸のほぼ中央にあり、北は水上山(874.4m)、東は仁田山(254m)・大森山(147.2m)のそびえる広田半島、西は笠置長根山(519.9m)に囲まれ、湾口部を南に開いている。湾奥部には住田町北境の土倉峠に源を発し、南流する総延長40kmの気仙川が注ぎ、河口付近には沖積層の低地帯を形成しており、現在市街地となっている。

堂の前貝塚の位置する米崎町は、市域のはば東寄りに位置し、南は広田湾に面し、西は本市高田町、北は大船渡市、東は本市小友町に接している。面積は16.45km²で南北に長い町である。町の北

側には氷上山がそびえ、山より南に延びた斜面は、標高200m以上の地帯では傾斜の急な山地となっているが、200m以下では傾斜が緩く、斜面の前面は町を北東から南西方向に横切るように広田湾に注いでいる浜田川によって開拓され、高田町まで広がる長さ3kmほどの低地帯を形成している。この低地帯の東側には箱根山（標高446.8m）から南西方向に延びた傾斜の緩やかな丘陵が広がり、その一部は広田湾に突出し、米ヶ崎を形成している。

遺跡は、箱根山から南西方向に広がる丘陵の先端部にあり、標高20~30mである。遺跡の南側には広田湾が広がり、現海岸線から300mほど入った所にある。丘陵の北側には緩斜面が形成され、斜面下を勝木田川が西流し、周辺は低地となっており水田として利用されている。南側は、海蝕崖であり崖下を東西方向にJR大船渡線、県道大船渡陸前高田線が並行する形で通っている。

遺跡の所在する丘陵上は、幅員3mの未舗装道路が東西方向に丘陵を二分するように走るが、さほど宅地化は進んでおらず、リンゴなどの果樹が植栽され、一部畠地として利用されている。若干の宅地造成などによる現地の変化はあるものの、丘陵はほぼ原地形をとどめていると思われる。

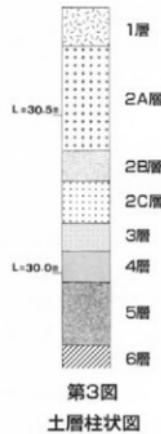
市内の多くの貝塚は明治・大正時代から発掘調査が行われてきたが、堂の前貝塚は昭和40年代まで調査されることなく、遺跡の規模や性格などは不明であった。そのため、規模や保存状態などを知るため昭和46年に発掘調査が行われた。その概要是、翌47年に「堂の前貝塚発掘調査概要」（注2）として報告されている。（熊谷 賢）

注2 及川淳・小野寺信吾・遠藤勝博 「堂の前貝塚発掘調査概要」 岩手県陸前高田市教育委員会 昭和47年3月

2 基本層序（第4図）

基本層序図は、B-J-3-2グリットの東壁を模式的に表したもので、該区は調査区において最も層厚のある箇所で、北西方向に傾斜している。層の堆積は、概算すると8層に大別される。層の概要については以下のとおりである。

- 1層 表土ないし耕作土。暗褐色（7.5YR3/3）を呈し、固い。粘性は弱く、厚さは10~15cmほどである。土器、礫を多量含む。
- 2A層 黒褐色（7.5YR2/2）を呈し、固い。粘性は弱く、厚さは斜面上位において20cmほどであるが、下位では最大厚35cmほどになる。土器、礫を多量含む。
- 2B層 黒褐色（7.5YR3/2）を呈し、固い。粘性は弱く、厚さは斜面上位において25cmほどであるが、下位では10cmほどに薄くなる。土器、礫を少量含む。
- 2C層 黒褐色（7.5YR2/2）を呈し、固い。粘性は強く棒状になる。厚さは10cmほどである。土器を少量含む。
- 3層 黒褐色（7.5YR3/2）を呈し、固い。粘性は弱く、厚さは10cmほどである。焼土を多量に含む。土器を少量含む。
- 4層 黒褐色（7.5YR2/2）を呈し、やや柔らかい。粘性は強く、棒状になる。厚さは10cmほどである。炭化物を多量に含む。土器を少量含む。



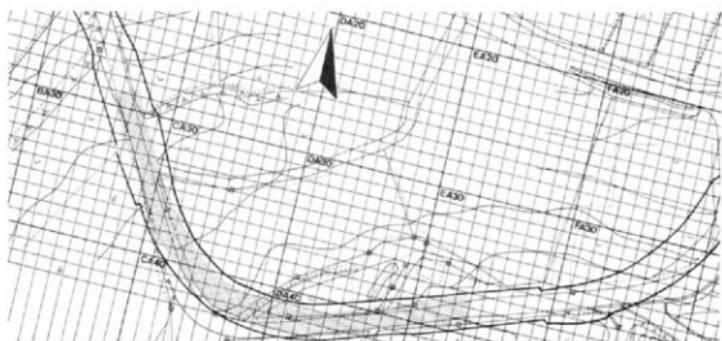
- 5層 暗褐色（7.5YR3/3）を呈し、やや柔らかい。粘性は強く、棒状になる。厚さは20~25cmほどである。土器を少量含む。
- 6層 地山である。花崗岩の風化土（真砂）である。暗褐色（7.5YR3/4）を呈し、柔らかい。粘性は強く、棒状になる。

III 調査と室内整理の方法

1 調査方法

- (1) 現道部分の碎石のみをバックホーンにより取り除く粗掘りを行い、その他はすべて手掘りによって掘り下げた。
- (2) 基軸線の設定は、任意の基準杭を原点として、それと他の基準杭の2点間を結んだ直線と、原点に直交する直線を基軸線とした。基準杭を結んだ基軸線は磁北より約2.3°西偏している。グリットの設定は、東西方向へ30m幅で、A～Jの大区画とし、これを更に10区画に細分し、A～Jのアルファベットで、南北方向へ同様に30m幅の大区画を1～10、11～20のようにアラビア数字によって10区画に細分した。グリットの名称は各区画内における北西方向の交点の杭によりA A 1、B A 1、C A 1のように表した。
- (3) 遺物の取り上げは原則として、遺構内出土のものは、遺跡記号（D N M）、出土年月日、遺構名、グリット名、出土層位を記録し、取り上げた。遺構外出土の遺物はグリットごとに、遺跡記号、出土年月日、出土層位を記録し取り上げた。グリット名は、各グリットの北西に位置する杭の番号を用いた。
出土遺物のうち、攪乱層出土のものと、土器細片を除く遺物は原則として、遺物番号を付け平面図や遺物カードに出土レベル、位置、層位を付して取り上げた。また、貝や骨などを含む土や焼土の一部は分析のためビニール袋に入れ、持ち帰った。

	A	A	B	A	C	A	D	A	E	F	G	H	I	J
1														
2														
3														
4														
5														
6														
7														
8														
9														
10														



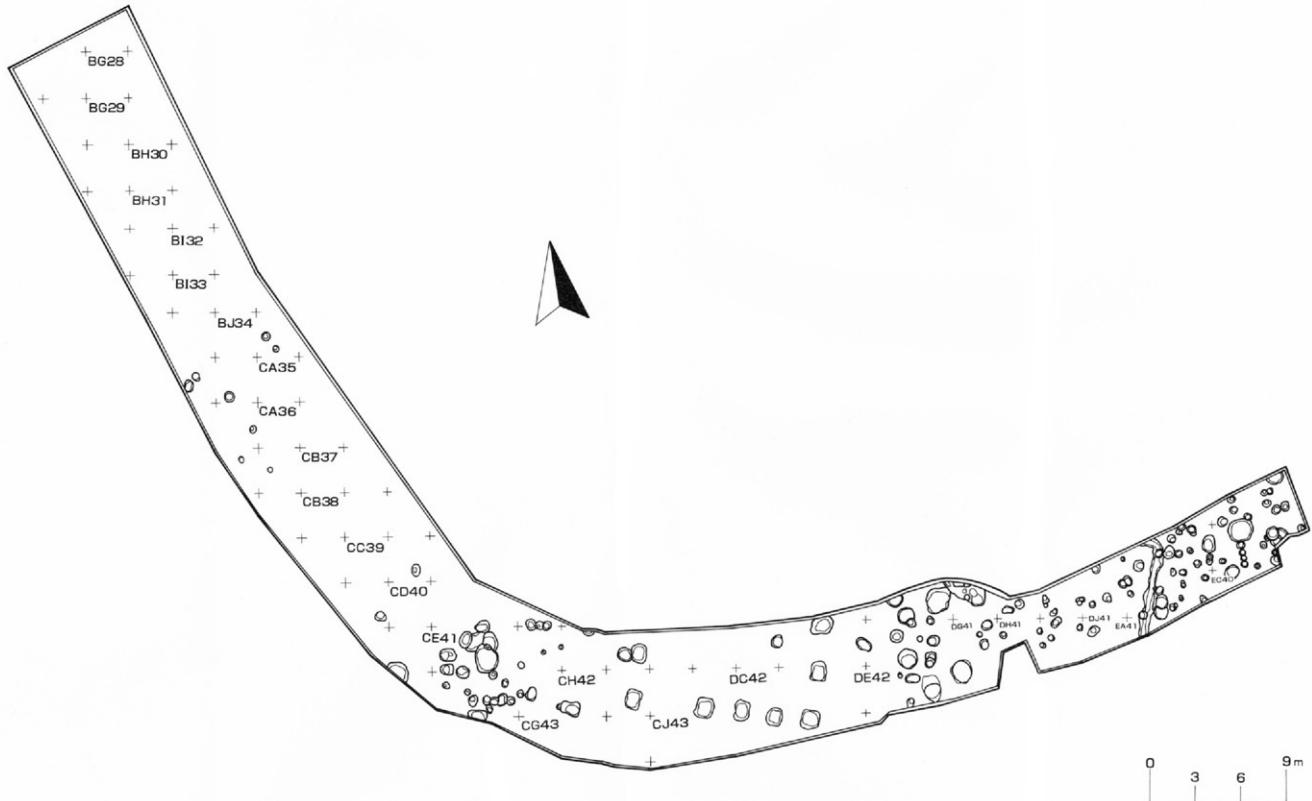
第4図 グリット設定図

- (4) 遺構の番号は、発掘時においてグリットごとに通し番号による遺構名を冠したが、整理の段階で、部分的に変更している。
- (5) 平面実測は、グリット軸に合わせた1mメッシュを基本とし1/10の縮尺を用いた。
- (6) 写真記録は、35mmモノクロとカラースライド各1台、6×7cmモノクロ1台を用い、各種埋土堆積状況や断面、遺物の出土状況、完掘状況などについて行った。

2 室内整理

野外調査で得られた実測図、写真、遺物の各種資料は、室内整理の段階で次のとおり処理、整理し報告書作成の基礎にするとともに資料化を行った。

- (1) 土器・土製品
発掘調査後、室内に持ち帰り整理を行った。57×39×13.5センチメートルのコンテナで約150箱程度の出土量がある。水洗後、各遺物に注記を行い、各出土地点、層位毎に仕分けを行い復元を行った。その後、拓本、実測、写真撮影の順で整理を行った。脆い遺物も多く見られ、酢酸ビニルエマルジョン系ボンドを用いて補強した。
- (2) 石器
発掘調査後、水洗、フレーク類からの石器の抜き取り、台帳登録を行い、実測、計測、写真撮影を行った。石器は、300点を越える出土が有り、データーはすべてコンピューターに入力し、管理した。
石材の分析は、外部の専門家に鑑定依頼をした。
- (3) 図面
図面は、遺構に関しては遺構カード、土器・土製品・石器に関してはそれぞれの遺物カードを作成した。遺構は縮小して、遺物は実大で実測、トレースを行い図化した。各実測図は遺構毎に分類し、原図点検の上、報告書作成に必要なものについては第2原図を作成し、トレース、コピーをし、それを用いた。
- (4) 写真
写真はネガと密着焼き付けのものをアルバムに貼付し整理し、カラースライドはスライドファイルに撮影順に収納した。



第5図 遺構配置図

IV 発見された遺構

平成9年度の調査において検出された遺構は、竪穴住居状遺構1基、掘立柱状遺構1基、土坑154基である。遺構の時期は、時期不明と縄文時代中期から後期にかけてである。遺構の分布は、特に標高33m付近に多く見られる。ここでは便宜的にグリットごとに説明を行う。

1 BI35・BJ35～37・CA34・CA37グリット検出遺構（第6図・第7図）

BI35・BJ35～37・CA34・CA37グリットにおいて検出した遺構は、地表面において検出したピット8基がある。検出したピットは、規則性のあるものは見られず、大きさも不均一で性格は不明である。

BI35-1ピット（第6図）

平面形は梢円形。規模は開口部が $68 \times 55\text{cm}$ 、底部が $50 \times 48\text{cm}$ 、深さ31cm。底面形は不整円形。壁は直壁状に立ち上がり、埋土は3層からなり、掘方・柱あたりが見られる。

【出土遺物】（第6図1・3、写真図版5）

出土遺物は、埋土中より磨滅の著しい土器片21点が出土した。2点を図示した。1は平縁深鉢の口縁部片である。口縁に平行する横位沈線と曲線文によって文様が描かれる。3は深鉢の体部片である。隆線と沈線によって文様が施され、隆線の交点には刺突文を有している。

BI35-2ピット（第6図）

平面形は梢円形。規模は開口部が $78 \times 63\text{cm}$ 、底部が $68 \times 43\text{cm}$ 、深さ33cm。底面形は梢円形。壁は直壁状に立ち上がる。埋土は3層からなり、自然堆積。底面に $45 \times 25\text{cm}$ の礫を有している。

【出土遺物】（第6図2、写真図版5）

出土遺物は、埋土中より土器片20点が出土した。1点を図示した。3は平縁深鉢の口縁部片である。口縁に平行する沈線を有し、沈線には刺突が施される。

BJ35-1ピット（第6図）

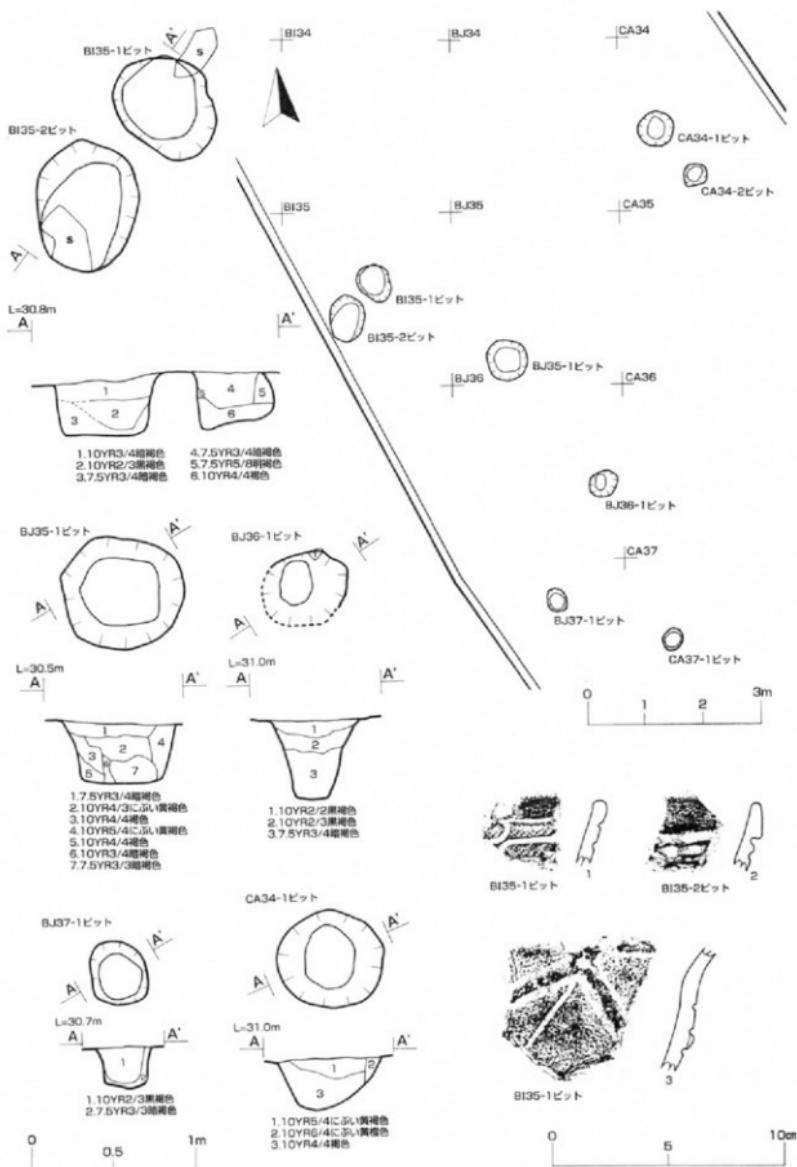
平面形は梢円形。規模は開口部が $76 \times 69\text{cm}$ 、底部が $48 \times 42\text{cm}$ 、深さ37cm。壁は、急傾斜で立ち上がり、埋土は7層からなり、掘方・柱あたりが見られる。出土遺物は埋土中より土器片18点が出土しているが、細片で磨滅が著しく割愛した。

BJ36-1ピット（第6図）

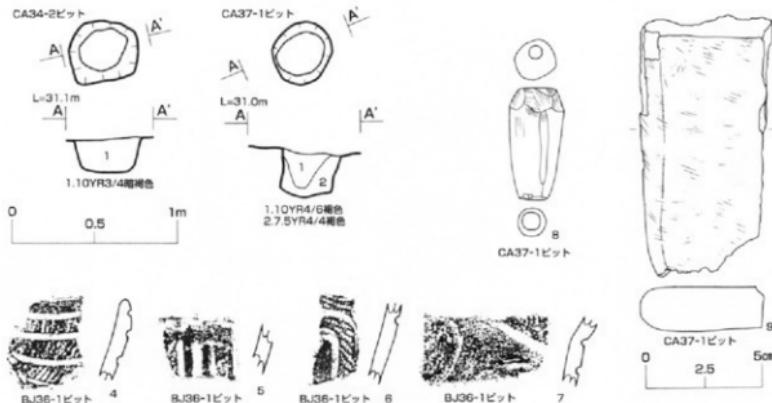
平面形は梢円形。規模は開口部が $55 \times 45\text{cm}$ 、底部が $27 \times 19\text{cm}$ 、深さ48cm。壁は、急傾斜で立ち上がる。埋土は3層からなり自然堆積である。

【出土遺物】（第7図4～7、写真図版5）

出土遺物は、埋土中より土器片41点が出土した。4点を図示した。4は波状口縁をなす深鉢の口縁部片である。口縁は内反する。口縁部には数条の横位沈線が施文されている。5～7は深鉢の体部片である。5は隆沈線、6・7は沈線によって曲線文が描かれている。



第6図



第7図

B J 37-1ピット (第6図)

平面形は楕円形。規模は開口部が $43 \times 37\text{cm}$ 、底部が $38 \times 26\text{cm}$ 、深さ 25cm 。壁は急傾斜で立ち上り、埋土は2層からなり、掘方・柱あたりが見られる。出土遺物は埋土中より土器片1点が出土しているが、細片で磨滅が著しく割愛した。

C A 34-1ピット (第6図)

平面形は楕円形。規模は開口部が $65 \times 61\text{cm}$ 、底部が $39 \times 30\text{cm}$ 、深さ 32cm 。壁は、西壁ではやや急傾斜で立ち上がっているが、東壁は緩やかに立ち上がる。埋土は3層からなり自然堆積である。出土遺物は埋土中より土器片3点が出土しているが、細片で磨滅が著しく割愛した。

C A 34-2ピット (第6図・第7図)

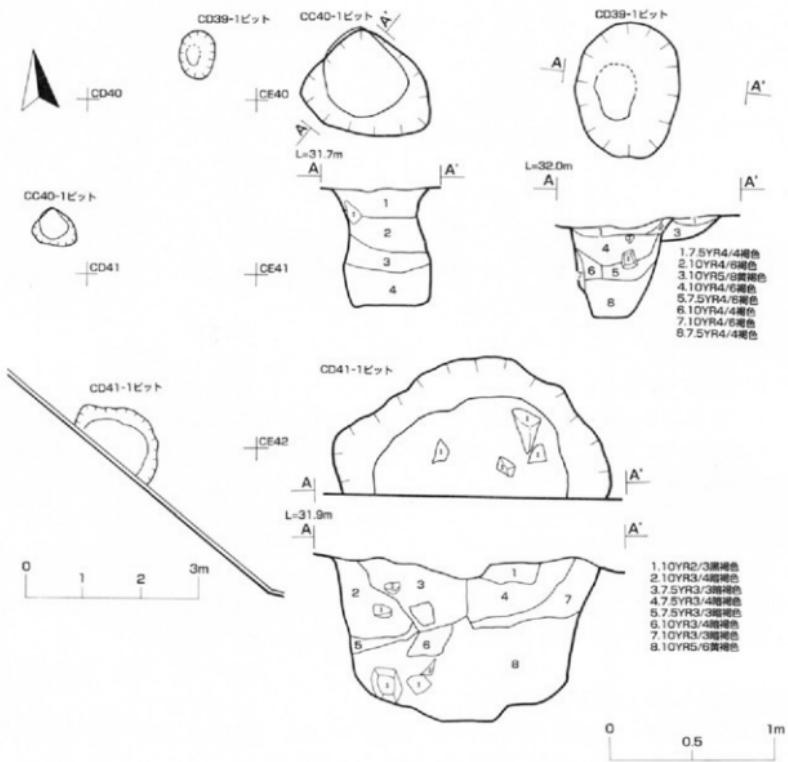
平面形は楕円形。規模は開口部が $46 \times 42\text{cm}$ 、底部が $31 \times 24\text{cm}$ 、深さ 20cm 。壁は、急傾斜で立ち上がっている。埋土は1層からなり自然堆積である。出土遺物は無い。

C A 37-1ピット (第6図・第7図)

平面形は楕円形。規模は開口部が $41 \times 34\text{cm}$ 、底部が $30 \times 24\text{cm}$ 、深さ 25cm 。壁は、直壁状に立ち上がる。埋土は2層からなり自然堆積である。

【出土遺物】 (第7図8・9、写真図版5)

出土した遺物は、土器と石器がある。土器は土器片60点、石器は、磨石1点・装身具1点が出土した。石器2点を図示した。9は磨石の破片である。表裏に擦痕を残し、すべすべしている。欠損のため全体の形状は不明であるが、石皿の可能性もある。8は装身具である。片面穿孔による孔が貫通している。



第8図

2 CC40・CD39・CD41グリット検出遺構（第8図）

CC40・CD39・CD41グリットの地山面において検出した遺構は、ビット3基である。形状・規模等、規則性のあるものは見られず、性格等不明である。

C C 4 0 - 1 ビット（第8図）

平面形は不整形。規模は開口部が $81 \times 63\text{cm}$ 、底部が $50 \times 40\text{cm}$ 、深さ 70cm 。断面形は頭部で締まり、胴部が膨らむフラスコ状を呈している。埋土は4層からなり自然堆積である。出土遺物は土器片16点（うち底部1点）があるが、磨滅が著しく割愛した。

C D 3 9-1 ピット (第8図、写真図版1-2)

平面形は楕円形。規模は開口部が $82 \times 64\text{cm}$ 、底部が $34 \times 26\text{cm}$ 、深さ 55cm 。壁は急に傾斜して立ち上がる。埋土は7層からなり自然堆積である。出土遺物は土器片9点があるが磨滅が著しく割愛した。

C D 4 1-1 ピット (第8図)

C D 4 1 グリットの地山面において検出した。全体の半分程が未発掘区に広がり、形状は不明である。規模は、開口部が 164cm 、底部が 119cm 、深さ 95cm である。壁は、急に傾斜して立ち上がっている。埋土は8層からなり人為的な堆積である。出土遺物は土器片57点があるが、割愛した。

3 CE41・CE42・CF40・CF41・CF42・CG40・CG41・CG42・CH41・CH42 グリット検出遺構

(第9図)

CE41・CE42・CF40・CF41・CF42・CG40・CG41・CG42・CH41・CH42 グリットで検出したピットは37基である。形状・規模等、規則性のあるものは見られず、性格等不明である。

C E 4 1-1・2 ピット (第9図)

C E 4 1-2 ピットがC E 4 1-1 ピットを切っている。形状は、共に楕円形を呈していると思われるが、規模は不明である。出土遺物は無い。

C E 4 1-3 ピット (第9図)

C E 4 1-4 ピットを切る。平面形は不整円。規模は開口部が $41 \times 33\text{cm}$ 、底部が $17 \times 15\text{cm}$ 、深さ 21cm である。埋土は5層からなり、掘方・柱あたりが見られる。

〔出土遺物〕 (第10図1・2、写真図版5)

出土した遺物は、土器と石器がある。土器は土器片18点、石器は石鎚1点が出土した。土器片1点と石鎚1点を示した。1は深鉢の体部片である。沈線と磨消繩文によって曲線文が描かれ、C F 4 1-4 ピット出土の土器片と接合した。2は基部が尖基をなす石鎚である。身部は二等辺三角形状をなし、側縁は外弧をなす。

C E 4 1-4 ピット (第9図)

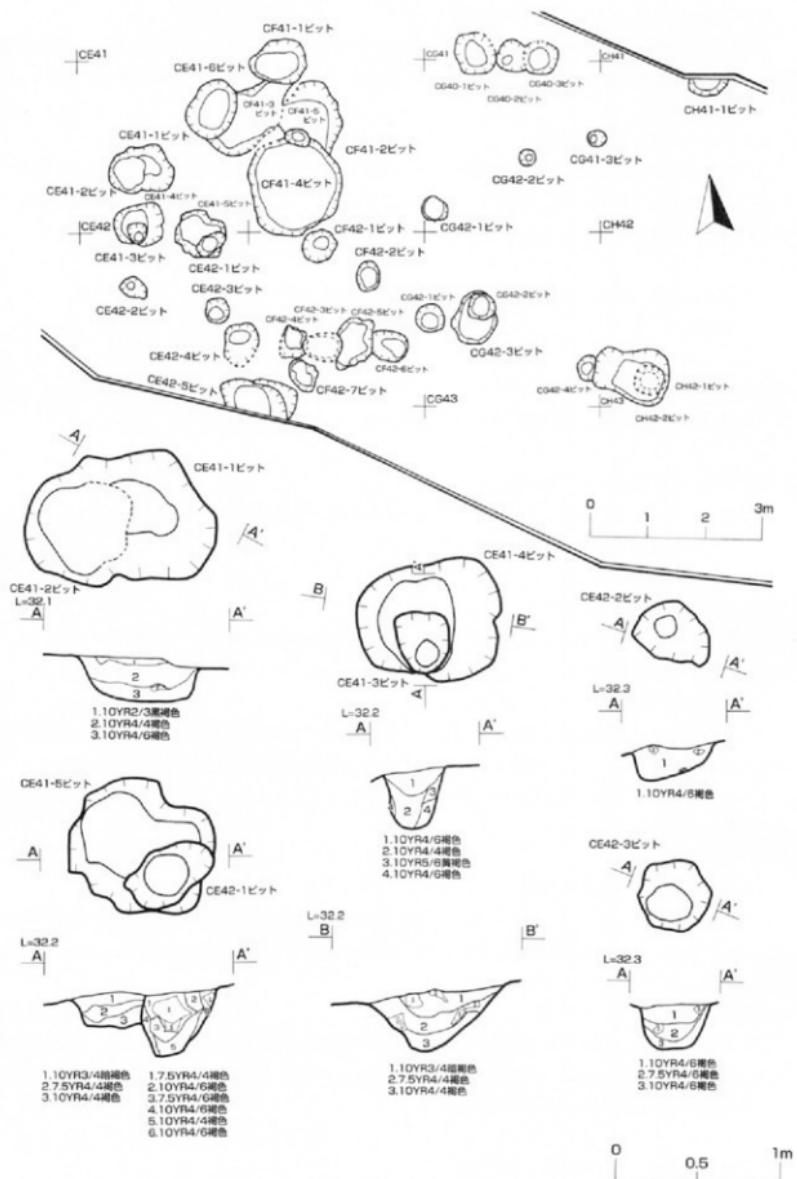
C E 4 1-3 ピットによって切られる。平面形は楕円形。規模は開口部が $88 \times 75\text{cm}$ 、底部が $55 \times 45\text{cm}$ 、深さ 35cm である。断面形は船底状で、埋土は3層からなり、自然堆積である。出土遺物は無い。

C E 4 1-5 ピット (第9図)

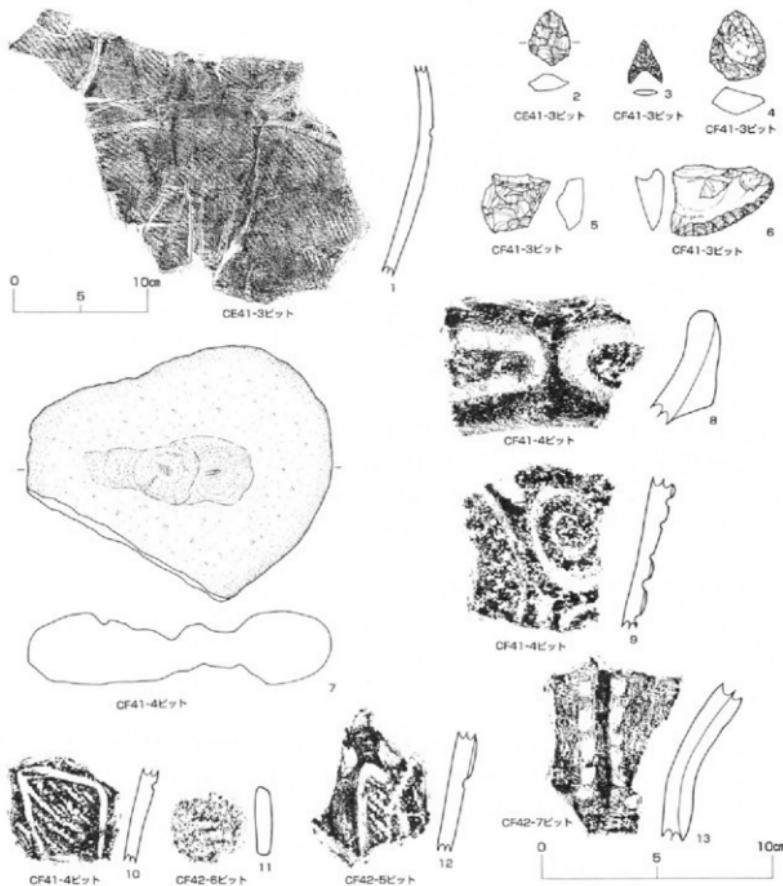
C E 4 2-1 ピットによって切られる。平面形は楕円形。規模は開口部が $83 \times 79\text{cm}$ 、底部が $80 \times 40\text{cm}$ 、深さ 26cm である。壁は、西壁では急に立ち上がっている。埋土は3層からなり自然堆積である。出土遺物は土器片39点があるが割愛した。

C E 4 1-6 ピット (第9図、第11図)

C F 4 1-3 ピットを切る。平面形は楕円形。規模は開口部が $90 \times 62\text{cm}$ 、底部が $60 \times 39\text{cm}$ 、深さ 25cm である。壁は、やや急に立ち上がっている。出土遺物は土器片16点があるが割愛した。



第9図



第10図

CF41-1ピット（第9図・第11図）

CF41-3ピットを切る。平面形は楕円形。規模は開口部が $82 \times 63\text{cm}$ 、底部が $60 \times 39\text{cm}$ 、深さ 16cm である。壁は、やや緩やかに立ち上がる。遺物の出土は無い。

CF41-2ピット（第9図・第11図）

CF41-4ピット・CF41-5ピットを切る。平面形は楕円形。規模は開口部が $44 \times 30\text{cm}$ 、底部が $22 \times 18\text{cm}$ 、深さ 39cm である。壁は急に立ち上がり、底面は東方向に傾斜している。埋土は2層からなり、自然堆積である。出土遺物は土器片5点があるが割愛した。

C F 4 1 - 3 ピット（第9図・第11図）

C F 4 1 - 1 ピット・C E 4 1 - 6 ピットに切られ、C F 4 1 - 5 ピットを切る。平面形は、不定形。規模は開口部が $180 \times 93\text{cm}$ 、底部が $155 \times 76\text{cm}$ 、深さ 35cm である。

【出土遺物】（第10図3～6、写真図版5）

出土遺物は、土器・石器がある。土器は、土器片169点（うち底部2点）が出土したが割愛した。石器は、石鎌1点・尖頭器1点・不定形石器2点が出土した。3は無茎の石鎌である。基部は抉れ、身部は二等辺三角形状で、側縁は外弧をなす。4は尖頭器である。基部は丸みを帯び、側縁は外弧をなす。5・6は不定形石器である。5は二辺に片刃の刃を有する。6は一辺に丸みを帯びた片刃の刃を有している。

C F 4 1 - 4 ピット（第9図・第11図）

C F 4 1 - 2 ピットに切られ、C F 4 1 - 5 ピットを切る。平面形は、ほぼ円形。規模は開口部が $178 \times 168\text{cm}$ 、底部が $144 \times 142\text{cm}$ 、深さ 78cm である。壁は直壁状に立ち上がり、底面は平坦。埋土は8層からなり、自然堆積である。

【出土遺物】（第10図7～10、写真図版5）

出土遺物は、土器・石器がある。土器は、土器片166点（うち底部2点）が出土し、3点を図示した。8は平縁深鉢の口縁部片である。口縁は内反する。隆沈線によって文様が意匠される。9・10は深鉢の体部片である。9は隆沈線によって渦巻き文が、10は沈線によって描かれている。石器は、石鎌1点・凹石1点が出土した。石鎌は欠損品で割愛した。7は凹石である。両面に窪みを有する。

C F 4 1 - 5 ピット（第9図・第11図）

C F 4 1 - 2 ピット・C F 4 1 - 3 ピット・C F 4 1 - 4 ピットによって切られる。平面形は不明で、規模は深さ 35cm である。

C E 4 2 - 1 ピット（第9図）

C E 4 1 - 5 ピットを切る。平面形は楕円形。規模は開口部が $57 \times 33\text{cm}$ 、底部が $28 \times 26\text{cm}$ 、深さ 32cm である。壁は、西壁では急に立ち上がっているが、東壁はやや傾斜が緩い。埋土は6層からなり、掘方・柱あたりが見られる。出土遺物は土器片20点があるが割愛した。

C E 4 2 - 2 ピット（第9図）

平面形は楕円形。規模は開口部が $49 \times 35\text{cm}$ 、底部が 14cm 、深さ 20cm である。断面形は船底状で、埋土は1層からなる。出土遺物は土器片26点があるが割愛した。

C E 4 2 - 3 ピット（第9図）

平面形は円形。規模は開口部が 45cm 、底部が $29 \times 22\text{cm}$ 、底深さ 28cm である。壁は急に立ち上がり、埋土は3層からなり自然堆積である。出土遺物は土器片7点があるが割愛した。

C E 4 2 - 4 ピット（第9図・第11図）

平面形は楕円形。規模は開口部 $77 \times 61\text{cm}$ 、底部 $37 \times 22\text{cm}$ 、深さ 44cm 。壁は南壁は急に立ち上がり、北壁はやや緩やかである。埋土は4層で自然堆積である。出土遺物は土器片17点があるが割愛した。

C E 4 2 - 5 ピット（第9図・第11図）

半分程が未発掘区に広がる。平面形は不明。規模は開口部で最大132cm、底部で75cm、深さ78cmである。壁は急に立ち上がる。底面は平坦。埋土は8層からなり自然堆積。出土遺物は無い。C E 4 2 - 5 ピットは、ピット1基を切っているが、残存する部分がほとんど無く、詳細は不明である。

C F 4 2 - 1 ピット（第9図・第11図）

平面形は楕円形、規模は開口部が 60×55 cm、底部が 28×21 cm、深さ31cmである。壁は緩やかに立ち上がっている。底面は平坦である。出土遺物は無い。

C F 4 2 - 2 ピット（第9図・第11図）

平面形は楕円形。規模は開口部が 53×41 cm、底部が 36×31 cm、深さ10cmである。壁は緩やかに立ち上がっている。底面は丸みを帯びる。埋土は3層からなり、自然堆積である。出土遺物は土器片29点（うち底部1点）があるが割愛した。

C F 4 2 - 3 ピット（第9図・第12図）

C F 4 2 - 4 ピット・C F 4 2 - 5 ピットを切る。平面形は楕円形。規模は開口部が 68×48 cm、底部が 54×38 cm、深さ23cmである。壁はやや急に立ち上がり、底面は凹凸が著しい。埋土は2層からなり、自然堆積である。出土遺物は土器片16点があるが割愛した。

C F 4 2 - 4 ピット（第9図・第12図）

C F 4 2 - 3 ピットによって切られる。平面形は不定形。規模は開口部が 60×38 cm、底部が 45×32 cm、深さ28cmである。壁は西壁では急に立ち上がり、底面は丸みを帯びる。埋土は3層からなり、自然堆積である。出土遺物は無い。

C F 4 2 - 5 ピット（第9図・第12図）

C F 4 2 - 3 ピットによって切られ、C F 4 2 - 6 ピットを切る。平面形は不定形。規模は開口部が 101×70 cm、底部が 77×51 cm、深さ22cmである。壁は東壁では緩やかに立ち上がり、底面は平坦である。埋土は6層からなり、自然堆積である。

【出土遺物】（第10図12、写真図版5）

出土遺物は土器片8点がある。1点を図示した。1は深鉢の体部片である。隆沈線によって文様を意匠している。部分的に朱の彩色が見られる。

C F 4 2 - 6 ピット（第9図・第12図）

平面形は楕円形。規模は開口部が 62×49 cm、底部が 46×17 cm、深さ47cmである。壁は西壁では急に立ち上がり、東壁はやや緩やかに立ち上がっている。底面は平坦である。埋土は4層からなり、人為的堆積で、掘方・柱あたりが見られる。

【出土遺物】（第10図11）

出土遺物は土器片28点と、土製円盤1点があり、土製円盤を図示した。側縁は全周研磨され楕円形に形作られている。

C F 4 2-7 ピット（第9図・第11図）

平面形は梢円形。規模は開口部が $62 \times 49\text{cm}$ 、底部が $46 \times 17\text{cm}$ 、深さ 47cm である。壁は西壁では急に立ち上がり、東壁はやや緩やかに立ち上がっている。底面は平坦である。埋土は6層からなり、人為的堆積で、掘方・柱あたりが見られる。

【出土遺物】（第10図13、写真図版5）

出土遺物は土器片38点がある。1点を図示した。13は深鉢の頸部片である。縦位の隆線の両側に、下方向からの半裁竹管による刺突文列を有している。

C G 4 0-1 ピット（第9図・第12図）

C G 4 0-2 ピットを切る。平面形は梢円形。規模は開口部が $73 \times 65\text{cm}$ 、底部が $48 \times 33\text{cm}$ 、深さ 23cm である。壁は緩やかに立ち上がり、底面はほぼ平坦である。埋土は4層からなり、人為的堆積で、掘方・柱あたりが見られる。出土遺物は土器片10点があるが割愛した。

C G 4 0-2 ピット（第9図・第12図）

C G 4 0-1 ピット・C G 4 0-3 ピットによって切られる。平面形は梢円形。規模は開口部が $56 \times 42\text{cm}$ 、底部が $18 \times 15\text{cm}$ 、深さ 26cm である。壁は緩やかに立ち上がり、底面は丸みを帯びている。埋土は2層からなり、自然堆積である。出土遺物は土器片14点があるが割愛した。

C G 4 0-3 ピット（第9図・第12図）

C G 4 0-2 ピットを切る。平面形はほぼ円形。規模は開口部が $59 \times 57\text{cm}$ 、底部が $38 \times 36\text{cm}$ 、深さ 27cm である。壁は緩やかに立ち上がり、底部はほぼ平坦である。埋土は2層からなり自然堆積である。出土遺物は無い。

C G 4 1-1 ピット（第9図・第12図、写真図版1-3）

平面形は梢円形で、規模は開口部が $47 \times 42\text{cm}$ 、底部が $37 \times 36\text{cm}$ 、深さ 25cm である。壁は急傾斜に立ち上がり、底部は平坦である。埋土は1層からなり人為的な堆積と思われ、礫を多量に含む。出土遺物は土器片5点があるが割愛した。

C G 4 1-2 ピット（第9図・第12図）

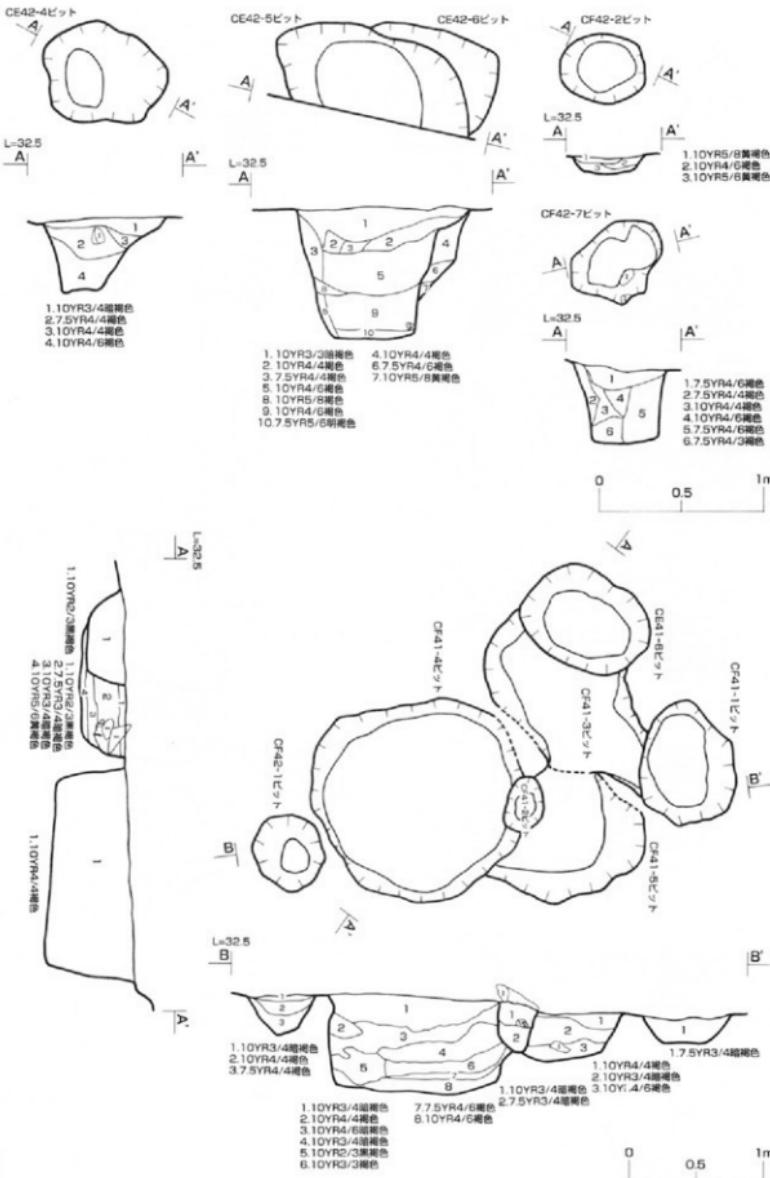
平面形は円形。規模は開口部が 31cm 、底部が 11cm 、深さ 46cm である。壁は直壁状に立ち上がり、底部は平坦である。出土遺物は土器片15点があるが割愛した。

C G 4 1-3 ピット（第9図・第12図）

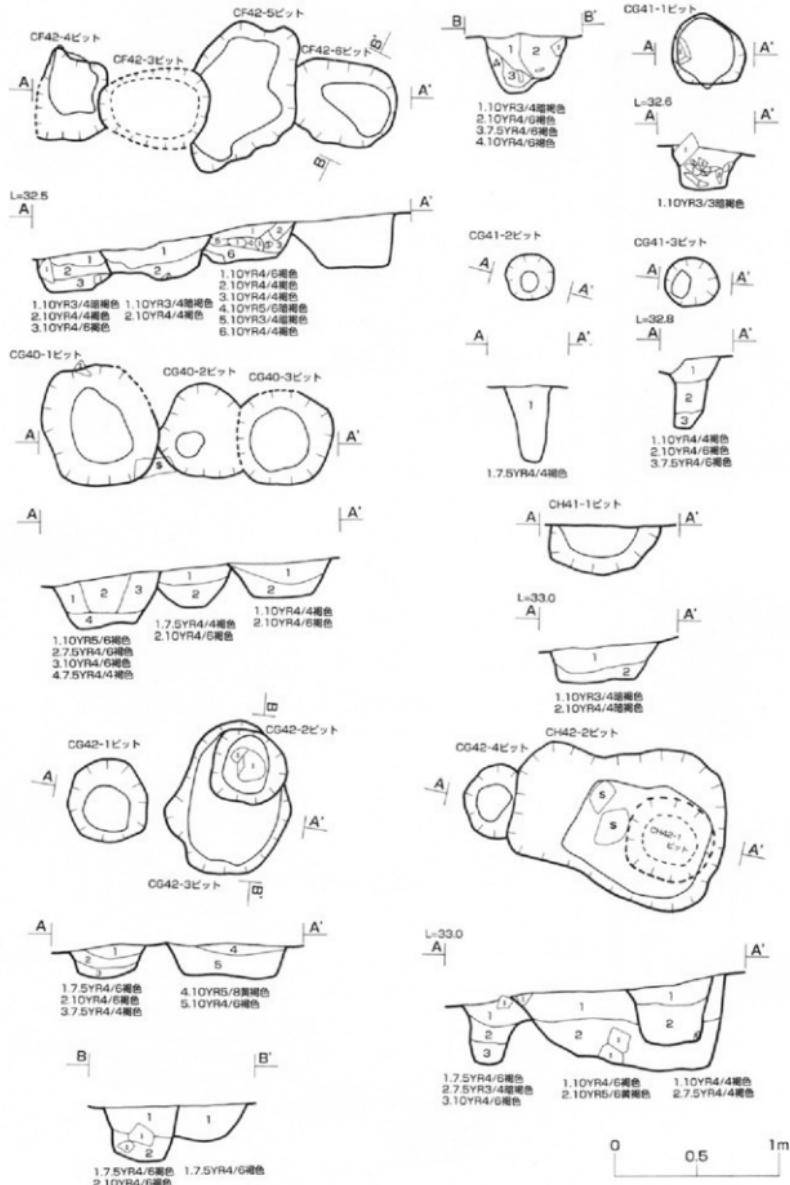
平面形は梢円形。規模は開口部 $34 \times 31\text{cm}$ 、底部 $16 \times 11\text{cm}$ 、深さ 41cm 。壁は直壁状に立ち上がり、底部は平坦である。埋土は3層からなり自然堆積である。出土遺物は土器片3点があるが割愛した。

C G 4 2-1 ピット（第9図・第12図）

平面形はほぼ円形。規模は開口部が $54 \times 49\text{cm}$ 、底部が $32 \times 28\text{cm}$ 、深さ 21cm である。壁は緩やかに傾斜し、底部はやや丸みを帯びている。埋土は3層からなり自然堆積である。出土遺物は土器片32点があるが割愛した。



第11図



第12図

CG 42-2 ピット (第9図・第12図)

CG 42-3 ピットを切る。平面形はほぼ円形。規模は開口部が $50 \times 47\text{cm}$ 、底部が $35 \times 28\text{cm}$ 、深さ 34cm である。壁は急に立ち上がり、底部はほぼ平坦で、東方向に緩やかに傾斜する。埋土は2層からなり自然堆積である。出土遺物は土器片15点があるが割愛した。

CG 42-3 ピット (第9図・第12図)

CG 42-2 ピットに切られる。平面形は梢円形。規模は開口部が $94 \times 60\text{cm}$ 、底部が $82 \times 56\text{cm}$ 、深さ 23cm である。壁は緩やかに立ち上がり、床面はほぼ平坦である。埋土は2層からなり自然堆積である。出土遺物は無い。

CG 42-4 ピット (第9図・第12図)

CH 42-2 ピットに切られる。平面形は梢円形。規模は開口部が 45cm 、底部が 23cm 、深さ 40cm である。壁はやや急に立ち上がっている。床面は丸みを帯びている。埋土は3層からなり自然堆積である。出土遺物は土器片8点があるが割愛した。

CH 41-1 ピット (第9図・第12図)

半分程が未発掘区に広がる。平面形は不明。規模は開口部で最大 68cm 、底部で 45cm 、深さ 22cm である。壁はやや急に立ち上がる。底面は平坦である。埋土は2層からなり、自然堆積である。出土遺物は無い。

CH 42-1 ピット (第9図・第12図)

CH 42-2 ピットを切る。平面形はほぼ円形。規模は開口部が $54 \times 50\text{cm}$ 、底部が $35 \times 29\text{cm}$ 、深さ 56cm である。壁は急に立ち上がり、底部はほぼ平坦である。埋土は2層からなり自然堆積である。出土遺物は土器片22点があるが割愛した。

CH 42-2 ピット (第9図・第12図)

CH 42-1 ピットに切られる。平面形は梢円形。規模は開口部が $135 \times 97\text{cm}$ 、底部が $83 \times 67\text{cm}$ 、深さ 40cm である。壁は東壁では急に立ち上がり、西壁は緩やかに傾斜している。底部はほぼ平坦で東方向に傾斜する。埋土は2層からなり自然堆積である。出土遺物は土器片113点があるが割愛した。

4 CI41・CI42・DA42・DB41・DB42・DB43・DC42・DC43・DD41グリット検出遺構

(第13図・第14図)

CI41・CI42・DA42・DB41・DB42・DB43・DC42・DC43・DD41グリットで検出した遺構は、ピット11基である。うち8基は、形状が梢円形あるいは隅丸方形で、木柱痕を有し、ピットの並び等、規則性が見られ掘建柱建物状の遺構として扱った。

掘建柱建物状遺構 (第13図・第14図・第1表、写真図版1-4~8)

CI41-2・CI42-1・DA42-1・DB42-1・DB43-1・DC43-1・DD41-1 ピットからなる掘建柱建物状の遺構である。ピットの一部は発掘区外に

拡がる。また、C I 4 2 - 1 ピットと D B 4 2 - 1 ピットの間には地山の大型礫が露出し、ピットは検出できなかった。方位は主軸が W - 1 6° - N で、検出した大きさは東西方向に 12.6m、南北方向に 6.3m である。各ピットの形状は隅丸方形で木柱痕を残している。木柱痕の大きさは、直徑 20cm ~ 60cm である。ピットの大きさは、長軸は 1m 10cm ~ 1m 40cm 程度、短軸は 90cm ~ 1m 40cm 程度で、深さは 50cm ~ 80cm 程度である。D B 4 2 - 1 ・ D B 4 3 - 1 ・ D C 4 2 - 1 ピットは木柱痕周辺に大型礫を入れ補強している。この遺構の性格及び時期は不明である。

[出土遺物]

土器（第14図-1・2、写真図版5）

各ピットより出土した土器片の数は第1表に示した通りである。大部分は細片で磨滅が著しい。C I 4 1 - 2 ピットより出土した土器片 2 点を図示した。1・2 は、深鉢の体部片である。1 は沈線によって、上半には縦位の弧線が、下半には区画文が描かれている。2 は隆線によって文様が描かれる。

石器（第14図-3~5、写真図版5）

石器は、D B 4 2 - 1 ピットより不定形石器 1 点、D C 4 2 - 1 ピットより尖頭器 1 点、D A 4 2 - 1 より磨製石斧 1 点が出土した。4 は両刃の刃を 3 辺にもつもので、刃は直線的に作り出されている。3 は尖頭器である。基部は丸味を帯び、側縁は外弧である。両面に一次剥離痕を残す。5 は磨製石斧である。基部は欠損する。側面の面取りはしっかりとおり、全面に擦痕を残す。

C I 4 1 - 1 ピット（第13図・第14図）

平面形は梢円形。規模は開口部が 98×78cm、底部が 86×65cm、深さ 16cm である。壁は西壁・東壁とも緩やかに傾斜。底部はほぼ平坦。埋土は 2 層からなり自然堆積。出土遺物は無い。

D B 4 1 - 1 ピット（第13図・第14図）

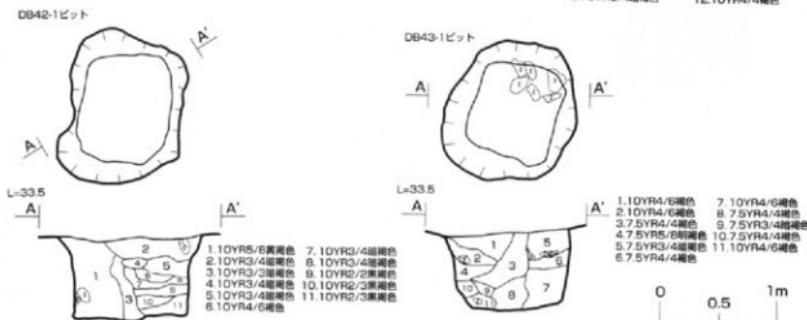
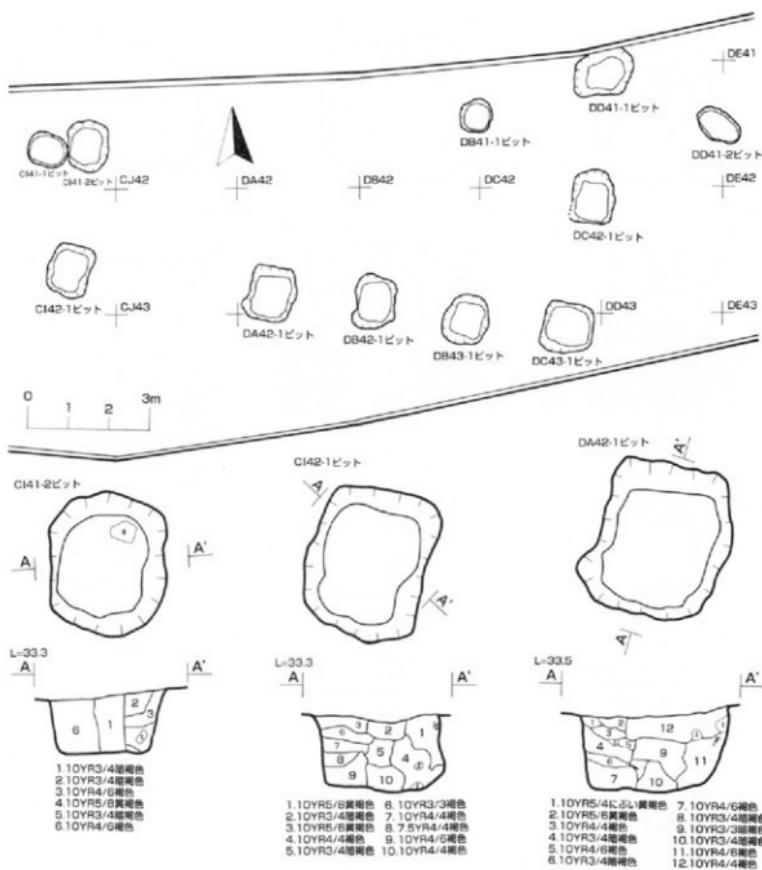
平面形は円形。規模は開口部が 84×81cm、底部が 66×61cm、深さ 33cm である。壁は西壁・東壁では急に立ち上がる。底部には凹凸がある。埋土は 2 層からなり自然堆積である。出土遺物は無い。

D D 4 1 - 2 ピット（第13図・第14図）

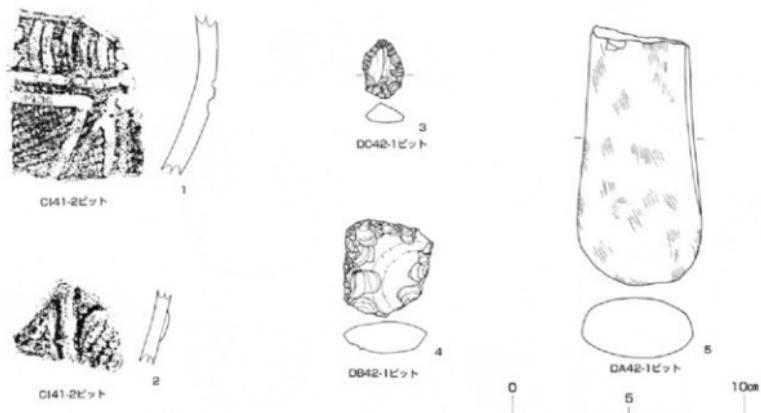
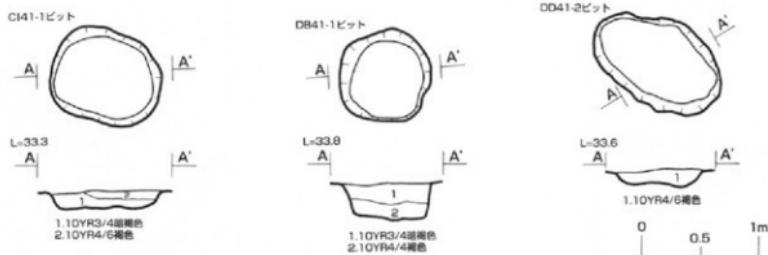
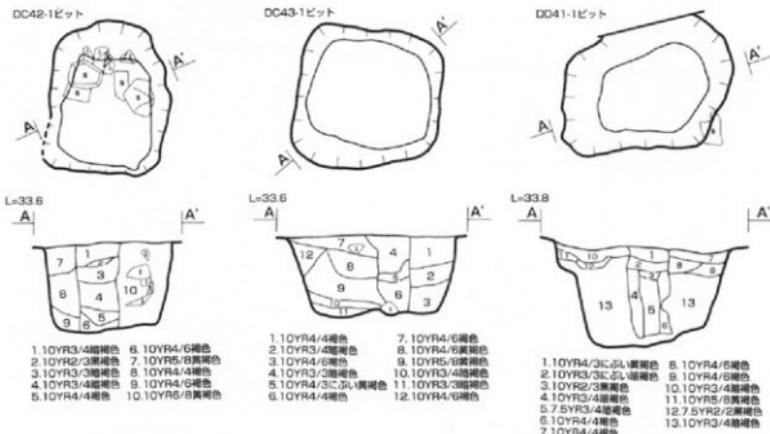
平面形は梢円形。規模は開口部が 119×76cm、底部が 108×60cm、深さ 17cm である。壁は東壁・西壁とも緩やかに傾斜。底部には凹凸がある。埋土は 1 層で自然堆積。出土遺物は無い。

第1表 第1号掘立柱遺構のピットの規模及び形状・出土遺物

ピット番号	形状	大きさ (m)			木柱痕 直徑 (m)	出土遺物	図版
		長軸	短軸	深さ			
C I 4 1 - 2	隅丸方形	1.20	1.03	0.51	0.24	土器片38、うち2点図示	第14図1・2
C I 4 2 - 1	隅丸方形	1.32	0.98	0.62	0.20	土器片27	
D A 4 2 - 1	隅丸方形	1.33	1.13	0.64	0.40	土器片27・磨製石斧1	第14図5
D B 4 2 - 1	隅丸方形	1.33	0.92	0.71	0.58	土器片6・不定形石器1	第14図4
D B 4 3 - 1	隅丸方形	1.13	1.07	0.70	0.61	土器片33	
D C 4 2 - 1	隅丸方形	1.28	1.06	0.83	0.33	土器片17・尖頭器1	第14図3
D C 4 3 - 1	隅丸方形	1.49	1.42	0.72	0.28	土器片31	
D D 4 1 - 1	梢円形	1.61	1.11	0.9	0.36	土器片24	



第13図



第14図

5 DE40～42・DF40～DF42・DG40～DG42・DH40・DH41・DI40・DI41グリット検出遺構
(第15図～第18図)

DE40～42・DF40～DF42・DG40～DG42・DH40・DH41・DI40・DI41グリットにおいて検出した遺構は、竪穴住居状遺構1基、ピット38基である。

(1) 竪穴住居状遺構 (第15図)

DF40・DG40グリットにおいて全体の1/3程度を検出した。残りは未発掘区に広がる。DG40-1・DG40-2・DG40-3ピットによって切られる。形状は楕円形と思われる。規模は開口部の最大幅が2m90cmで、深さは12cmである。壁は、西壁では緩やかに立ち上がり、東壁は急に立ち上がっている。周溝は西壁付近に長さ45cm程度が見られるのみである。床面は凹凸が著しい。ピットは床面において3基検出したが、主柱穴は不明である。出土遺物は土器片27点があるが割愛した。

(2) ピット

DE40-1ピット (第15図)

平面形は不明。未発掘区に広がる。規模は、開口部の最大幅は109cm、深さ63cmで、底面に開口部56×57cm・底部の径38×39cmの不定形の小ピットを有する。出土遺物はない。

DE40-2ピット・DE40-3ピット (第15図・第16図)

DE40-2ピットは、DE40-3ピットによって切られ、ともに部分的に攪乱を受ける。DE40-2ピットは、平面形は円形。規模は、開口部117cm、底部が103cm、深さ39cm。壁は、緩やかに傾斜。底面は平坦。埋土は2層からなり自然堆積。出土遺物は土器片6点があるが割愛した。DE40-3ピットは、平面形は不整円形。規模は開口部長軸が69cm、底部は39×29cm、深さ39cm。埋土は3層で人為的な堆積。出土遺物は土器片1点があるが割愛した。

DE41-1ピット (第15図)

平面形は円形。規模は、開口部が93×88cm、底部が47×40cm、深さ63cm。壁は、緩やかに傾斜。埋土は7層からなり、掘り方・柱あたりを有する。出土遺物は土器片5点があるが割愛した。

DE41-2ピット (第15図・第16図)

平面形は円形。規模は、開口部が133×128cm、底部が93×74cm、深さ32cm。壁は、緩やかに傾斜する。底面は平坦。埋土は3層からなり自然堆積。出土遺物は土器片8点があるが割愛した。

DE42-1ピット (第15図・第16図)

平面形は楕円形。規模は、開口部が32×26cm、底部が20×17cm、深さ28cm。壁は、急に立ち上がっている。埋土は1層からなり自然堆積。出土遺物はない。

DF40-1ピット (第15図)

平面形は不整楕円形。規模は、開口部が192×150cm、底部が155×135cm、深さ29cm。出土遺物は土器片11点があるが割愛した。

D F 4 1-1 ピット (第15図・第16図)

平面形は不整円形。規模は、開口部が 59×53 cm、底部が 37×25 cm、深さ36cm。壁は、緩やかに傾斜している。埋土は4層からなり自然堆積。出土遺物は土器片24点があるが割愛した。

D F 4 1-2 ピット (第15図・第16図)

平面形は不整円形。規模は、開口部が 39×36 cm、底部が 23×18 cm、深さ50cm。壁は、急に立ち上がりっている。埋土は2層からなり自然堆積。出土遺物はない。

D F 4 1-3 ピット (第15図・第16図)

平面形は楕円形。規模は、開口部が 74×67 cm、底部が 53×50 cm、深さ41cm。壁は、急に立ち上がっている。埋土は8層で掘り方・柱あたりが見られる。出土遺物は土器片29点が出土したが割愛した。

D F 4 1-4 ピット・D F 4 1-5 ピット (第15図・第16図)

D F 4 1-4 ピットがD F 4 1-5 ピットを切る。D F 4 1-4 ピットは、平面形は不整円形。規模は、開口部が 63×58 cm、底部が 50×41 cm、深さ39cm。壁は、緩やかに立ち上がっている。埋土は2層からなり自然堆積である。出土遺物はない。D F 4 1-5 ピットは、平面形は楕円形と思われる。規模は、開口部の長軸は105cm。壁は、北壁では緩やかに立ち上がり、南壁は急に立ち上がる。埋土は2層からなり、自然堆積である。出土遺物は、土器片11点があるが割愛した。

D F 4 2-1 ピット (第15図・第16図、写真図版2-1)

平面形は楕円形。規模は、開口部が 96×59 cm、底部が 88×48 cm、深さ26cm。壁は、緩やかに傾斜している。底面は平坦。埋土は2層で自然堆積である。出土遺物は、土器片3点があるが割愛した。

D F 4 2-2 ピット (第15図・第16図)

平面形は楕円形で段を有する。規模は、開口部が 62×48 cmで、段の下に、不整円形の開口部 35×39 cm、底部が 22×23 cmの掘り込みを有する。深さは52cmである。埋土は5層からなり自然堆積である。出土遺物は、土器片11点（うち底部1点）があるが割愛した。

D F 4 2-3 ピット (第15図・第16図)

平面形はほぼ円形。規模は、開口部が 119×110 cm、底部が 146×129 cm、深さ154cm。断面形は開口部直下で締まるフラスコ状を呈している。埋土は8層からなり自然堆積である。底面は平坦である。出土遺物は、土器片78点があるが割愛した。

D G 4 0-1 ピット・D G 4 0-2 ピット (第15図)

ともに堅穴住居状遺構を切り、D G 4 0-1 ピットが、D G 4 0-2 ピットを切る。D G 4 0-1 ピットは、規模は、開口部72cm、底部が 57 cm、深さ深さ30cm。壁は西壁では急に、東壁は緩やかに立ち上がる。底面に直径23cm、深さ10cmの小ピットを有する。出土遺物はない。D G 4 0-1 ピットは平面形は不明。規模は、残存する開口部の最大幅が50cm、深さ22cm。出土遺物はない。

D G 4 0 - 3 ピット (第15図)

竪穴住居状遺構を切る。平面形は梢円形。規模は、開口部36×32cm、底部22×15cm、深さ51cm。壁は直壁状。埋土は5層からなり、掘方・柱あたりを有している。出土遺物はない。

D G 4 1 - 1 ピット (第15図・第17図)

平面形は梢円形。規模は、開口部が74×66cm、底部が61×49cm、深さ15cm。壁は緩やかに傾斜している。埋土は3層からなり自然堆積である。底面は平坦である。出土遺物はない。

D G 4 1 - 2 ピット (第15図・第17図)

平面形は円形。規模は、開口部が38×31cm、底部が24×20cm、深さ31cmである。壁は直壁状。埋土は3層からなり、掘方・柱あたりを有している。出土遺物はない。

D G 4 1 - 3 ピット (第15図・第17図)

平面形は梢円形。規模は、開口部が67×51cm、底部が54×40cm、深さ36cmである。壁は急に傾斜している。埋土は8層からなり、掘方・柱あたりを有している。底面は平坦である。出土遺物はない。

D G 4 2 - 1 ピット (第15図・第17図、写真図版2-2)

平面形は円形。規模は、開口部が155×122cm、底部が153×132cm、深さ164cm。壁は、断面形が頸部直下で締まるフ拉斯コ状を呈している。埋土は15層からなり、自然堆積。底面は平坦で、小ピットを有している。

【出土遺物】(第17図1~7、写真図版5)

出土遺物は土器と石器がある。土器は、土器片167点が出土。3点を示した。1・2は平縁深鉢の口縁部片。口縁は、1は内反、2は外傾。文様は、1は頸部に横位の刺突を有する隆線が巡り、体部には繩文が施され、2は刺突文が施される。3は深鉢の体部片で隆線による区画文を有する。石器は、石錐3点・不定形石器1点が出土。4は基部が平基をなすもので、側縁は外弧をなし、両面に一次剥離痕を残す。5は基部が円基のもので、側縁は基部付近で膨らんでいる。6は基部に抉りを有するもので、側縁は外弧をなす。7は不定形石器である。片刃の直線状の刃を一辺に有している。

D H 4 0 - 1 ピット (第15図・第17図)

平面形は不整円形。規模は、開口部が67×63cm、底部が43×32cm、深さ64cm。壁は直壁状。埋土は5層で、掘方・柱あたりを有する。底面は平坦である。出土遺物は土器片4点があるが割愛した。

D H 4 0 - 2 ピット・D H 4 0 - 3 ピット (第15図・第17図)

D H 4 0 - 2 ピットがD H 4 0 - 3 ピットによって切られる。D H 4 0 - 2 ピットは、平面形は不明。規模は、残存部の開口部最大幅が36cm、底部最大幅が32cm。D H 4 0 - 3 ピットは、平面形は梢円形。規模は、開口部が61×41cm、底部が53×33cm、深さ26cm。壁は急に立ち上がる。埋土は2層からなり、掘方・柱あたりを有している。ともに出土遺物はない。

D H 4 1 - 1 ピット (第15図・第17図)

平面形は不整円形。規模は、開口部が48×45cm、底部が29×25cm、深さ44cm。壁は、西壁では直

壁状で、東壁はやや緩く立ち上がる。埋土は2層からなり自然堆積。出土遺物はない。

D H 4 1 - 2 ピット (第15図・第17図、写真図版2-3)

平面形はほぼ楕円形。規模は、開口部が42×38cm、底部が33×25cm、深さ44cm。壁は直壁状。埋土は3層からなり自然堆積である。出土遺物は土器片12点があるが割愛した。

D I 4 0 - 1 ピット・D I 4 0 - 2 ピット・D I 4 0 - 3 ピット (第15図・第18図、写真図版2-4)

D I 4 0 - 1 ピットが、D I 4 0 - 2 ピット・D I 4 0 - 3 ピットを切る。D I 4 0 - 1 ピットは、平面形はほぼ楕円形。規模は、開口部が57×26cm、底部が45×27cm、深さ45cm。壁は急に立ち上がっている。埋土は4層からなり自然堆積である。出土遺物は土器片4点があるが割愛した。D I 4 0 - 2 は、形状は不明。規模は深さ23cm。出土遺物はない。D I 4 0 - 3 ピットは、形状は楕円形。規模は深さ29cm。出土遺物はない。

D I 4 0 - 4 ピット・D I 4 0 - 5 ピット (第15図・第18図)

D I 4 0 - 4 ピットがD I 4 0 - 5 ピットを切る。D I 4 0 - 4 ピットは、平面形はほぼ楕円形。規模は、開口部が43×41cm、底部が30×21cm、深さ27cm。壁は緩やかに立ち上がっている。埋土は3層からなる。出土遺物はない。D I 4 0 - 5 ピットは、形状は不明。規模は深さ25cm。壁は緩やかに立ち上がっている。埋土は2層からなり自然堆積。ともに出土遺物はない。

D I 4 0 - 6 ピット・D I 4 0 - 7 ピット (第15図・第18図、写真図版2-5)

D I 4 0 - 6 ピットがD I 4 0 - 7 ピットを切る。D I 4 0 - 6 ピットは、平面形はほぼ楕円形。規模は、開口部が48×42cm、底部が29×20cm、深さ50cm。壁は直壁状。埋土は4層で、掘方・柱あたりを有する。出土遺物は土器片4点があるが割愛した。D I 4 0 - 7 ピットは、形状は不明。規模は深さ28cm。壁は直壁状に立ち上がっている。埋土は2層からなり自然堆積。出土遺物は土器片3点があるが割愛した。

D I 4 1 - 1 ピット (第15図・第18図、写真図版2-6)

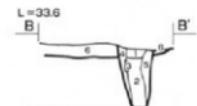
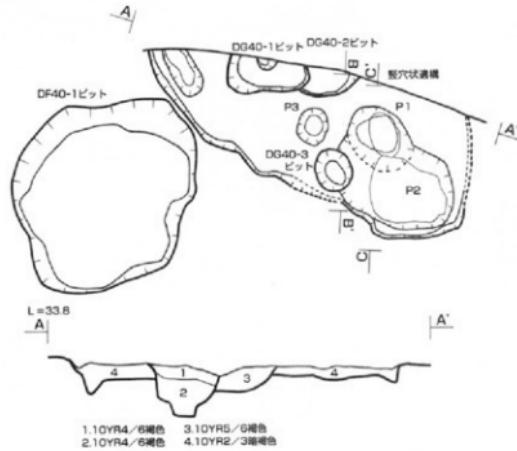
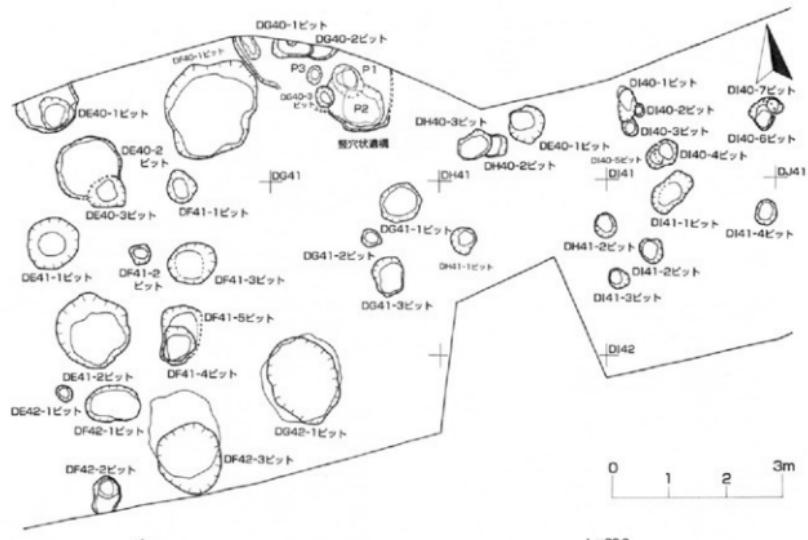
平面形はほぼ楕円形。規模は、開口部が83×45cm、底部が47×27cm、深さ53cm。壁は緩やかに立ち上がる。埋土は4層からなり自然堆積である。出土遺物は無い。

D I 4 1 - 2 ピット (第15図・第18図)

平面形はほぼ円形。規模は、開口部が45×42cm、底部が31×30cm、深さ39cm。壁は直壁状に立ち上がる。埋土は1層からなり自然堆積である。出土遺物は土器片3点があるが割愛した。

D I 4 1 - 3 ピット (第15図・第18図)

平面形はほぼ楕円形。規模は、開口部が38×31cm、底部が24×21cm、深さ21cm。壁は緩やかに立ち上がる。埋土は2層からなり自然堆積である。出土遺物は無い。



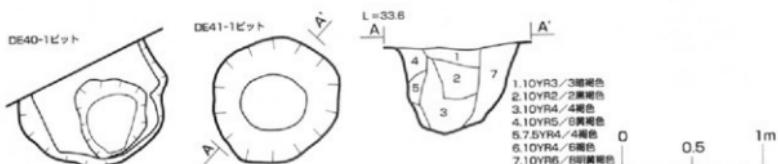
1.10YR3-/3暗褐色
2.10YR3-/4暗褐色
3.10YR4-/6褐色
4.7.SYR3-/4明褐色
5.10YR3-/4暗褐色
6.10YR5-/6明褐色

1.10YR5-/4に沿り黄褐色
2.10YR4-/6褐色
3.10YR5-/8黄褐色



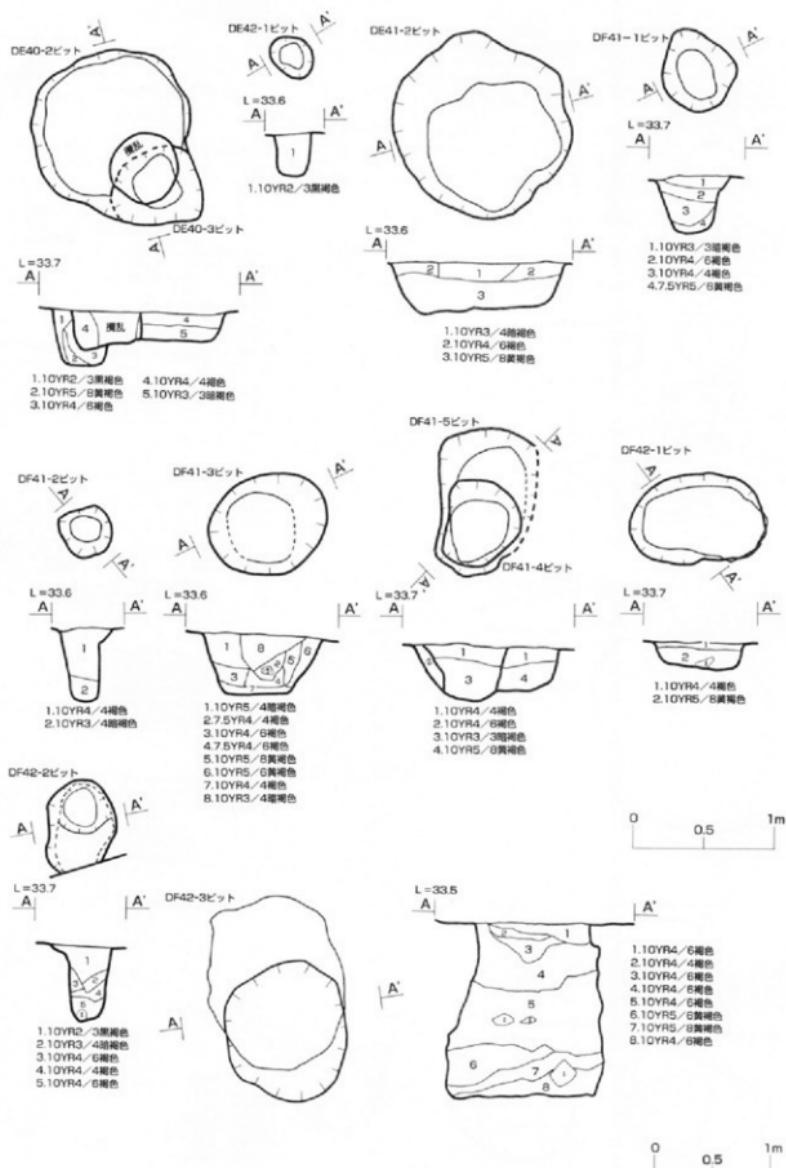
1.10YR4-/6褐色
2.10YR4-/5褐色
3.10YR5-/6褐色
4.10YR2-/3暗褐色

0 0.5 1m

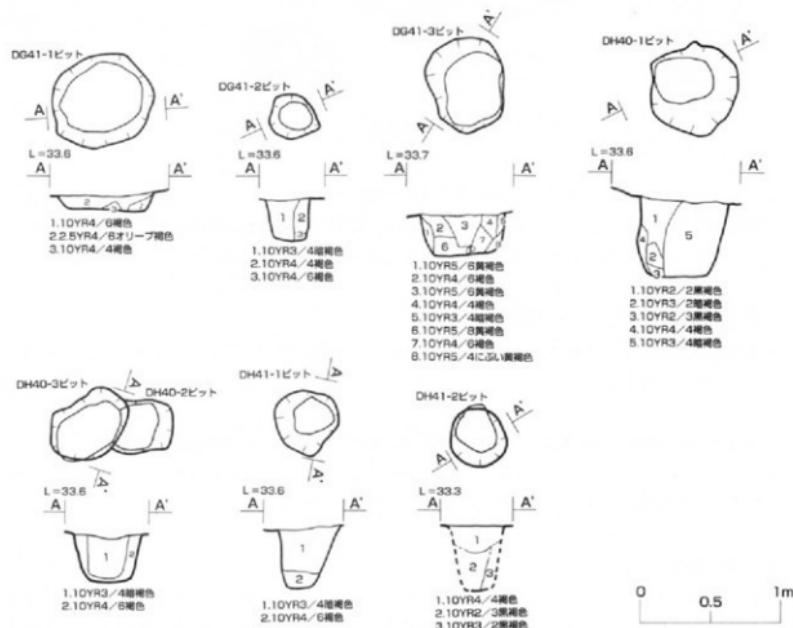
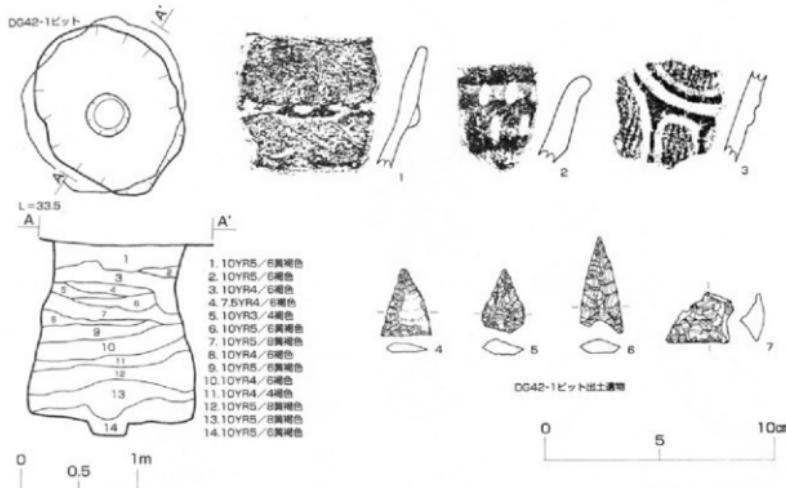


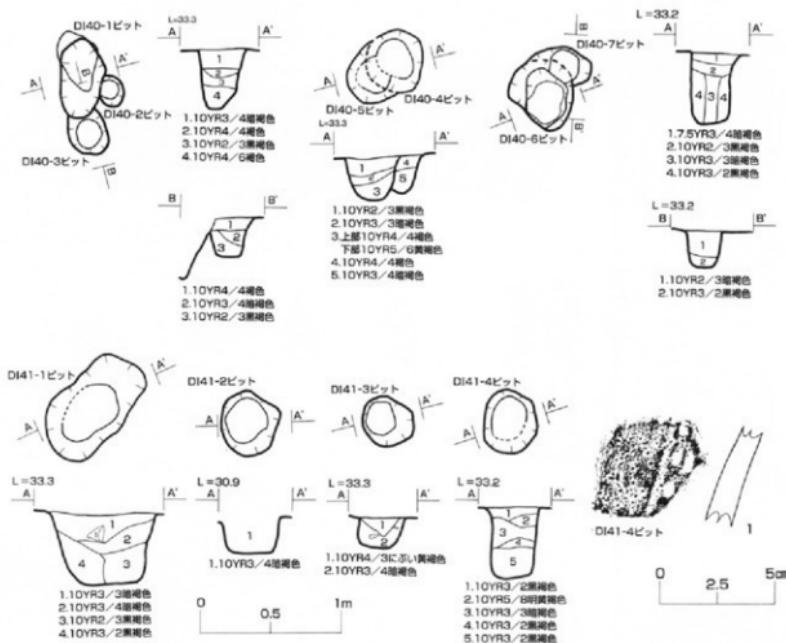
1.10YR3-/3暗褐色
2.10YR2-/4褐色
3.10YR4-/4褐色
4.10YR5-/6褐色
5.7.5YR4-/6褐色
6.10YR4-/6褐色
7.10YR6-/8明黃褐色

第15図



第16図





第18図

D I 4 1 - 4 ピット (第15図・第18図、写真図版2-7)

平面形はほぼ楕円形。規模は、開口部が $43 \times 37\text{cm}$ 、底部が $31 \times 24\text{cm}$ 、深さ 51cm 。壁は直壁状に立ち上っている。埋土は5層からなり自然堆積である。底面は丸みを帯びる。

【出土遺物】 (第18図1、写真図版5)

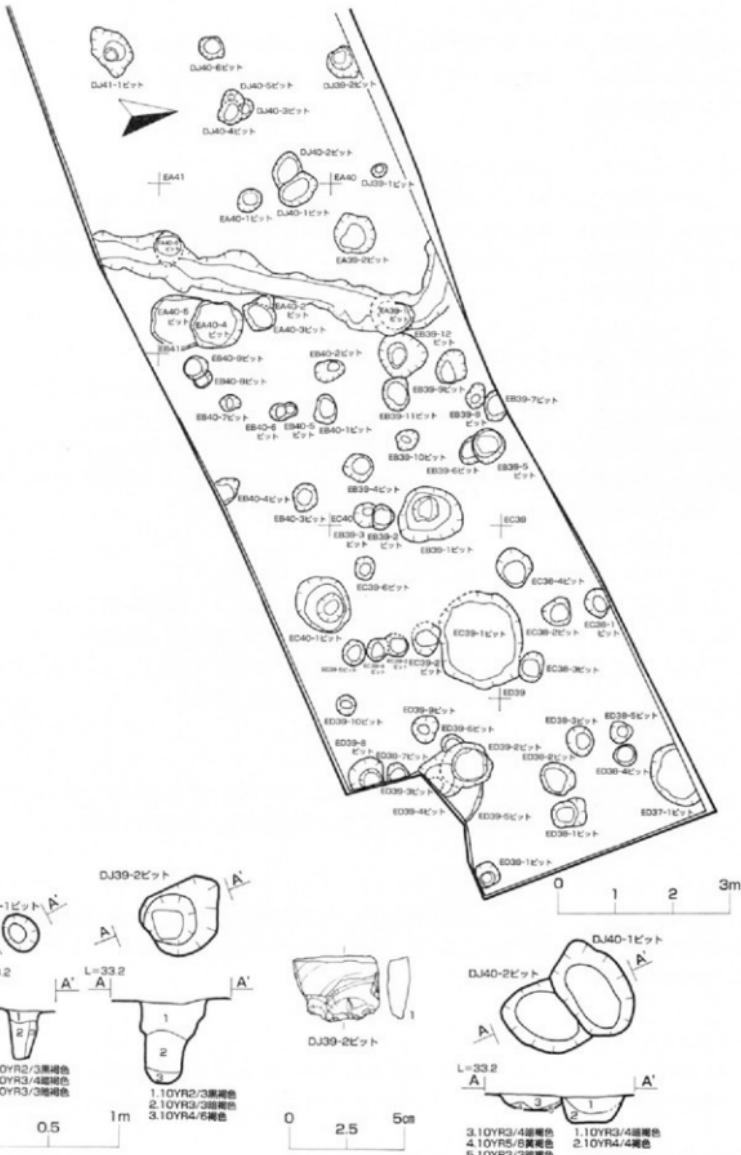
出土遺物は土器片4点である。1点を図示した。1は深鉢の体部片である。縦位の沈線と刺突文によって文様が描かれる。

6 DJ39~42、EA39・40、EB39・40、EC38~40、ED37~39グリット検出遺構 (第19図~24図)

DJ39~42・EA39・EA40・EB39・EB40・EC38~40・ED37~39グリットにおいて検出した遺構は、溝状遺構1条、土坑65基である。遺構の検出は、すべて地山面である。

(1) 溝状遺構 (第20図、写真図版2-8)

EA39~EA41グリットにおいて検出し、未調査区に広がる。EA39-1ピットに切られ、EA40-6ピットを切る。規模は、開口部の最大幅約80cm、底部の幅35cm、深さ30cm程度である。主軸はN-19°-Eで、EA39グリットにおいてはほぼ直角に西北西方向に折れ曲がっている。出土遺物は土器片39点があるが割愛した。



第19図

(2) ピット (写真図版4-1~3)

D J 3 9 - 1 ピット (第19図)

平面形は梢円形。規模は、開口部径27cm×23cm・底部径12cm・深さ36cm。底面は、やや丸みを帶びる。壁は直壁状に立ち上がる。埋土は3層で、掘方・柱あたりを有する。出土遺物は土器片1点があるが割愛した。

D J 3 9 - 2 ピット (第19図・第19図-1、写真図版5)

一部は未調査区に広がる。平面形は梢円形。規模は、開口部の長軸が60cm、底部径21cm、深さ57cmである。底面はやや丸みを帶び、壁は西壁では直壁状で、東壁は幾分傾斜している。埋土は3層からなり、自然堆積である。出土遺物は石器がある。1は不定形石器である。片刃の直線状の刃が一辺に作りだされている。

D J 4 0 - 1 · D J 4 0 - 2 ピット (第19図)

D J 4 0 - 1 ピットがD J 4 0 - 2 ピットを切る。D J 4 0 - 1 ピットは平面形は梢円形。規模は開口部径73×50cm、底部径53×29cm、深さ18cm。底面は平坦で、壁は傾斜している。埋土は2層からなり自然堆積。D J 4 0 - 2 ピットは平面形は梢円形。規模は開口部が65cm、底部径47×35cm、深さ11cm。底面は船底状で、壁は緩やかに傾斜する。埋土は2層からなり自然堆積である。両ピットとも出土遺物はない。

D J 4 0 - 3 · D J 4 0 - 4 · D J 4 0 - 5 ピット (第20図)

D J 4 0 - 4 ピットが、D J 4 0 - 3 ピット・D J 4 0 - 5 ピットを切り、D J 4 0 - 5 ピットがD J 4 0 - 3 ピットを切る。D J 4 0 - 4 ピットは、平面形は梢円形。深さは36cmである。底面は平坦で、壁は急傾斜で立ち上がる。D J 4 0 - 3 ピット・D J 4 0 - 5 ピットは形状は不明。規模はD J 4 0 - 5 ピットが深さ42cmである。3ピットとも出土遺物はない。

D J 4 0 - 6 ピット (第20図)

平面形は円形。規模は開口部径が42cm、底部径26cm、深さ47cm。底面は平坦で、壁は直壁状に立ち上がる。埋土は3層からなり自然堆積である。出土遺物は土器片3点があるが割愛した。

D J 4 1 - 1 ピット (第20図)

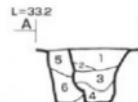
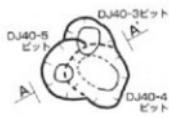
平面形は不整円形。規模は開口部径が48×45cm、底部径29×25cm、深さ44cm。底面は平坦で、壁は中位まで直壁状で、上位は傾斜している。埋土は8層からなり掘り方・柱あたりを有している。出土遺物はない。

E A 3 9 - 1 ピット (第20図)

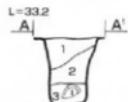
溝状造構を切る。平面形は不整円形。規模は深さ33cm。底面は平坦で、壁は傾斜している。埋土は5層からなり、一部擾乱を受けている。出土遺物は土器片7点があるが割愛した。

E A 3 9 - 2 ピット (第20図)

平面形は不整円形。規模は、開口部径が78×46cm、底部径72×39cm、深さ20cm。底面は船底状で、



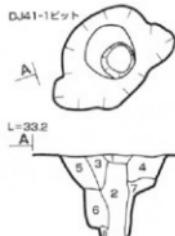
1.10YR2/3黒褐色
2.10YR2/3黒褐色
3.10YR2/2黒褐色
4.10YR3/4黒褐色
5.10YR3/4黒褐色
6.10YR2/3黒褐色
7.10YR3/4黒褐色



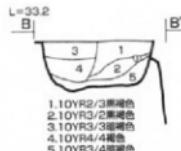
1.10YR2/3黒褐色
2.10YR4/4黒褐色
3.10YR3/3黒褐色



1.10YR2/3黒褐色
2.10YR4/4黒褐色
3.10YR4/6黒褐色



1.10YR2/3黒褐色
2.10YR3/4黒褐色
3.10YR4/6黒褐色
4.10YR2/3黒褐色



1.10YR2/3黒褐色
2.10YR3/2黒褐色
3.10YR3/3黒褐色
4.10YR4/4黒褐色
5.10YR3/4黒褐色



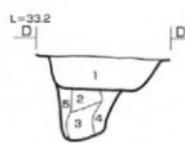
1.10YR3/4黒褐色
2.10YR4/6黒褐色
3.10YR4/4黒褐色



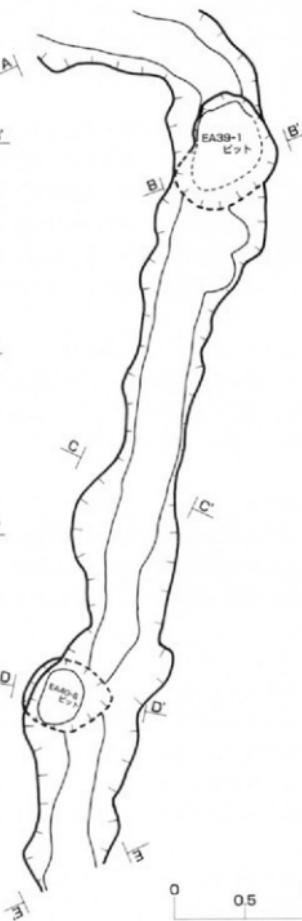
1.10YR2/3黒褐色
2.10YR3/4黒褐色
3.10YR3/3黒褐色
4.10YR3/4黒褐色
5.10YR4/4黒褐色



1.10YR2/3黒褐色
2.10YR2/3黒褐色
3.10YR4/4黒褐色



1.10YR3/4黒褐色
2.10YR4/6黒褐色
3.10YR3/3黒褐色
4.10YR2/3黒褐色
5.10YR2/3黒褐色



0 0.5 1m



1.10YR2/3黒褐色
2.10YR2/3黒褐色
3.10YR4/4黒褐色



1.10YR2/3黒褐色
2.10YR3/4黒褐色
3.10YR4/4黒褐色

第20図

壁は緩やかに傾斜している。埋土は6層からなり、大形礫を多く含む。出土遺物はない。

E A 4 0 - 1 ピット (第20図)

平面形は楕円形。規模は、開口部径が45×37cm、底部径28×23cm、深さ31cm。底面は船底状で、壁はやや傾斜している。埋土は3層からなり自然堆積である。出土遺物はない。

E A 4 0 - 2・E A 4 0 - 3 ピット (第21図)

E A 4 0 - 3 ピットがE A 4 0 - 2 を切る。E A 4 0 - 2 ピットは平面形は不明。残存部の規模は開口部が31cm、底部が23cmである。E A 4 0 - 3 ピットは、平面形は楕円形、規模は、開口部径が63×49cm、底部径49×30cm、深さ15cm。壁は、緩やかに傾斜している。埋土は2層からなり、自然堆積である。ともに出土遺物はない。

E A 4 0 - 4・E A 4 0 - 5 ピット (第21図)

E A 4 0 - 4 ピットがE A 4 0 - 5 ピットを切る。E A 4 0 - 4 ピットは、平面形は円形で、規模は、開口部径が90×75cm、底部径79×62cm、深さ25cm。底面は平坦で、壁は緩やかに傾斜している。埋土は6層からなり自然堆積である。E A 4 0 - 5 ピットは、平面形は円形と思われ、規模は開口部径98cm、底部径82cm、深さ16cmである。壁は緩やかに傾斜し、埋土は2層からなり自然堆積である。出土遺物は、E A 4 0 - 5 ピットより土器片2点が出土したが割愛した。

E A 4 0 - 6 ピット (第20図)

上位は溝状遺構に切られる。平面形は不明。規模は、底部径42×28cm、深さ59cm。壁は、西壁は直壁状を呈し、東壁は傾斜している。埋土は4層からなり、掘り方・柱あたりを有している。出土遺物は、土器片7点があるが割愛した。

E B 3 9 - 1 ピット (第21図)

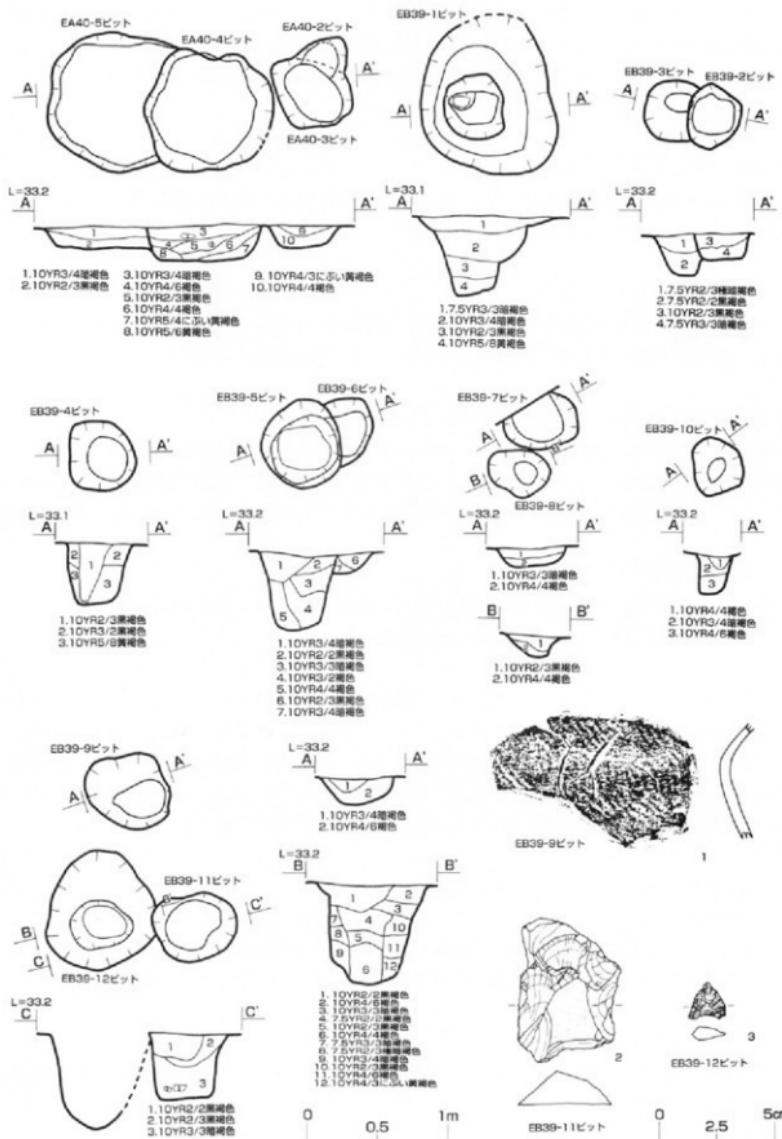
平面形は楕円形。規模は、開口部径113×91cm、底部径36×23cm、深さ56cm。壁は北壁では急に立ち上がり、開口部付近で緩やかに傾斜し、南壁では中段を有する。底面は平坦で、底面には開口部径20×12cm、底部径13×9 cmの小穴を有する。埋土は4層からなり自然堆積である。出土遺物はない。

E B 3 9 - 2・E B 3 9 - 3 ピット (第21図)

E B 3 9 - 2 ピットがE B 3 9 - 3 ピットを切る。E B 3 9 - 2 ピットは平面形は楕円で、規模は開口部径が46×39cm、底部径32×25cm、深さ18cm。壁は傾斜し、底面は平坦である。埋土は2層からなり自然堆積。E B 3 9 - 3 ピットは、規模は、開口部径が43cm、底部径19×14cm、深さ28cm。壁は緩やかに傾斜する。底面は船底状である。埋土は2層からなり自然堆積。出土遺物はない。

E B 3 9 - 4 ピット (第21図)

平面形は不整円形。開口部径が53×48cm、底部径32×29cm、深さ43cm。壁は西壁では直壁状であるが、東壁は幾分傾斜する。底面は平坦。埋土は3層からなり、掘り方・柱あたりを有している。出土遺物は、土器片9点があるが割愛した。



第21図

E B 3 9 - 5・E B 3 9 - 6 ピット (第21図)

E B 3 9 - 5 ピットが E B 3 9 - 6 ピットを切る。E B 3 9 - 5 ピットは平面形は円形。規模は開口部径が 62×60 cm、底部径 38×30 cm、深さ 70 cm。壁は幾分傾斜する。埋土は 5 層からなり人為的な堆積。E B 3 9 - 6 ピットは平面形は不明。残存部の規模は開口部が 43 cm、底部 28 cm、深さ 21 cm。埋土は 2 層からなり自然堆積。ともに出土遺物はない。

E B 3 9 - 7 ピット (第21図)

平面形は不明。規模は開口部径が 53 cm、底部径 34 cm、深さ 18 cm。底面は平坦。壁は緩やかに立ち上がる。埋土は 2 層からなり自然堆積。出土遺物はない。

E B 3 9 - 8 ピット (第21図)

平面形は楕円形。規模は開口部径が 45×28 cm、底部径 18×13 cm、深さ 15 cm。壁は緩やかに立ち上がる。埋土は 2 層からなり自然堆積。出土遺物は、土器片 4 点があるが割愛した。

E B 3 9 - 9 ピット (第21図・第21図-1、写真図版 5)

平面形は不整円形。規模は開口部径が 64×49 cm、底部径 38×24 cm、深さ 20 cm。底面は舟底状で、壁は緩やかに立ち上がる。埋土は 2 層からなり自然堆積。出土遺物は、土器片 5 点が出土し、1 点を図示した。1 は深鉢の体部片である。断面形は「く」の字状に屈折し、文様は全体に地文が施される。

E B 3 9 - 10 ピット (第21図)

平面形は不整円形。規模は開口部径が 43×37 cm、底部径 19×10 cm、深さ 31 cm。壁は急に立ち上がっている。埋土は 3 層からなり自然堆積。出土遺物はない。

E B 3 9 - 11・E B 3 9 - 12 ピット (第21図、写真図版 3-1~3)

E B 3 9 - 11 ピットが E B 3 9 - 12 ピットの一部を切る。E B 3 9 - 11 ピットは平面形は楕円形。規模は開口部径が 60×46 cm、底部径 42×34 cm、深さ 40 cm。埋土は 3 層からなり自然堆積。E B 3 9 - 12 ピットは平面形は不整円形。規模は開口部径が 84×75 cm、底部径 34×24 cm、深さ 81 cm。壁は急に傾斜している。埋土は 12 層からなり人為的な堆積で、掘り方・柱あたりを有する。

〔出土遺物〕 (第21図-2・3、写真図版 5)

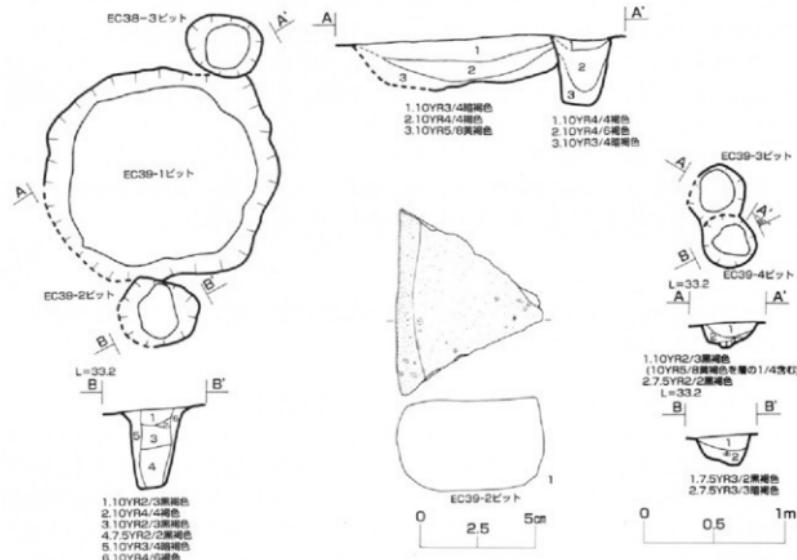
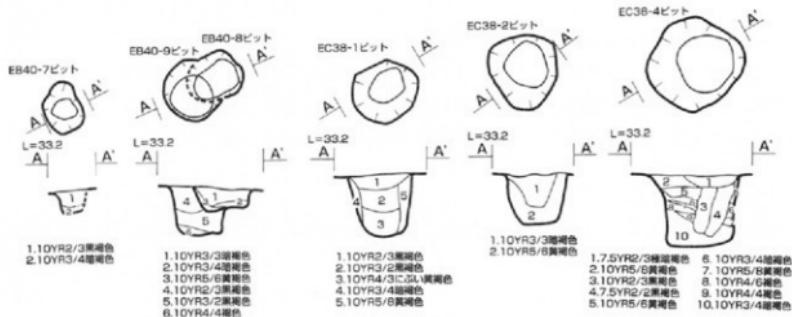
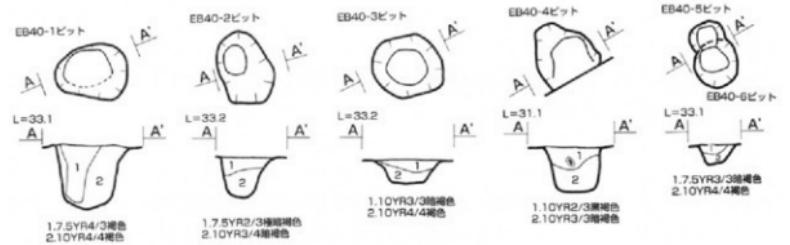
出土遺物は、E B 3 9 - 11 ピットより、土器片 1 点・不定形石器 1 点、E B 3 9 - 12 ピットより、土器片 4 点・石錐 1 点が出土した。石錐 1 点・不定形 1 点を図示した。2 は不定形石器である。一辺に直線状な両刃の刃を有している。3 は基部に抉りを有する石錐である。側縁は外弧をなす。

E B 4 0 - 1 ピット (第22図)

平面形は不整円形。規模は開口部径が 58×41 cm、底部径 35×27 cm、深さ 43 cm。壁は幾分傾斜する。底面は船底状。埋土は 2 層からなり、掘り方・柱あたりを有する。出土遺物はない。

E B 4 0 - 2 ピット (第22図)

平面形は楕円形。規模は開口部径 51×36 cm、底部径 20×16 cm、深さ 28 cm。壁は西壁は直壁状、東



第22図

壁は緩やかに傾斜する。埋土は2層で、自然堆積。出土遺物は土器片3点があるが割愛した。

E B 4 0 - 3 ピット (第22図)

平面形は楕円形。規模は開口部径52×46cm、底部径21×26cm、深さ16cm。壁は緩やかに傾斜。埋土は2層で、自然堆積。出土遺物はない。

E B 4 0 - 4 ピット (第22図)

未調査区へと広がる。平面形は不明。規模は、開口部径41cm、底部径26cm、深さ31cm。壁は直壁状に立ち上がる。埋土は2層からなり自然堆積。出土遺物はない。

E B 4 0 - 5・E B 4 0 - 6 ピット (第22図)

E B 4 0 - 6 ピットがE B 4 0 - 5 ピットを切る。E B 4 0 - 6 ピットは平面形は楕円。規模は開口部径33×31cm、底部径21×18cm、深さ14cm。壁は緩やかに傾斜。埋土は2層からなり自然堆積。E B 4 0 - 5 ピットは、規模は、開口部径25cm、底部径16cm。ともに出土遺物はない。

E B 4 0 - 7 ピット (第22図)

平面形は楕円形。規模は開口部径35×26cm、底部径19×13cm、深さ16cm。壁は直壁状。埋土は2層で、自然堆積。出土遺物はない。

E B 4 0 - 8・E B 4 0 - 9 ピット (第22図)

E B 4 0 - 8 ピットがE B 4 0 - 9 ピットを切る。E B 4 0 - 8 ピットは平面形は楕円形。規模は開口部径32×22cm、底部径33×21cm、深さ12cm。壁は幾分傾斜する。底面は平坦。埋土は3層からなり自然堆積。E B 4 0 - 9 ピットは、平面形は円形。規模は、開口部径41cm、底部径31cm、深さ34cmである。壁は幾分傾斜する。底面はほぼ平坦。埋土は3層からなり自然堆積。ともに出土遺物なし。

E C 3 8 - 1 ピット (第22図)

平面形は楕円形。規模は開口部径49×41cm、底部径28×20cm、深さ45cm。壁は幾分傾斜する。底面は船底状。埋土は5層からなり掘り方・柱あたりを有する。出土遺物はない。

E C 3 8 - 2 ピット (第22図)

平面形は不整円形。規模は開口部径53×49cm、底部径32×30cm、深さ35cm。壁は幾分傾斜する。底面は平坦。埋土は2層で、自然堆積。出土遺物はない。

E C 3 8 - 3・E C 3 9 - 1・E C 3 9 - 2 ピット (第22図・写真図版3-4)

E C 3 8 - 3 ピット・E C 3 9 - 2 ピットが、E C 3 9 - 1 ピットの一部を切る。E C 3 8 - 3 ピットは平面形は楕円形。規模は開口部径55×43cm、底部径36×31cm、深さ46cm。壁は幾分傾斜する。埋土は3層で自然堆積。E C 3 9 - 2 ピットは、平面形は楕円形。規模は開口部径58×52cm、底部径39×27cm、深さ56cm。壁は幾分傾斜する。底面は平坦。埋土は6層からなり掘り方・柱あたりを有する。E C 3 9 - 1 ピットは、平面形は円形。規模は開口部径175×165cm、底部径143×132cm、深さ35cm。壁は緩やかに傾斜。底面はほぼ平坦。埋土は3層からなり自然堆積。

[出土遺物] (第22図-1、写真図版5)

出土遺物は、E C 3 9 - 2 ピットからのみ石器1点が出土した。1は石皿である。全体丁寧に磨かれるが、一部成形時の打痕を残す。

E C 3 8 - 4 ピット (第22図)

平面形は不整円形。規模は開口部径71×64cm、底部径41×39cm、深さ50cm。壁は直壁状。底面は平坦。埋土は10層で、掘り方・柱あたりを有する。出土遺物は土器片3点があるが割愛した。

E C 3 9 - 3・E C 3 9 - 4 ピット (第22図、写真図版3-5)

E C 3 9 - 4 ピットがE C 3 9 - 3 ピットを切る。E C 3 9 - 4 ピットは、平面形は梢円形。規模は開口部径41×37cm、底部径25×25cm、深さ28cm。断面形はU字状。埋土は2層からなり自然堆積。E C 3 9 - 3 ピットは、平面形は梢円形。規模は、開口部径43cm、底部径40×27cm、深さ17cm。ともに出土遺物はない。

E C 3 9 - 5 ピット (第23図)

平面形は梢円形。規模は開口部径46×43cm、底部径39×24cm、深さ34cm。壁はゆるやかに傾斜。底面は船底状。埋土は4層で自然堆積。出土遺物は土器片1点があるが割愛した。

E C 3 9 - 6 ピット (第23図、写真図版3-6)

平面形は梢円形。規模は開口部径42×34cm、底部径12×11cm、深さ31cm。壁は、幾分傾斜する。底面は船底状。埋土は3層で自然堆積。出土遺物は土器片4点があるが割愛した。

E C 4 0 - 1 ピット (第23図、写真図版3-7)

平面形は梢円形。規模は開口部径102×88cm、底部径26×19cm、深さ81cm。壁は、下位は直壁状、上位は緩やかに傾斜し、中段を有する。底面は平坦。出土遺物は土器片7点があるが割愛した。

E D 3 7 - 1 ピット (第23図)

未調査区に広がる。平面形は不明。規模は、開口部径120cm・底部径90cm・深さ51cm。底面は平坦で、壁は急角度で立ち上がっている。埋土は5層からなり、自然堆積であるが、1層と3層に小ブロック状に朱が混入する。

[出土遺物] (第23図1~5、写真図版5)

土器片38点が出土した。5点を示した。1~4は平縁深鉢の口縁部片である。1・2は口縁に平行する数条の横位沈線を有する。3・4は口縁部が外反し、文様は、口縁部は無文で、体部には地文が施され、頸部に一条の原体の側面圧痕文を有する。5は深鉢の体部片で、横位沈線が施文される。

E D 3 8 - 1 ピット (第23図)

2つのピットが切り合うが、E D 3 8 - 1 ピットに切られるピットは形状・規模等不明である。E D 3 8 - 1 ピットは、平面形は円形。規模は、開口部径47cm、底部径32cm、深さ29cmである。壁

は底部付近で縮まり、開口部にかけて直壁状に立ち上がる。埋土は3層で自然堆積。出土遺物はない。

ED 38-2 ピット (第23図)

平面形は楕円形。規模は、開口部径60×57cm、底部径46×36cm、深さ54cm。壁は、中央部付近まで直壁状に立ち上がり、中央部から開口部まで傾斜する。埋土は3層で自然堆積。出土遺物は土器片7点があるが割愛した

ED 38-3 ピット (第23図)

平面形は楕円形。規模は、開口部径55×47cm、底部径29×25cm、深さは30cm。底面は平坦で、壁は傾斜している。埋土は3層からなり自然堆積である。出土遺物はない。

ED 38-4 ピット (第23図)

平面形は円形。規模は、開口部径38cm、底部径30cm、深さ9cmである。底面は船底型で、壁は緩やかに立ち上がる。出土遺物はない。

ED 38-5 ピット (第23図)

平面形は円形。規模は、開口部径40cm、底部径19cm、深さ50cmである。底面は傾斜し、壁は急角度で立ち上がる。出土遺物はない。

ED 39-1 ピット (第23図)

平面形は円形。規模は、開口部径41cm、底部径17×19cm、深さは60cm。底面は平坦で、壁は直壁状に立ち上がる。出土遺物はない。

ED 39-2・3・4・5・6 (第23図、写真図版3-8)

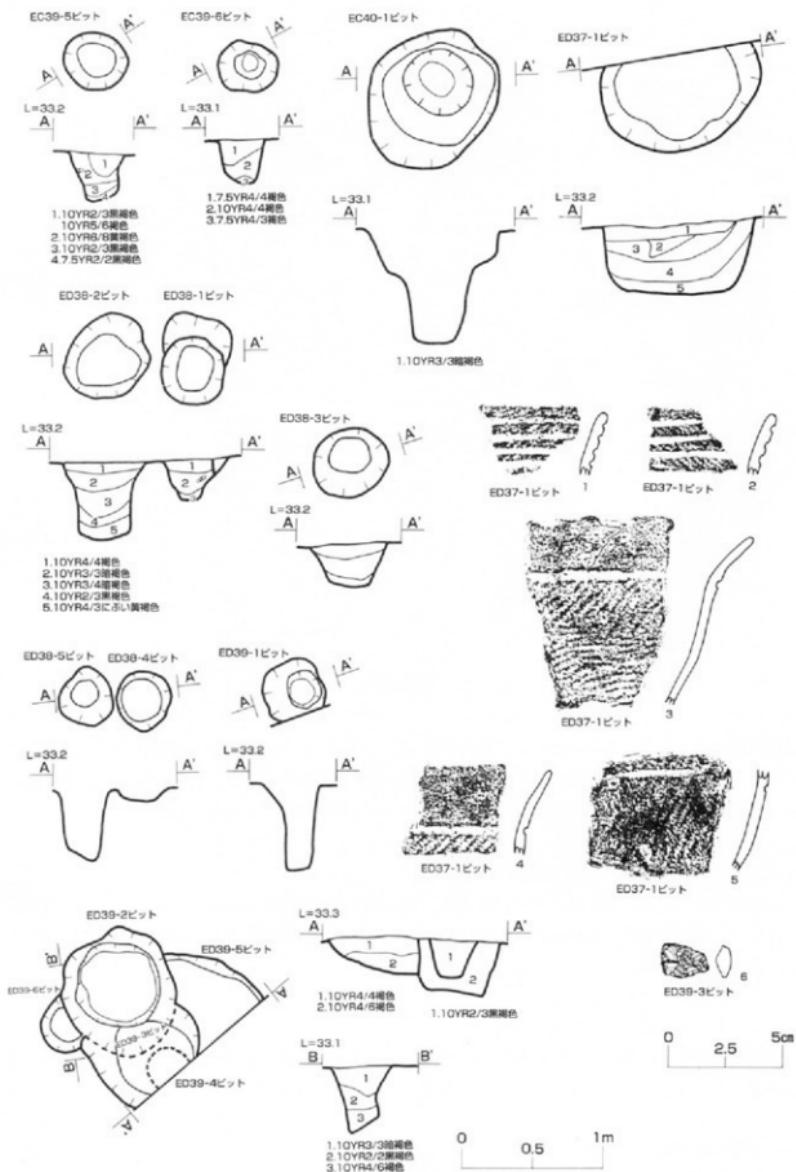
ED 39-2 ピットが、ED 39-3 ピット・ED 39-5 ピット・ED 39-6 ピットを切り、ED 39-4 ピットがED 39-3 ピットを切る。ED 39-2 ピットは、形状は円形で、規模は、開口部径65×61cm、底部径54×51cm、深さは41cm。ED 39-3 ピットは、形状は円形と思われ、規模は開口部47cm、深さは38cm。壁は傾斜しており、埋土は1層からなり自然堆積。ED 39-4 ピットは、形状は楕円形と思われ、規模は開口部78cm、深さは54cm。壁は傾斜しており、底面は平坦である。ED 39-5 ピットは、平面形は不明。残存部の規模は、開口部78cm・底部57cm・深さは26cm。壁は緩やかに傾斜し、底面は船底状を呈する。埋土は2層からなり自然堆積。ED 39-6 ピットは平面形は不明。残存する規模は、開口部41cm・底部28cm・深さは47cm。壁は傾斜している。埋土は3層からなり自然堆積。

[出土遺物] (第23図-6、写真図版5)

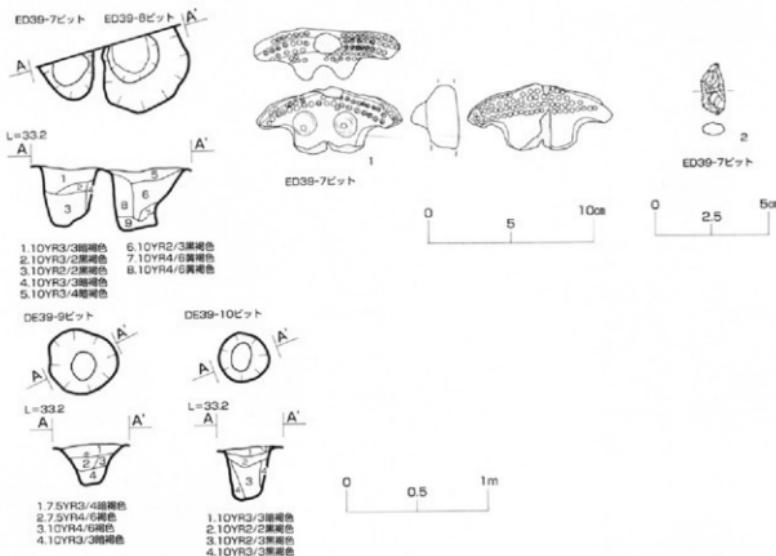
出土遺物は、ED 39-2 ピットからのみ石器1点が出土した。6は二刃に刃を有する不定形石器である。刃は両刃で直線的に作りだされている。

ED 39-7 ピット (第24図、第24図-1・2、写真図版5)

未調査区に広がる。平面形は不明。開口部39cm、底部28cm、深さは40cm。壁は幾分傾斜し、底面



第23図



第24図

は船底状である。埋土は4層からなり自然堆積。出土遺物は、土器片4点・土製品1点・石器1点がある。土製品1点・石器1点を図示した。1は土偶の胸部資料である。両面の肩部に、刺突文が施される。磨滅が著しい。2は不定形石器である。一辺に片刃の刃を有している。

ED39-8ピット (第24図)

未調査区に広がる。平面形は不明。規模は、開口部61cm、底部26cm、深さは41cm。壁は北壁では直壁状で、南壁は傾斜している。底面は平坦である。埋土は5層からなり人為的堆積の可能性がある。出土遺物はない。

ED39-9ピット (第24図)

平面形は楕円形。規模は、開口部径49×48cm、底部径21×17cm、深さは28cm。底面は平坦で、壁は傾斜している。埋土は4層からなり自然堆積である。出土遺物はない。

ED39-10ピット (第24図)

平面形は円形。規模は、開口部径35cm、底部径20×14cm、深さは36cm。底面は平坦で、壁は幾分傾斜する。埋土は4層からなり掘り方・柱あたりを有している。出土遺物はない。

V 遺構外出土遺物

遺構外からの出土遺物は、土器・土製品・石器・石製品・動物遺存体がある。ここでは、土器・土製品・石器・石製品・動物遺存体の順に、その概要について触れる。

1 土器

土器は、53cm×35cm×13cmのコンテナ約80箱程が出土した。層位的には2層と3層より多く出土している。出土した土器の時期は、縄文時代中期・後期である。以下、縄文時代中期のものを第Ⅰ群、後期初頭から前葉のものを第Ⅱ群、後期中葉のものを第Ⅲ群、特殊な器形のもの・ミニチュア土器を第Ⅳ群、粗製の土器を第Ⅴ群として取り扱う。

第Ⅰ群土器

本群は、縄文時代中期に属すると思われるものである。出土点数は少なく、3層・4層からの出土が主である。形式的には、大木8b式・大木9式・大木10式に相当する。

第1類

大木8b式に相当するもの。文様は渦巻文を主体とする。施文方法によって細分が可能である。

A. (第33図61、写真図版8-61)

沈線による区画文を持つもの。1点のみ出土。口縁は波状口縁をなし外反する。口縁部無文帶と体部文様部は3条の横位沈線によって区画され、体部には沈線による区画文を有する。

B. (第25図1、第33図62~68、写真図版6-1、8-62~9-68)

隆沈線によって文様を意匠するもの。出土数は少ない。62~64は波状口縁をなす深鉢の口縁部片で、口縁部は外傾する。口縁には無文帶を有し、体部には区画文と渦巻文が意匠され、無文帶と体部は横位の隆沈線と刺突文列によって区画される。1は小型の鉢の体部から底部のもので、隆沈線によって区画文が描かれる。65は深鉢の頸部から体部の資料である。横位の刺突文列を有し、刺突文列の下には隆沈線による区画文と渦巻文を有する。器形は、体部の中央付近で縫まり、体部上半は外傾する。66・68は口縁部に突起を有するものである。口縁は外傾し、突起より隆沈線による渦巻文が垂下する。67は、平縁深鉢の口縁部片で、口縁は内湾している。口縁に無文帶を有し、体部には隆沈線による区画文・渦巻文が描かれ、無文帶と体部は一条の隆線によって区画される。

第2類 (第33図69・70、写真図版9-69・70)

大木9式に相当すると思われるものである。出土点数は非常に少ない。69は壺の体部片である。沈線と磨消縄文によって区画文が描かれる。70は深鉢の口縁部片である。口縁には突起を有し内湾する。文様は、突起下に隆線による円文を有し、体部には隆沈線によって区画文が描かれ、区画文内には刺突が施されている。

第3類

大木10式に相当するものである。少量が出土している。沈線・隆線・刺突文によって文様を意

匠する。施文方法によって4類に分類が可能である。

A. (第25図2、第33図71~75、写真図版6-2・9-71~75)

沈線によって文様を意匠するもの。2は壺である。口縁は平縁をなし、断面形は頸部で締まり外反し、口縁部で最大幅を測る。体部には沈線と充填繩文によるS字文を有する。71~74は平縁深鉢の口縁部片で、口縁は外傾している。文様は、沈線と磨消繩文によって曲線文が描かれ、74は円文を有している。75は深鉢の体部片である。沈線による区画文に刺突文を有している。

B. (第33図76~77、写真図版9-76・77)

隆線によって文様が意匠されるものである。76は平縁深鉢の口縁部片で、口縁は外反する。口縁部は無文で、横位の隆線によって体部と区画されている。77は深鉢の体部片である。隆線と磨消繩文によって曲線文が描かれる。

C. (第25図3、第33図78~第34図81、写真図版6-3・9-78~81)

沈線と隆線によって文様が意匠されるもの。3は平縁深鉢で底部は欠損する。口縁の断面は頸部で「く」の字状に内側に屈折し、口縁は内傾しており、頸部で最大幅を測る。頸部に横位の隆線が一条巡り、口縁部無文様帶と、体部文様帶を区画している。体部には沈線と磨消繩文によって曲線文が描かれる。78~81は平縁深鉢の口縁部片で、口縁は外反する。78は横位隆線によって、口縁部帶と地文部を区画するものである。文様帶には沈線と隆線によって曲線文が描かれる。79・80は口唇部から隆線が垂下し、隆線には二個単位の刻みを有している。文様は、沈線と磨消繩文によって区画文が描かれる。81は横位隆線によって口縁部文様帶と、体部文様帶とを区画するものである。隆線に沿って横位の刺突文列を有している。

D. (第25図4、第34図82、写真図版6-4・9-82)

口縁部には刺突文列を有し、体部には沈線による曲線文が描かれるものである。4は平縁の注口土器である。口縁は内湾気味に立ち上がり、口唇部で若干外反する。注口部は口縁部に付き中空の突起を有している。82は鉢の口縁部片である。口縁は平縁をなし、断面形は内湾で、口唇部は肥厚している。口縁部には刺突が密に施され、一部体部へと垂下している。

第Ⅱ群土器

門前式、あるいは、その前後の土器を主体とする繩文時代後期前葉に属すると思われるものである。文様は、隆線・沈線・刺突文・ボタン状貼付文・連鎖状浮線文等の組み合わせによってバラエティに富む。以下、5類に大別し説明を行う。

第1類 (第34図83、写真図版9-83)

刺突文列によって縁取られた、口縁部無文帶を有するもの。出土数は少ない。83は波状口縁をなす深鉢の口縁部片である。口縁は内湾する。施文は、口縁部は無文で、体部には斜繩文が施され、一条の横位の刺突文列によって無文帶と区画されている。この刺突文列には、波状部から垂下する刺突文が連結する。

第2類

隆線あるいは隆線・沈線を主体に、中空突起・橋状把手・刺突文・刻み文・ボタン状貼付文・連鎖状浮線文等の組み合わせによって文様を意匠する一群である。

A. (第34図84~89、写真図版9~84~89)

隆線に沿って刺突文列が施される一群である。観音堂遺跡第Ⅳ群第1類の一部と八天遺跡第Ⅱ群2類aに類例を見ることができる。84~89は深鉢の口縁部片で、84・86・87が波状口縁、88は小突起、85は中空突起を有する。口縁は、84が外反、85~88が内湾である。隆線は、波状部あるいは突起から斜めや弧状に下がるのが特徴で、85~87は斜めに下がった隆線は頭部で横位に展開し、体部の地文部とを区画している。84は波状部から、垂直方向から刺突された刺突文列を抉るように二条の隆線が斜めに下がるもので、口縁部と体部を区画する横位の隆線と連結する。体部には刺突を有する隆線が曲線文を画いており、この特徴は後述する第Ⅱ群第2類b2の特徴に属するものであるが、隆線と刺突文列を有するという点で本類に入れた。89は小突起より斜めに下がった隆線が、口縁に平行し横位に施され、さらに体部に垂下している。

B. 隆線上に刺突を施すもの。体部文様帶の有無によって細分が可能である。

b1. (第25図5~7、第34図90・91、写真図版6~5~7・9~90・91)

刺突を有する横位の隆線が口縁部と体部を区画し、体部には地文のみが施されるもの。崎山弁天遺跡第Ⅳ群第1類Aに相当するものである。5・6は口縁部から体部下半にかけてのもの、7は完存品である。口縁は、5は平縁、6・7は小波状口縁をなし、断面形は5・7が外傾、6は胸部で膨れ頭部で縮まり外反している。口縁部文様帶には、5では縱位の弧状沈線とボタン状貼付文、6では縱位の隆線を有し、7は無文である。90・91は深鉢の口縁部片である。91は口縁は内湾し、口唇部より斜めに下がった隆線が頭部を巡る。90は口縁に小突起を有するもので断面形は、内湾ぎみに立ち上がり、口唇部付近で若干外反している。小突起からは、刺突を有する隆線が垂下し、頭部の横位隆線と連結し、連結部にはボタン状貼付文を有している。

b2. (第25図8~26図13、第34図92~第35図101、写真図版6~8~13・9~92~10~101)

体部文様帶を有するものである。8~11・13はほぼ完存、12は体部下半を欠く深鉢である。口縁は、8~12は平縁、13は波状口縁をなし、8・9・10は口唇部に小突起を有する。口縁部の断面は、9~13が外反で、8は外傾である。文様は、8・9では口縁のボタン状貼付文から、10・12では口唇部から刺突を有する縱位の隆線が垂下する。この縱位の隆線は、体部中央付近で横位の隆線と交わり、隆線の両側には沈線によって曲線文が描かれている。8・10は横位隆線にも刺突が施される。13は頭部に横位の刺突文列が巡り、体部文様帶とを区画するものである。体部文様帶には、刺突を有する隆線によって体部下半まで文様が描かれている。11は隆線を持たず、ボタン状貼付文から垂下する刺突文が直接器面に刺突されるものである。本来なら別に分類すべき資料であるが、文様が類似していることから本類に含めた。92~97、99~101は深鉢の口縁部片である。口縁は、93・94・99・101が波状口縁、95~97・100は小突起を有し、92は中空突起を有している。口縁部の断面形は、95・99・101が外反で、他は内湾である。93・94は刺突を有する隆線が口唇部から斜めに下がり、頭部において横位に巡る。92・96・97・100は頭部に横位の隆線が、95・99は縱位の隆線が、98は横位・縱位の隆線を有し、101では隆線によって曲線文が描かれている。

C. 刻みを有する隆線によって文様を意匠するもの。体部文様帶の有無によって細分が可能である。

c1. (第26図14、第35図102・103、写真図版6-14、10-102・103)

体部文様帶を持たないものである。観音堂遺跡第IV群1類の一部に類例を見ることが出来る。14は底部の一部を欠くがほぼ完存の深鉢である。口縁は幾分内湾し、4個の突起を持ち、突起の頂部は円形に膨れ、上方向からの刺突を有している。口縁部文様帶には、波状をなす二条の隆線が巡り、波頂部にはボタン状の貼付文を有している。102は平縁深鉢、103は波状口縁をなす深鉢の口縁部片である。ともに口縁は外反し、102では横位の隆線に、103では横位と縦位の隆線に刻みが施されている。

c2. (第27図16、第35図104～第36図108、写真図版6-16、10-104～108)

体部文様帶を有するものである。16は口縁部から底部にかけての深鉢である。口縁は二重口縁をなし、口縁部にはひねりを有する中空突起と橋状把手を有している。体部には、最大10個の刻みのある隆線と沈線・ボタン状貼付文によって曲線文が描かれている。105～108は深鉢の口縁部片、104は体部片である。体部には2個単位の刻みの施された隆線によって曲線文が描かれる。口縁部資料はすべて二重口縁をなし内湾し、106では中空突起を有している。

D. (第26図15、第27図17、第36図109～114、写真図版6-15・17、10-109～114)

ボタン状貼付文と隆線によって文様を意匠するものであるが、隆線には刺突・刻みを持たないものである。17は平縁の深鉢で全体の1/3程が欠損する。口縁は二重口縁をなし中空突起を有し、口縁部の断面形は内湾である。体部には底部付近まで隆線とボタン状貼付文によって文様が描かれる。15は波状口縁をなす深鉢の口縁部から体部上半にかけてのものである。口縁部の断面は幾分外反している。口縁部には幅の狭い無文帯を持ち、体部には隆線と沈線によって縱方向に展開する曲線文が描かれている。109～114は深鉢の口縁部片である。口縁は、109は平縁、110・111は波状口縁、112～114は二重口縁をなし貫通孔を持つ中空突起を有している。口縁部の断面形は、109・110が外反で、他は内湾である。文様は、109・111～114では隆線によって、110では隆線と沈線によって文様が描かれている。

E. (第27図18～第28図23、第36図115～第37図123、写真図版6-18～7-23、10-115～123)

ボタン状貼付文・連鎖状浮線文を有するものである。所謂、狭義の「門前式土器」に相当するもので、八天遺跡第II群8類、観音堂遺跡第V群2類、門前貝塚第II群1類B（及川他 1974）に類例を見ることが出来る。18～21・23は深鉢の口縁部から体部下半にかけて、22は口縁部から底部にかけてのものである。口縁の断面形は、18～22は内湾で、23は頭部で締まり外傾している。18は波状口縁をなすもので、口縁には口縁の形状に沿って一条の隆線が巡る。体部には、波頂部下の盲孔より隆線が体部下半まで懸垂している。19・22は二重口縁をなすもの、21は口唇に平行する隆線を持つものである。口縁には貫通孔を有する中空突起を持ち、19・22では突起にひねりが入っている。文様は、突起を中心に体部下半まで懸垂文が展開している。22では中空突起と橋状把手が繰り返されている。20は二重口縁をなすものであるが中空突起は欠損する。体部上半には横位のS字状の文様が描かれ、下半にはS字状の文様より縦位の隆線が垂下している。23は波状口縁をなすもので、貫通孔を有する波状部と、孔を持たない波状部とが交互に繰り返され、波頂部下には沈線によってS字文・弧状文が描かれる。体部上半にはJ字状の文様によって区画文

が描かれている。115～123は深鉢の口縁部片である。116～118・121・122は二重口縁をなし、口縁に貫通孔を有する中空突起をもつものである。115・119は波状口縁をなすものである。口縁は119では内湾し、115は内湾気味に立ち上がり口唇は外反している。波状部下には「の」の字状の文様と盲孔を有し、頸部には口縁の形状に沿って一条の隆線が巡っている。

第3類

沈線によって文様を意匠するものである。第2類で多く見られたボタン状貼付文・中空突起は少くなり、磨消繩文が多用されるようになる。本遺跡では最も出土量が多い。

A. (第28図24、第37図124～第38図131、写真図版7-24、10-124～11-131)

口縁部文様帶のみを有し、体部には地文が施文されるものである。24は体部上半で最大幅を測るほぼ完全な深鉢である。口縁は波状口縁をなし、口縁部の断面形は、頸部で締まり外傾ぎみに立ち上がっている。口縁部文様帶には、口縁の形状に沿った横位の沈線三条と、鉤状の文様が二段施文され、体部地文部とを一条の沈線によって区画している。124～131は深鉢の口縁部片である。124・125・129・131は波状口縁をなし、126～128・130は平縁である。口縁部の断面形はすべて外反で、124～128は頸部で締まり外反している。文様は、124・125・129・130では頸部に横位沈線が巡り体部地文部とを区画し、口縁部文様帶には、124では縱位の蛇行文と刺突文列、125では縱位の蛇行文、126～128では横位の波頭文、129・130は磨消繩文によって区画文が施文されている。131は原体の側面圧痕により文様を施文しているが、一応本類に含めた。

B. (第28図25・26、第38図132～139、写真図版7-25・26、11-132～139)

ボタン状貼付文を有するものである。25は体部上半で最大幅を測る深鉢である。口縁は波状口縁をなし、口縁部の断面形は頸部で締まり内傾している。波頂部下には弧状の沈線と2個のボタン状貼付文を有し文様の中心をなしている。26は体部中央付近で最大幅を測る鉢である。口縁は平縁をなし、口縁部の断面形は内湾である。口縁には幅の狭い無文帯を有し、体部にはボタン状貼付文と沈線による曲線文を有している。ボタン状貼付文は少量の粘土を張り付けたもので、小さく簡略されたものとなっている。132～135・138・139は深鉢の口縁部片である。口縁は132・139は波状口縁、138は平縁、133～135は二重口縁をなし、134・135は貫通孔をもつ中空突起を有している。136・137は体部片である。縱位の鉤状の文様を有している。

C. (第28図27、第38図140～第39図145、写真図版7-27、11-140～145)

沈線による区画文内に刺突文を有するものである。27は体部上半で最大幅を測る深鉢である。口縁は平縁をなし4個の山形突起を有する。断面形は頸部で締まり外反する。口縁部には幅の狭い無文帯を有し、突起下に刺突文列を有している。体部上半には沈線による釣針状・弧状の文様を有する。140～145は、沈線で区画された文様内に刺突文列を有するものである。140・141・144・145は深鉢の口縁部片、142・143は体部片である。口縁はすべて平縁をなし、口縁部の断面形は、145が外反で他は内湾である。文様は、140～143・145では釣針状の文様を有している。なお、143ボタン状貼付文を有しているが本類に含めた。

D. (第29図28～35、第39図146～157、写真図版7-28～35、11-146～157)

体部に磨消繩文による倒卵形の文様を有するもの。宮戸I b式に相当し、八天遺跡第Ⅲ群第3類の一部、貝鳥貝塚第Ⅱ群第2類に類例を見ることができる。28・30・32・33・35は体部上半で最大幅を測る深鉢である。口縁は波状口縁をなし、口縁部の断面形は28・30が外傾、32・33・35は内湾である。波頂部下には、28では盲孔、30・35では貫通孔、33では円文、32では粘土塊を押圧した貼付文を有しており、体部に垂下する文様の中心となっている。28では5個の波状口縁を有し、倒卵形の文様は波状部から懸垂するもののほか、波状間から懸垂するものもあり（第29図28、体部上半右側）、二面では波状間からの懸垂文を持たない。（第29図28、体部上半左側）33では口唇部に沈線を有している。29・34は口縁部で最大幅を測る深鉢である。29では中空突起と波状口縁が交互に繰り返され、34では山形口縁をなしている。文様は、29では懸垂文の他、盲孔・S字状の沈線・刺突文列を、34では円文・「く」の字状の文様・蛇行文を有している。31は台付きの鉢の体部下半から底部にかけてのものである。底部直上まで懸垂文を有している。146～157は深鉢の口縁部片である。口縁は147～150・154～156が波状口縁、151～153・155・157は二重口縁をなし、151～153は中空突起、157は突起を有している。突起には、151では貫通孔を、152では盲孔を有しているが、153・157には孔は見られない。153・155の二重口縁の段は浅い。口縁部の断面は、149・155が外反、150が外傾で他は内湾である。体部の倒卵形の文様は、波状部、あるいは突起下の円文・貫通孔・盲孔・「の」の字状の文様より始まっており、147・149・156では円文、154は「の」の字状の文様、150～152・155では盲孔より沈線が垂下する。

E.（第40図158～162、写真図版12～158～162）

沈線と磨消繩文による区画文内に、縦位の連続S字文・蛇行文を有するものである。八天遺跡第Ⅲ群第4類に類例を見ることができる。158～162は深鉢の口縁部片である。口縁は159・160は波状口縁をなし、158・161・162は山形突起を有している。口縁部の断面は、158～161が外反で、162は外傾である。

F.（第30図36～42、第40図163～第41図174、写真図版7～36～8～42、12～163～174）

A～E以外のもので沈線・磨消繩文により釣針状・渦巻き状等の曲線文を意匠するものである。36は頸部で最大幅を測る深鉢である。口縁は山形口縁をなし、口縁部の断面形は内湾する。文様は口縁部に刺突文を有し、刺突文から曲線文が始まっており、体部には釣針状の文様が懸垂している。37・38・40は体部上半で若干縮まり、口縁部で最大幅を測る深鉢である。口縁は37・38は山形口縁、40は波状口縁をなし、口縁部の断面形は外傾している。口縁部には幅の狭い無文帯を有し、頸部から無文帯が垂下し、釣針状の文様を描いている。37・38では沈線の末端に渦巻き状の文様を有している。40では波状部下に盲孔を有し、盲孔下には、縦に弧状の沈線が並んでいる。42は体部上半が球状に膨らみ、口縁部で最大幅を測る深鉢である。口縁は波状口縁をなし、断面形は頸部で縮まり外反している。口縁には非常に幅の狭い無文帯を有し、無文帯は体部に垂下し、体部上半に釣針状の文様を描く。39は体部中央付近で最大幅を測る鉢である。口縁は平縁をなし、4個の突起を有する。口縁部の断面は、頸部で縮まり、直立気味に立ち上がっている。口縁には無文帯を有し、体部には横位の捺円文と曲線文を有している。41は大型の壺の口縁部から肩部にかけてのものである。口縁は平縁をなし、断面形は外反気味に立ち上がる。口縁には無文帯を有し、肩部には曲線文が描かれている。163～173は深鉢の口縁部片である。口縁は、164・166は平縁、165・167・170は波状口縁をなし、163・168・169は山形突起を有している。口縁部の断面は、

163～165・168・171が外反、166・167・169・170・172・173は内湾である。文様は、164・168では渦巻き文、169は釣針状・渦巻き状の文様を有しているが、他はモチーフは不明である。164・165・169・171は深い沈線により文様を書いており、力強いタッチのものとなっている。沈線以外の文様もみられ、168では山形突起下に刺突文が、170では貫通孔と2個単位の刺突文が、173では刺突文を有している。174は体部下半の資料である。底部付近まで、渦巻き状の文様が施されている。

G. (第31図43～45、第41図175～185、写真図版8-43～45、12-175～185)

平行する数条の沈線によって、直線文・弧状文・渦巻き文を描くものである。関東地方の壙の内I式に近似し、八天遺跡第Ⅲ群第6類・立石遺跡第Ⅲ群第4類・貝鳥貝塚第Ⅱ群第3類に相当するものである。43は頸部で最大幅を測るものである。口縁は波状口縁をなし、断面形は内湾する。波状部下には沈線によって縁取られた貫通孔を有している。口縁には幅の狭い口縁部文様帯をもち、口縁部文様帯には横位沈線が2条施文されている。体部には貫通孔を中心に文様を展開している。44は深鉢、45は鉢である。口縁は波状口縁をなし、断面形は体部上半が膨らみ、頸部で縮まり、口縁は内湾している。ともに、無文帶・横位沈線・長楕円文による口縁部文様帯を有している。175～177・179～185は深鉢の口縁部片である。口縁は、175～177・181～183・185は平縁、179・180・184は波状口縁をなす。口縁部の断面は、179・181・184・185は内湾、176・182は外反、183は外傾、177は外反気味に立ち上がり口唇部で内側に「く」の字状に屈折し、180では頸部で縮まり外傾している。176・180は幅の広い口縁部文様帯を有するものである。176は横位沈線によって、180は波頂部を中心文様帯の上半には渦巻き文・弧状文・横位沈線が施文され、文様帯の下半は無文帶となっている。この無文帶の波頂部下には長さ2cm程の縦位の隆線を有し、隆線の上端には上方向からの盲孔を持ち、橋状把手様の印象を与える。隆線と体部文様帯の境には刺突文を有し、刺突は体部に展開する文様の中心となっている。179・181・182・184は幅の狭い口縁部文様帯を有するものである。179・184は横位の長楕円文と地文によって、182は横位の長楕円文と沈線によって、181は横位沈線と無文帶によって意匠されている。177・183は口縁部文様帯を形成するには至らないが、口唇に沿って横位の沈線を有している。178は頸部から体部にかけてのもので、口縁部文様帯には横位沈線が施される。

H. (第31図46・47、第41図186～第42図200、写真図版8-46・47、12-186～13-200)

数条の平行沈線と磨消繩文による幅の狭い帯状文を、直線状あるいは曲線状に展開し、長方形状・楕円形状・弧状等の区画文を意匠するもの。区画文はバラエティーに富む。東北北部の十腰内I式や大湯式に近似するものである。46・47は体部中央付近で最大幅を測る壺である。口縁は平縁をなし、口縁部の断面形は、46は外反、47は外傾である。ともに横位の平行沈線による口縁部文様帯を有している。体部の文様は、46では横位沈線と長楕円文が、47では体部中央付近まで縦位の曲線文が描かれ、横位の沈線によって体部下半の無文部とを区画されている。47では口縁部内面と器表面全体に朱彩が施される。186～195・197・198・200は深鉢の、196は鉢の口縁部片である。口縁は、186～189・200が波状口縁をなし、190～198は平縁をなす。口縁部の断面形は、186～193・195・197・198・200が外反、194・196は内湾で、196では口唇部が肥厚している。187・189～198・200は口縁部文様帯を有するものである。187・189は幅の狭い口縁部文様帯をなし、横位沈線と斜繩文により施文されている。190～198・200は幅の広い口縁部文様帯を有する

もので、191・197は横位沈線と無文帯、194・196は弧状文が施文され、他には長梢円文が施文されている。199は壺の体部片で、沈線によって幅の狭い区画文が意匠される。

第4類

隆線と沈線によって文様を意匠するものを一括した。第2類同様、隆線と沈線によって文様を意匠するものであるが、隆線は第2類でみられるような太いものではなく、幅の狭い極く細いもので、あまり盛り上がりがない。隆線には刺突・刻みを施すものもみられるが、簡略化している。

A. (第31図48、第42図201～第43図210、写真図版8-48、13-201～210)

縦位あるいは横位の隆線を有するものである。48は壺の頸部から体部中央付近にかけてのものである。頸部に横位の隆線を2条有し、隆線には橋状突起が付く。横位隆線からは体部に隆線が垂下し、体部下半の地文部とを区画する横位隆線に交わり結合部には刺突文を有している。201・202・204～210は深鉢の口縁部片である。口縁の断形形は、201・202・204・207～209が波状口縁、210は平縁で、206は貫通孔を有する突起をもつ。口縁部の断面は、201・202・204～206が外反、207～209が内湾、210は外反気味に立ち上がり口唇部付近で内側に「く」の字状に屈折している。文様は、隆線と沈線によって施文されているが、第II群第2類と比べると小型のボタン状點付文を有するものもある。(201・202・204～206) 隆線には刺突や刻みを有するものもみられ、201では横位隆線に刺突文・縦位隆線に刻み、208・210では斜め方向からの刻み、202では原体の側面圧痕文を有している。201・202・206～209は口縁部文様帶を有するものである。207・209は口縁に平行する隆線によって幅の狭い文様帶を、205では沈線に縁取られた幅の狭い無文帯を有する。201・202・206・208は比較的幅広の口縁部文様帶を有し、201・202・208では波頭部から、206では突起から縦位の隆線が垂下し、201・202では沈線による区画文を有している。203は壺の体部片である。縦位の平行する2条の隆線を持ち橋状の隆線が渡る。なお、208は第II群第3類Gに含めるべき資料かもしれないが、隆線に刻みを持つことから本類に含めた。

B. (第43図211～216、写真図版13-211～216)

幅の狭い隆線と沈線によって、渦巻き状の文様や、弧状・梢円形等の区画文を描くものである。出土数は少ない。211・212・214・215は壺あるいは深鉢の体部片、213は壺の頸部片、216は壺の口縁部片である。216は口縁は平縁をなし、断面形は外反である。

第5類 (第31図49、第43図217～219、写真図版8-49、13-217～219)

刺突文を多用するものを一括した。八天遺跡第II群第9類に相当する。出土点数は少ない。49は口縁部で最大幅を測る深鉢である。口縁は山形口縁をなし、断面形は頸部で締まり外反している。口縁には、刺突文・横位沈線・無文帯・隆線による口縁部文様帶を有しており、隆線には斜め方向からの刻みを有し、この隆線によって体部文様帶とを区画している。隆線は、口縁部の内面にもみられ、隆線の上位には一条の沈線が施文されている。体部には刺突が全面に施される。217～219は深鉢の口縁部片である。口縁は、217・218は波状口縁をなし、219は平縁をなし。口縁の断面形は、217・218が外反、219が外傾である。文様は、217は口縁部は無文で、体部には三段の指頭による刺突文を有する。218は口縁部に幅の狭い無文帯を有し、無文下には「の」の字状の沈線と指頭による刺突を有する。219は口唇部直下から横方向からの刺突文を有している。

第Ⅲ群（第31図50、写真図版8-50）

縄文時代後期中葉のものである。1点のみ出土した。50は三段の平坦面をもった石塔状の突起である。突起には横位の貫通孔を有しており、突起の基部には、沈線と刺突文列によって文様が描かれている。

第Ⅳ群（第32図51～55、第43図220、写真図版8-51～55・13-220）

特殊な器形の土器とミニチュア土器を一括した。51は器台の完存品である。上面は平坦で、縁は若干盛り上がる。平坦面は、研磨され非常にすべすべしており、煤がほぼ全面に付着している。側面には地文が施文され、径3×2cm程の梢円形の二個一対の貫通孔を四組有している。側面の上半にも煤の付着がみられ、特に貫通孔の周囲に著しく付着する。内面は、上半は熱によって変色しており、平坦面の裏側では剥落が著しい。220は器台の体部から底部にかけてのものである。体部には貫通孔を有しており、沈線と磨消縄文によって曲線文を有している。52～55はミニチュア土器である。52・53は地文のみが施文されるもので、口縁は平縁をなし。口縁部は外傾している。54は沈線によって文様が描かれるものである。口縁には山形突起を有し、口縁部は外傾している。55は高台の底部資料である。体部には刺突文を有し、第Ⅱ群第5類の特徴を有するものである。

第Ⅴ群（第32図56～60・写真図版8-56～60）

粗製土器である。大量に出土しているが、紙面の都合で大部分は割愛している。56・57・59・60は口縁が平縁をなす深鉢である。口縁の断面形は、56は頸部で最大幅を測り内湾し、57・59は幾分外傾ぎみに立ち上がり、60は頸部で縮まり外反している。58は口縁が波状口縁をなす深鉢である。口縁の断面形は頸部で縮まり外反している。口頸部は無文で体部には網目状の撚糸文が施文されている。

2 土器群のまとめ

第Ⅰ群

本群は縄文中期に属するもので大木8b・9・10式のものが見られたが、出土数は少なく、わずかに大木10式に良好な資料が若干見られるのみである。第1類は大木8b式に相当するもので、沈線や隆沈線によって、渦巻文を主体とする文様を施文している。第2類は大木9式に相当するものである。類として分類してはいるが、出土点数は極めて少ない。沈線・隆沈線によって縱長の区画文を意匠するが、細片のためモチーフは不明である。第3類は大木10式の土器である。施文方法によつてA～D類に細分しているが、出土点数は少なく、細片のためモチーフが不明のものが多い。Aは沈線によるアルファベット文を有するもので、刺突文・盲孔を有するのも見られる。Bは隆線によって曲線文が描かれ地文は文様の外部に充填されている。Cは沈線と隆線によって文様が描かれ、方形の区画文を有するものも見られる。Dは刺突文列と沈線によって横位に展開する曲線文を有している。

第Ⅱ群

本群は縄文時代後期前葉に属すると思われるものであるが、縄文時代中期末の資料を含んでいる可能性もある。非常に多量に出土しており、出土土器の主体を成すものである。文様は、沈線・隆線・刻み・刺突・連鎖状浮線文・ボタン状貼付文等の組み合わせによってバラエティーに富み、細

分は困難を極めたが、沈線・隆線によって大別し、さらに刻み・刺突・連鎖状浮線文・ボタン状貼付文や文様・口縁部文様帶の有無等によって細分を試みている。

第1類は刺突文列によって縁取られた口縁部無文帶を有するものである。わずか1点の出土であるが、他に類例がなく類として把握した。

第2類は隆線によって文様を意匠する一群である。A～Eに細分している。Aは隆線に沿って刺突文列が施されるもので、波状口縁や口縁に突起を有するものが見られ、隆線は波状部あるいは突起から斜めに下がり、頭部で横位に展開し、口縁部無文帶と体部とを区画している。Bは隆線上に刺突を有するものである。b1は体部に文様帶を持たないものである。頭部には刺突を有する横位隆線が巡り、体部地文部とを区画している。b2は体部文様帶を持つものである。体部文様帶は13以外は、体部上半にあり、下半には地文が施されている。刺突を有する隆線は頭部に横位に巡るものと、口縁部の小突起より縱位に垂下するものとがあり、縱位に隆線が垂下するものは、隆線によって方形区画文を描き、文様は第I群第4類に類似しているが、本類は方形区画文内に沈線による曲線文が描かれている。ボタン状貼付文を有するのも本類の特徴である。器形は、体部中央が若干膨れ、口縁部が大きく聞くものが多い。Cは刻みを有する隆線によって文様を意匠するものである。c1は体部文様帶を持たないものである。刻みは二個単位のものと、隆線の全面に施されるものがある。c2は体部文様帶を有するものである。口縁は二重口縁をなし、16では文様が体部下半まで垂下している。Dは隆線に刺突文・刻みを持たず、隆線・ボタン状貼付文によって文様を意匠するものである。口縁は平縁・波状口縁・二重口縁のものが見られる。文様は、二重口縁をなすものは、横位に展開するS字文を有しており、17ではJ字状の文様から区画文が体部下半まで垂下している。Eは、ボタン状貼付文・連鎖状浮線文を有する一群で、所謂狹義の門前式土器に相当するものである。出土点数は多い。口縁には中空突起を有するものが多く見られ、口縁の断面形は内反するものが多い。文様は、横位に展開したS字文の一部が体部下半まで垂下しているものと、20のように横位に展開するS字文に体部下半まで垂下する隆線が連結するもの、体部上半のみにJ字状の文様が描かれるものがある。J字状の文様は第3類において多用される文様である。

第3類は、沈線によって文様を意匠する一群で、2類とともに出土土器の主体を成すものである。文様は、J字状・倒卵形状・鉤状・数条の平行沈線による直線状・弧状・渦巻き状の文様等が多く見られ、ボタン状貼付文・中空突起は少なく、簡略されたものとなっている。A～Hに細分している。Aは、口縁部文様帶のみを有し、体部には地文が施されるものである。口縁の断面形は外反するものが多く、文様は、縱位の蛇行文・横位の鉤状文・波頭文等が見られる。Bは、ボタン状の貼付文を有するものであるが、出土数は少ない。文様は、J字状・S字状の文様が見られるが、破片が小さく、モチーフ不明のものが多い。中空突起を有するものもある。Cは沈線による直線状・釣針状・鉤状の区画文内に刺突文列を有するものである。文様は体部上半に施されるものが多くみられる。Dは倒卵形の文様を持つものである。出土数は非常に多い。貝鳥貝塚第II群第2類・八天遺跡第III群第3類に相当するものである。器形は、体部上半で最大幅を測り、口縁の断面は内湾のものが多い。文様は、口縁部に幅の狭い無文帶を有し、体部に垂下する倒卵形の文様の起点には、盲孔・貫通孔・円文等が加飾されている。Eは、沈線と磨消繩文による区画文内に、縱位の連續S字文・蛇行文を有するものであるが、出土数は少ない。口縁部の断面形は、外反・外傾で、口縁に山形突起を有するものがみられる。Fは、A～E以外のもので沈線・磨消繩文によって釣針状・渦巻き状等の曲線文を意匠するものである。出土数は多い。器形は、深鉢の他に、鉢・壺がみられる。口縁部の断面形は、内湾するものは少なく、外反・外傾のものが多い。37・38・40は第II群第2類

b2の簡略化した文様となっている。Gは、平行する数条の沈線によって直線文・弧状文・渦巻き文を描くものである。関東の堀之内I式に近似し、貝鳥第II群第3類、立石遺跡第III群第4類の一部、八天遺跡第III群第6類に相当するものである。口縁の断面形は、内湾するものと、頭部で締まり外反するものとがある。口縁部文様帶を有するものも見られ、体部に垂下する沈線は弧状の文様より垂下している。Hは、数条の平行沈線と磨消繩文による幅の狭い帯状文によって、長方形状・梢円形状・弧状等の区画文を有するものである。出土数は多いが破片が多い。器形は、深鉢のほかに鉢・壺が見られる。

D4類は、隆線と沈線によって文様を意匠するものである。Aは継位あるいは横位の隆線を有するものである。隆線によって区画された口縁部文様帶を持つものが多く見られ、体部には平行する沈線によって曲線文が描かれている。Bは幅の狭い隆線と沈線によって、渦巻き状の文様や、弧状・梢円形等の区画文を描くもので、十腰内I式に相当すると思われるが、出土数は少なく、細片のものが多く、モチーフ等不明である。

D5類は、刺突文を多用するものである。三十稻場式土器に類似するが出土数が少なく、詳細は不明である。

第Ⅲ群

縄文時代後期中葉のものである。口縁部の突起がわずかに1点出土したのみである。

第Ⅳ群

特殊な器形の土器とミニチュア土器を一括した。51は器台である。内面は熱による変色及び剥落が見られ、外面の平坦面に煤が付着していることから、調理に使用されたものと思われる。ミニチュア土器は、台付きのものも見られ、文様は地文のみのもの、沈線によるもの、刺突が施されるものがある。

第Ⅴ群

粗製土器である。多量に出土しているが、大部分の資料を割愛している。口縁部に無文帶を有するものも見られ、地文は、網目状撚糸文・撚糸文・斜縄文・櫛曳き文等がある。

3 土製品（第43図221～227、写真図版14-221～234）

出土した土製品は、管状土錘・耳飾り・土偶・器種不明のもの・土製円盤である。

(1) 管状土錘（第43図222、写真図版14-222）

222は縦断面が梢円形・横断面が円形の土錘である。大きさは、長さ34mm・幅18.4mm・厚さ18.2mmである。径3mm程の貫通孔を有している。

(2) 耳飾り（第43図221・225、写真図版14-221・225）

耳飾りは2点出土した。221は中央に貫通孔を有するものである。片面は欠損する。孔を中心に、刺突文が放射状にひろがっている。225は渦巻き状の文様を有するものである。半分は欠損する。渦巻き状の文様は、両面に施されている。

(3) 土偶 (第43図224・226・227、写真図版14-224・226・227-229・231)

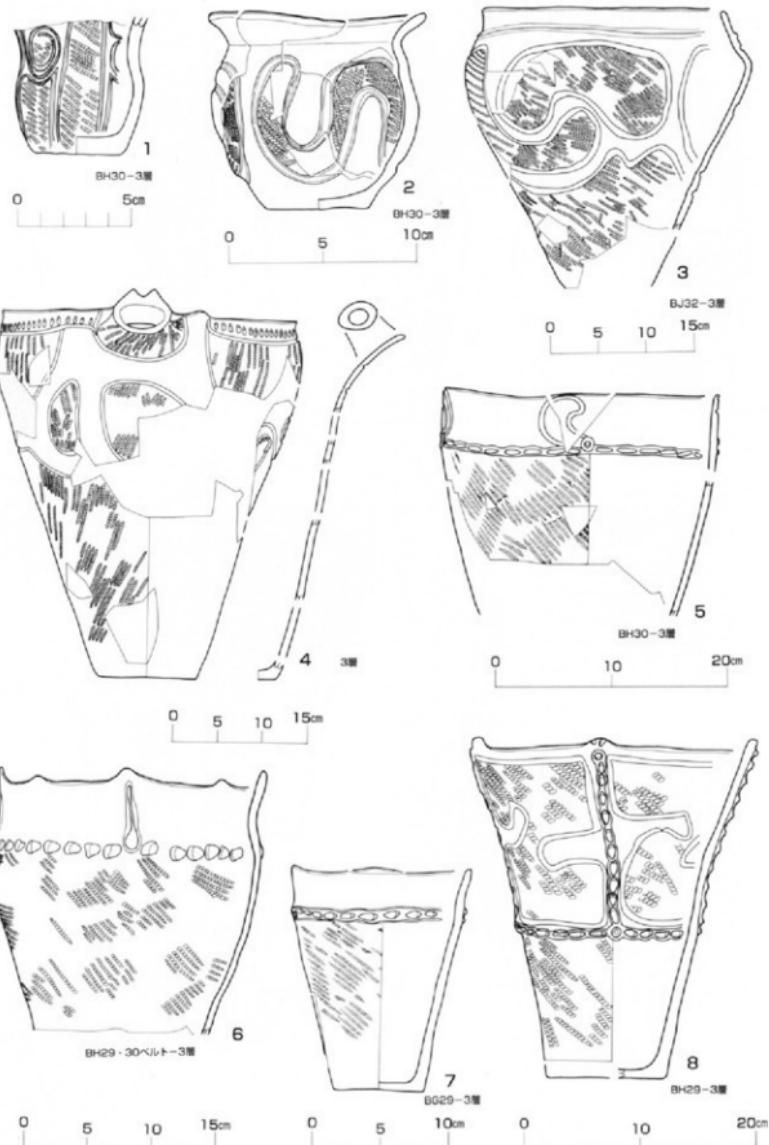
土偶は5点が出土した。224・226は腹部資料である。腹部及び背面に刺突文が施されている。227は、胸部・腹部・腕が残存するものである。文様は腹部に縦位の沈線が施文されるのみである。図版14-228・229は腕の破片である。

(4) 器種不明のもの (第43図223、写真図版14-223・230・231・233・234)

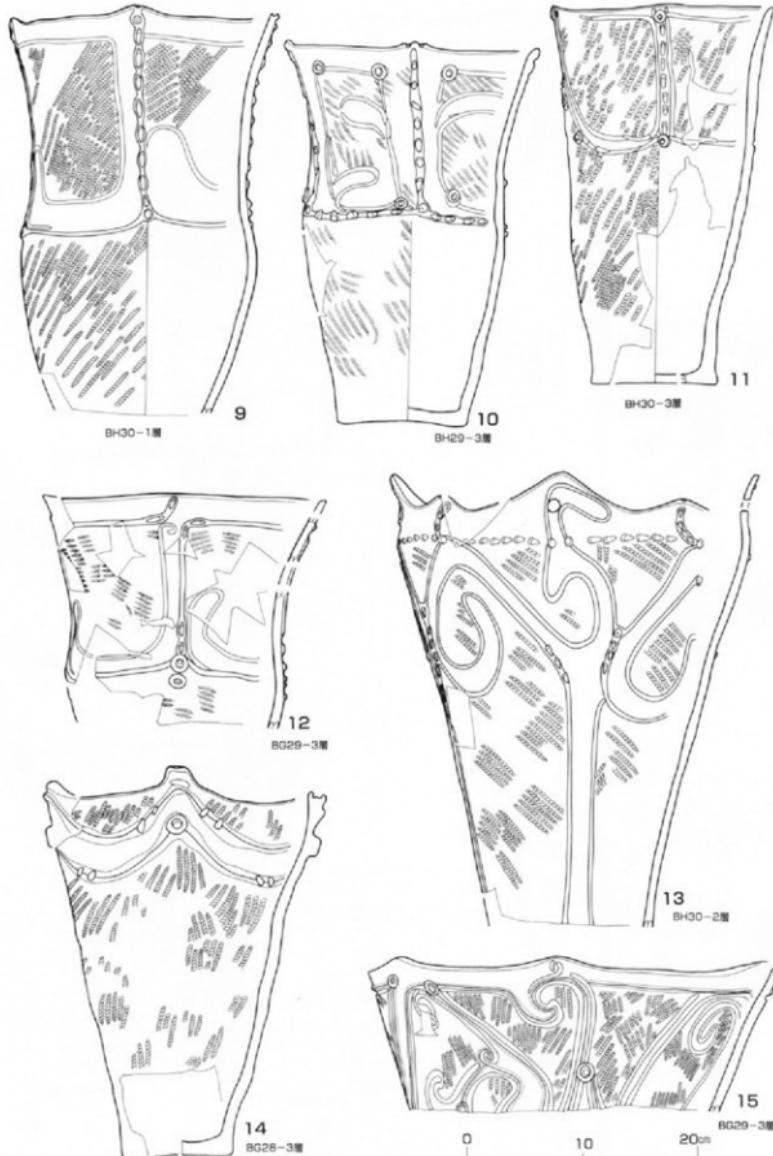
223は、形状が三角形状をなし、沈線と2個の貫通孔・2個の盲孔によって人面状の装飾が施されるものである。側縁は研磨され仕上げは丁寧である。230は、正方形状の土器片に3個の貫通孔・1個の盲孔を有するものである。側縁は一部研磨せれているが、打ち欠き痕を残している。231はきのこ型土製品の可能性を有するものである。茎の部分は欠損する。233は梢円形状のものであるが、全体的に磨滅が著しい。234は釣り鐘状のものである。頂部には貫通孔を有している。

第2表 ピット出土石器一覧表

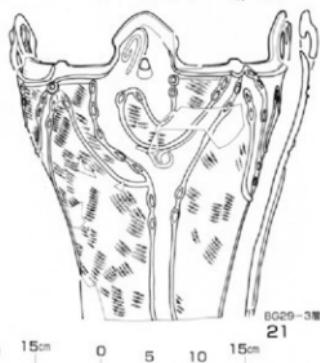
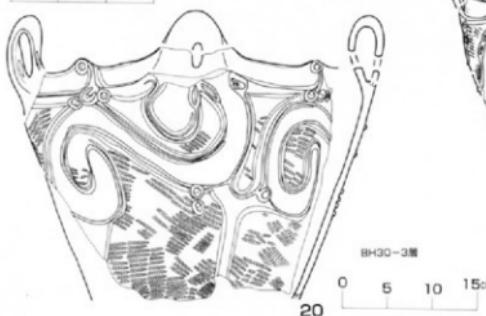
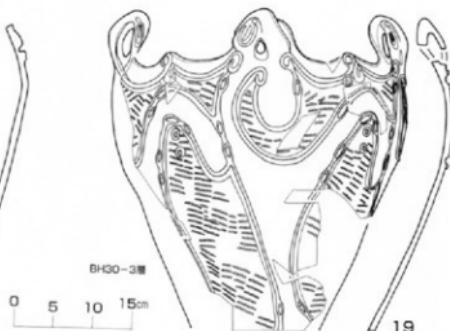
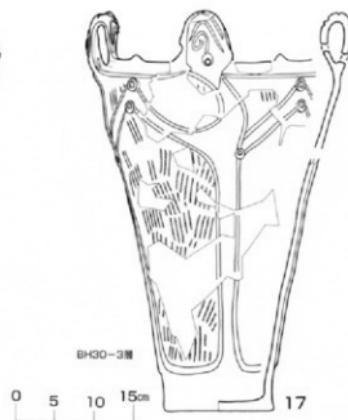
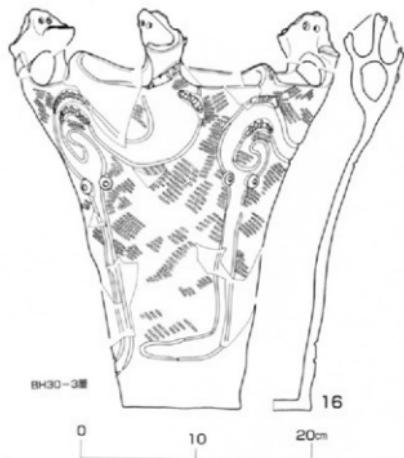
図版	ピットNo	器種	分類	石材	長さ	幅	厚さ	重さ	登録番号
第2図-8、写真図版5	CA37-1ピット	焚身具		細粒質砂岩	112.7	24.0	24.2	31.30	9652
第2図-9、写真図版5	CA37-1ピット	石器	II-3	中粒砂岩	23.8	17.5	7.0	2.50	9794
第10図-2、写真図版5	CE41-1ピット	石器	II-2-B	チャート	18.8	15.1	2.0	0.30	9878
第10図-3、写真図版5	CE41-1ピット	尖頭器	II-B-a	チャート	32.0	24.0	9.0	6.10	9890
第10図-4、写真図版5	CE41-1ピット	不定形石器	IV	チャート	29.8	25.3	13.0	9.30	9887
第10図-5、写真図版5	CE41-1ピット	不定形石器	I-A-a	珪質頁岩	30.6	41.7	12.0	12.80	9881
第10図-6、写真図版5	CE41-1ピット	不定形石器		中粒砂岩	133.6	109.4	31.0	396.00	9644
第10図-7、写真図版5	CE41-4ピット	凹石	II-B-a	チャート	25.2	17.6	9.0	4.00	9883
第14図-2、写真図版5	DC42-1ピット	尖頭器	II	チャート	42.2	41.4	13.0	22.60	9882
第14図-4、写真図版5	DB42-1ピット	不定形石器	III	安山岩	109.8	53.6	27.4	253.00	10013
第14図-5、写真図版5	DA42-1ピット	磨製石斧	B	珪質頁岩	28.8	21.8	4.0	2.10	9888
第17図-4、写真図版5	DG42-1ピット	石錐	II-1-B	珪質頁岩	26.0	19.0	6.0	2.70	9893
第17図-5、写真図版5	DG42-1ピット	石錐	II-3	チャート	41.9	18.2	6.0	3.00	9889
第17図-6、写真図版5	DG42-1ピット	石錐	II-2-B	珪質頁岩	32.4	23.6	10.0	5.00	9865
第19図-1、写真図版5	DJ39-3ピット	不定形石器	I-A-b	細粒砂岩	36.4	28.6	9.0	14.50	9892
第21図-2、写真図版5	EB39-11ピット	不定形石器	IV	珪質頁岩	61.0	53.2	17.0	47.00	9879
第21図-3、写真図版5	EB39-11ピット	石錐	II-2-A	チャート	16.2	16.5	6.0	1.10	10410
第22図-1、写真図版5	EC39-2ピット	石皿		細粒砂岩	80.0	64.0	41.2	211.00	10009
第23図-6、写真図版5	ED39-3ピット	不定形石器	I-A-b	チャート	22.2	14.7	7.0	2.30	9884
第24図-2、写真図版5	ED39-8ピット	不定形石器		チャート	21.8	10.8	6.0	1.20	9880



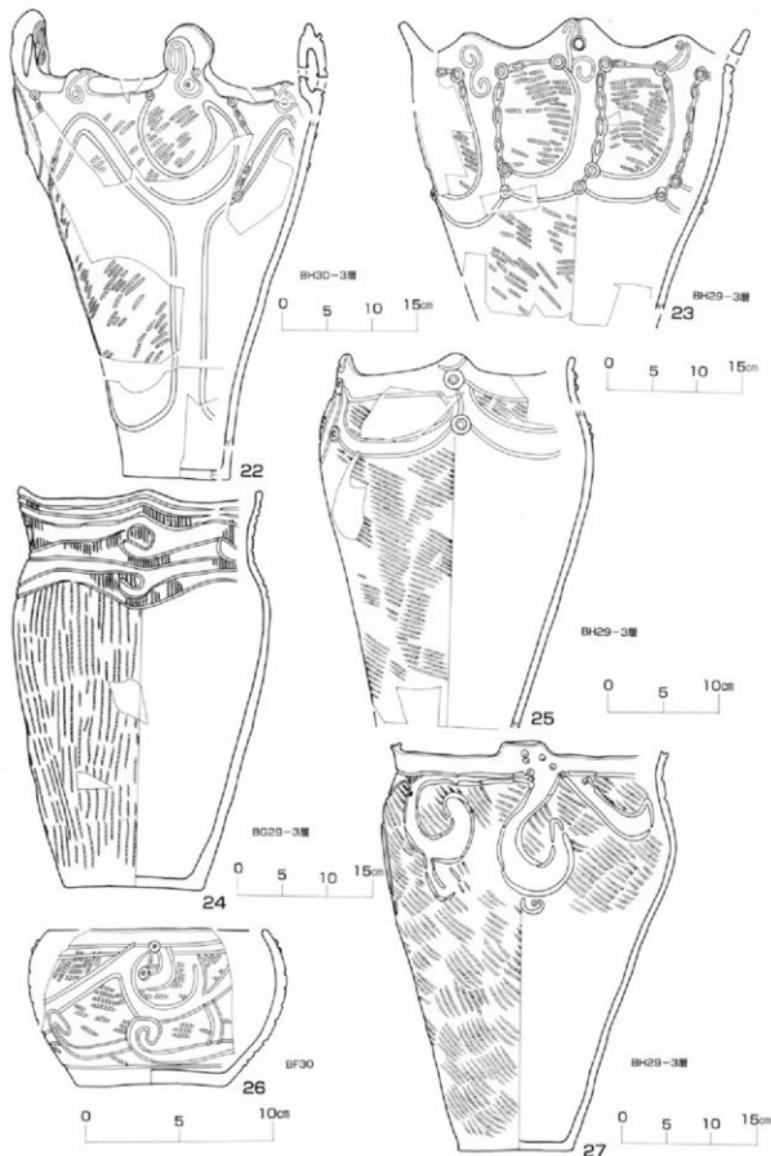
第25図 遺構外出土土器



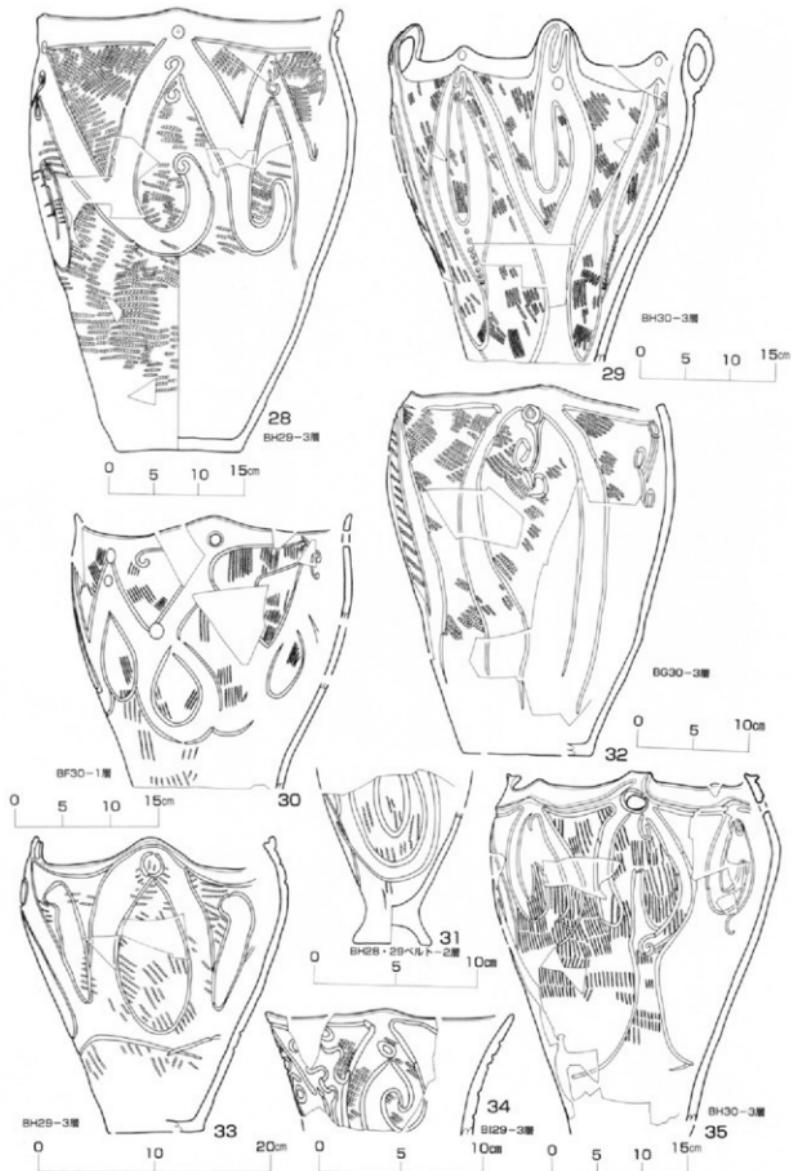
第26図 遺構出土土器



第27図 遺構外出土土器



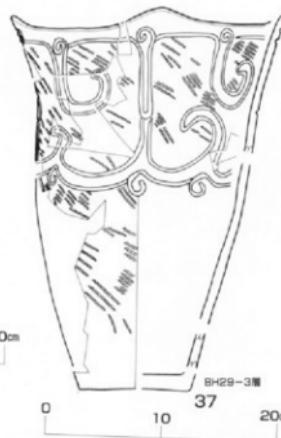
第28図 遺構出土土器



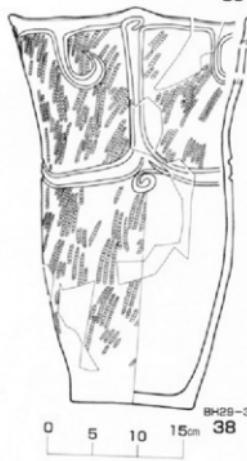
第29図 遺構外出土土器



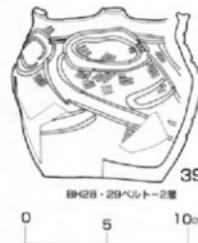
36



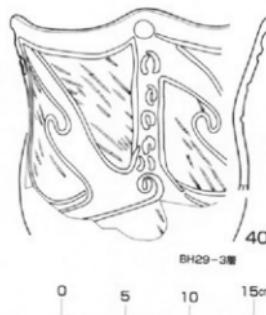
37



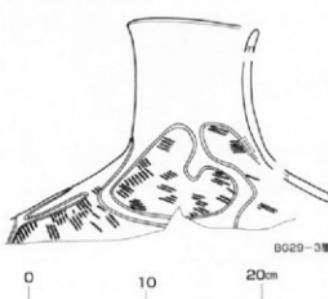
BH29-3号 38



39



BH29-3号 40



41

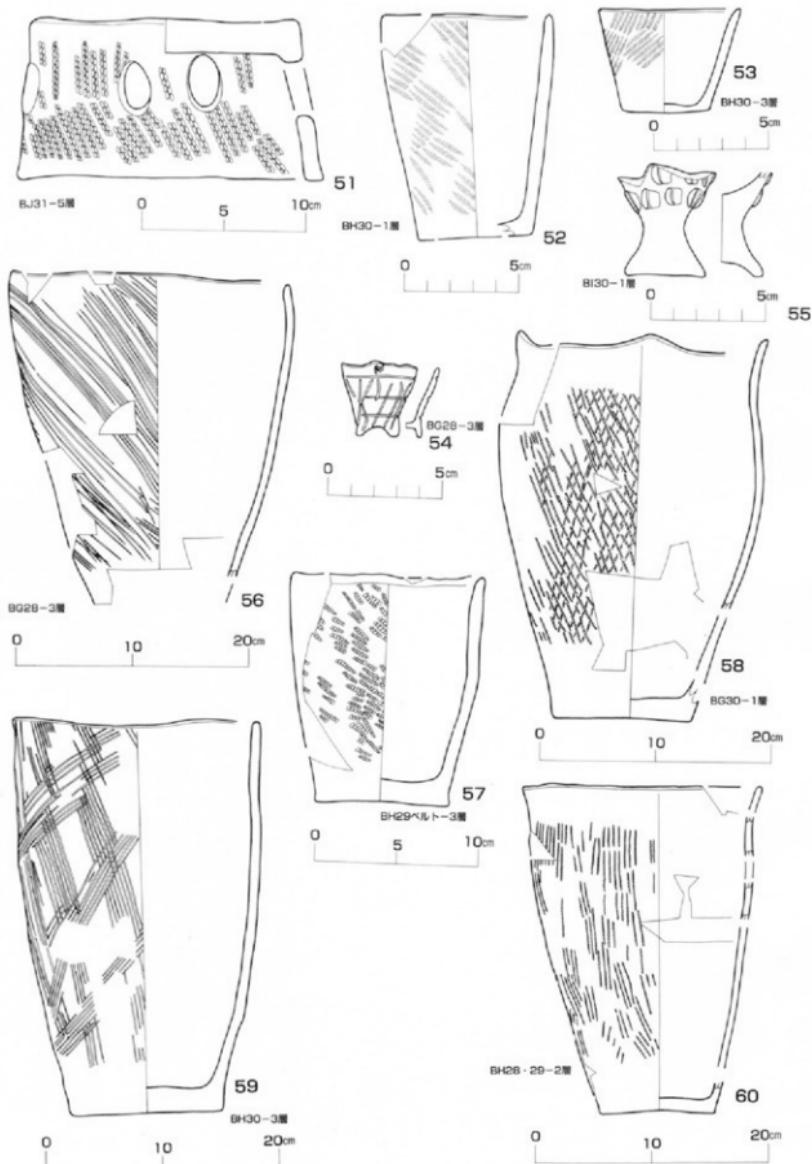


42 3号

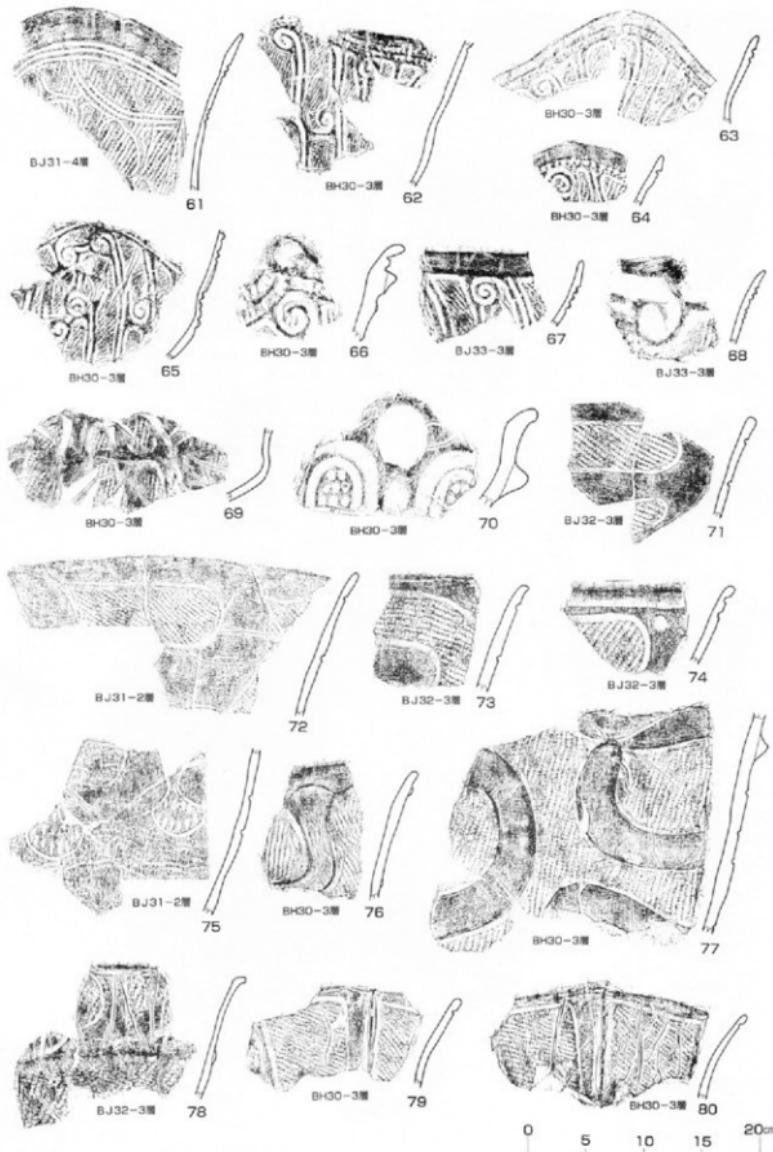
第30図 遺構外出土土器



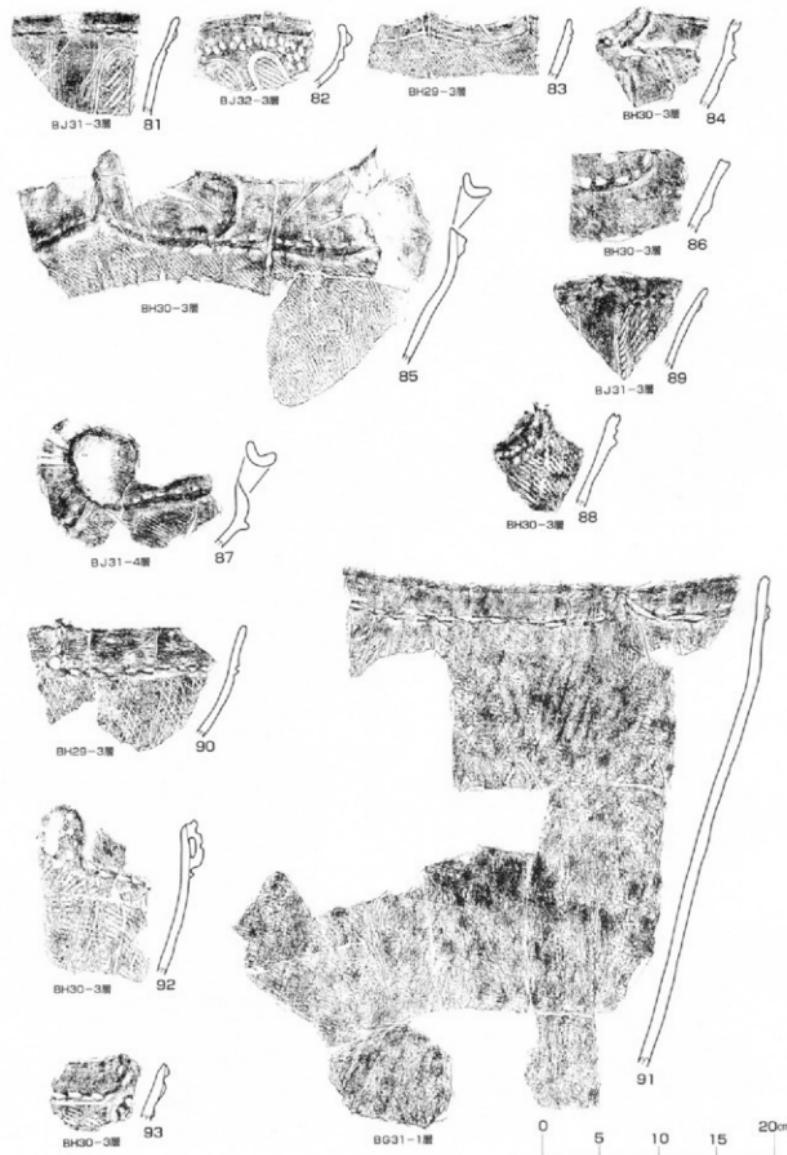
第31図 遺構外出土土器



第32図 遺構外出土土器

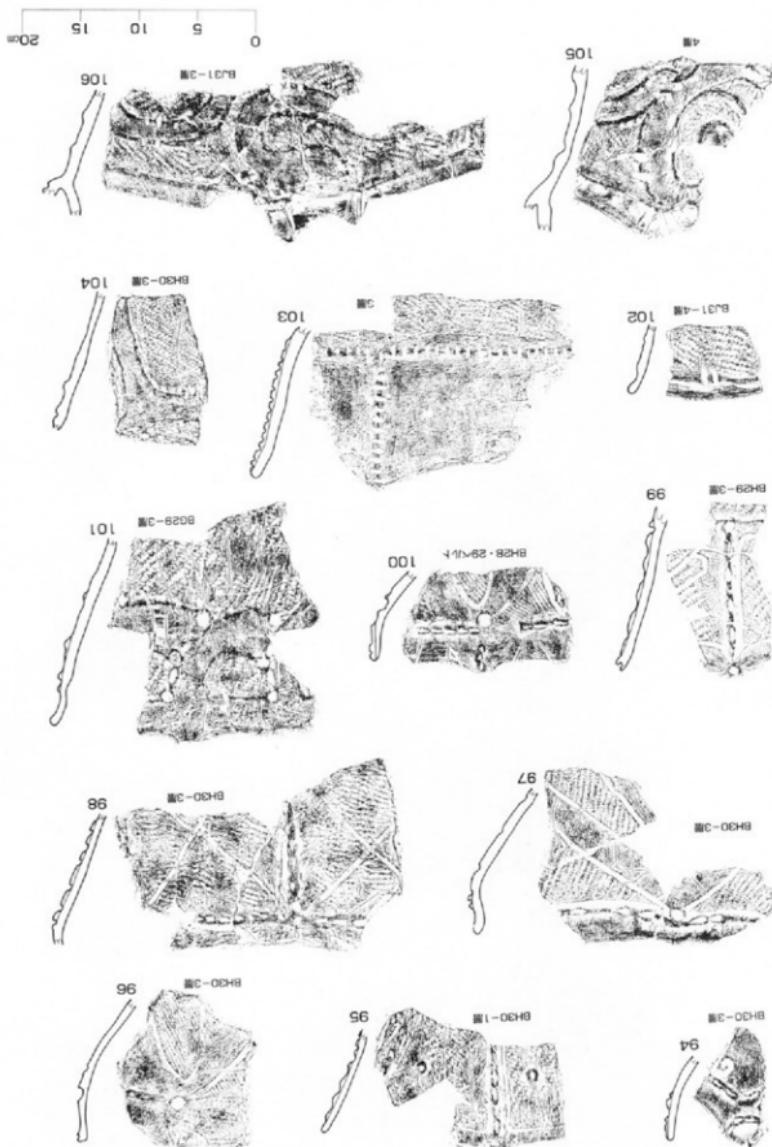


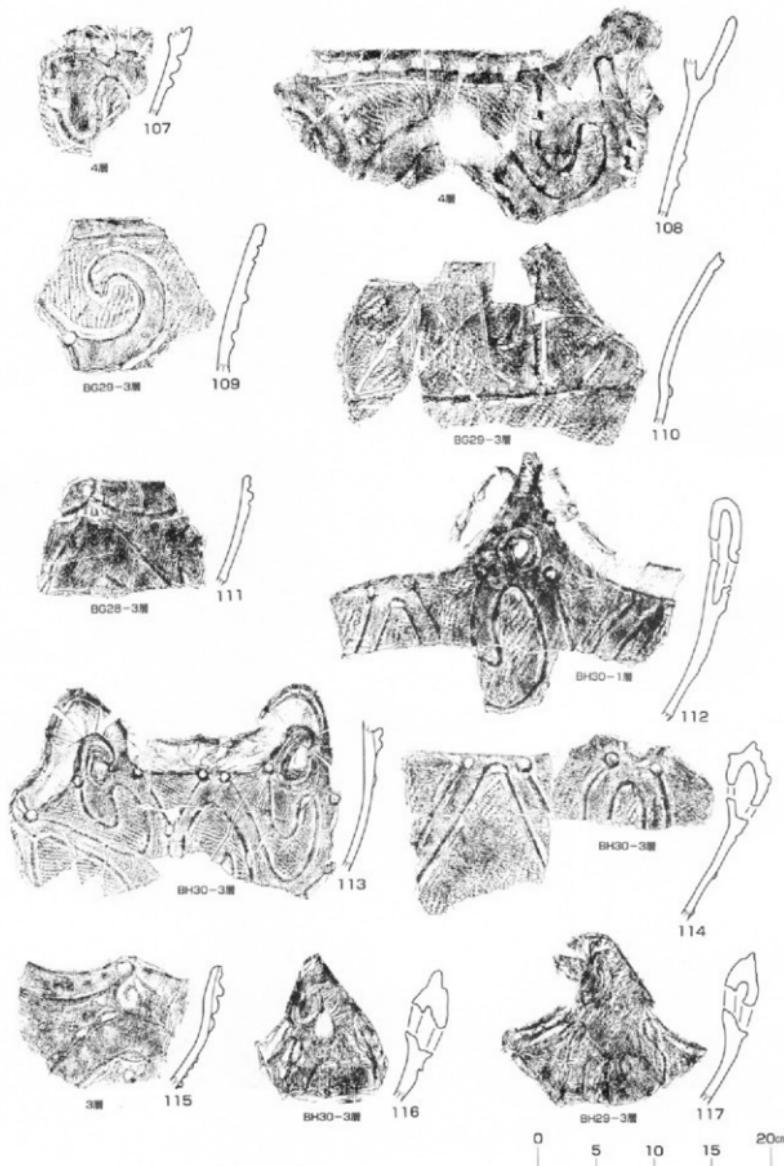
第33図 遺構外出土土器



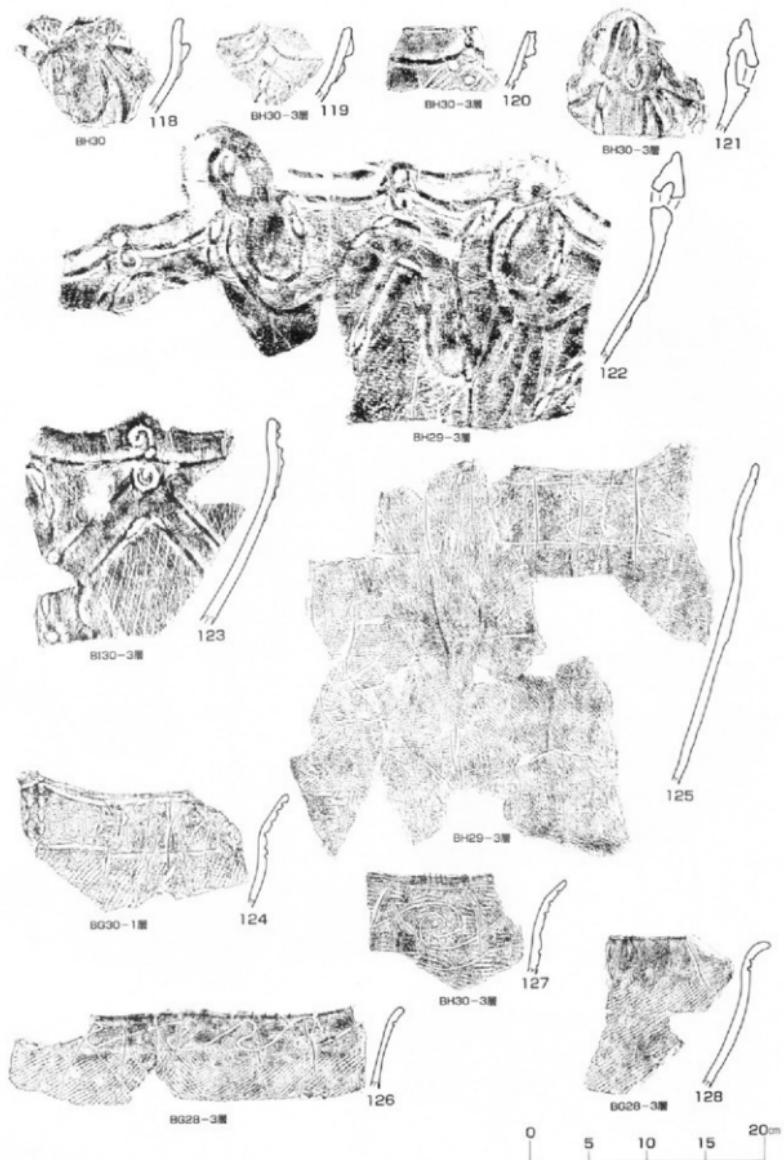
第34図 遺構外出土土器

第35圖 遺物出土土器

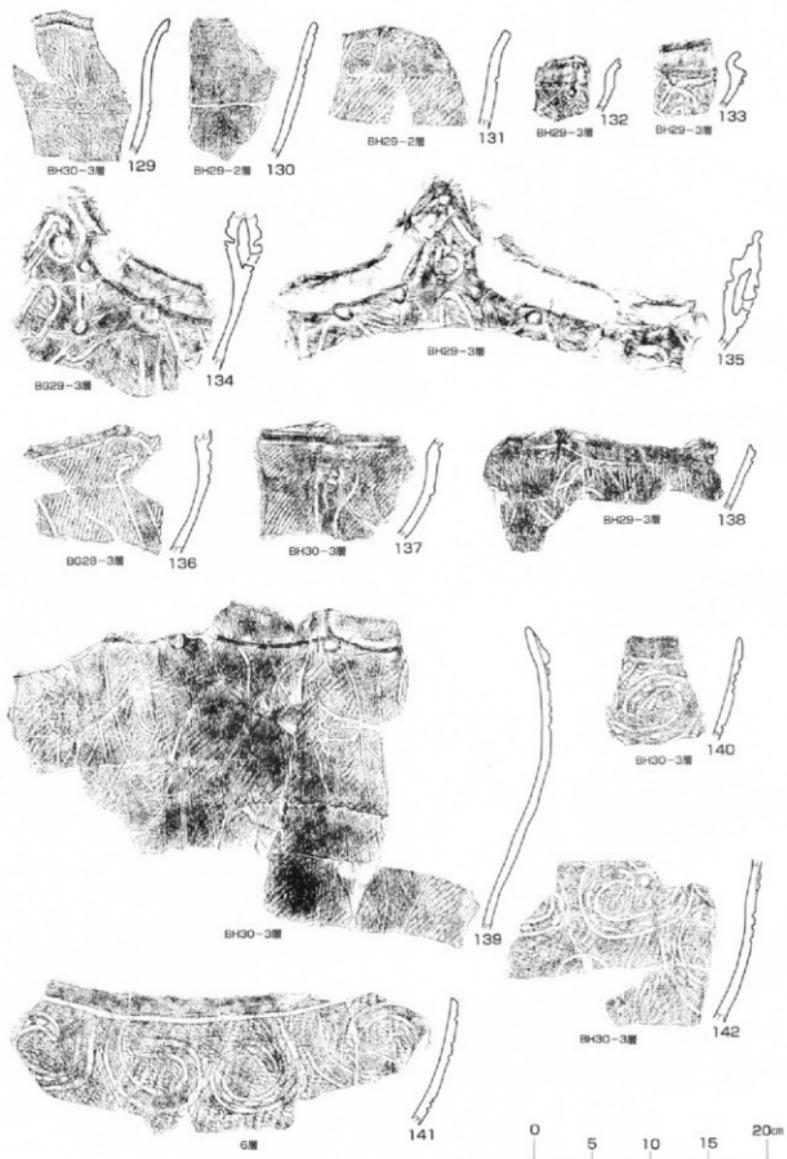




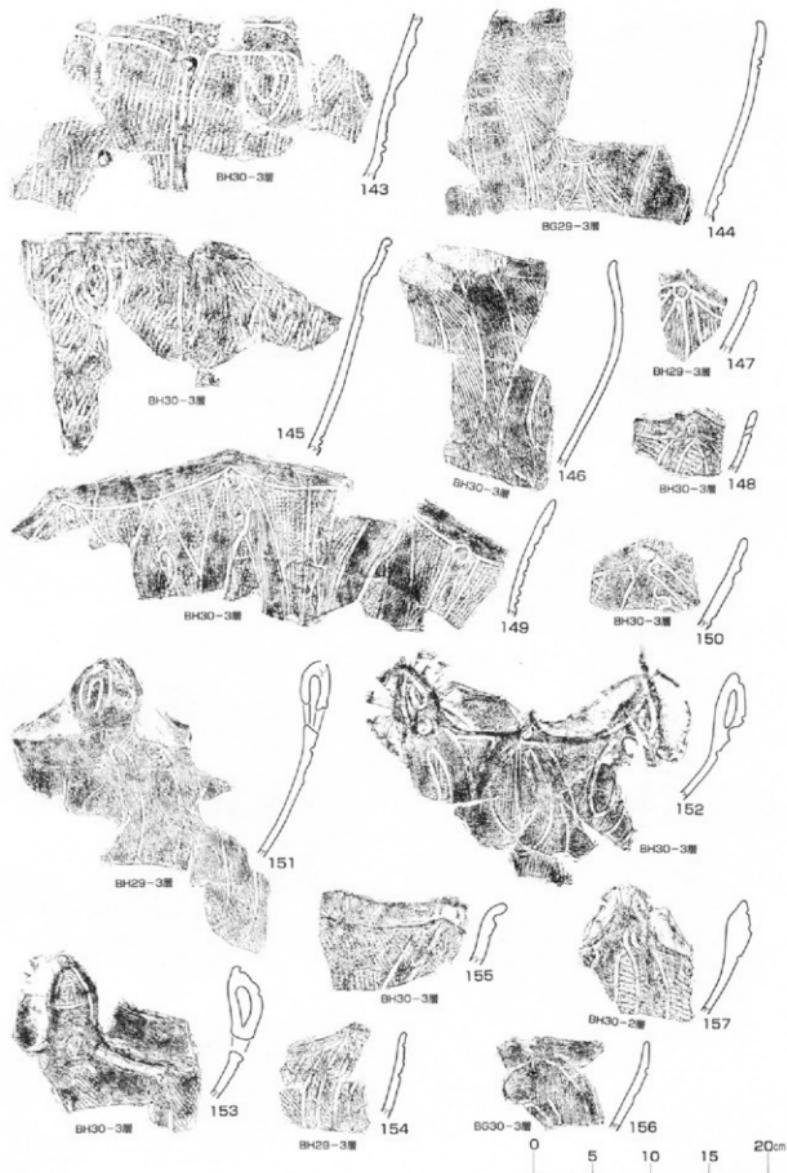
第36図 遺構外出土土器



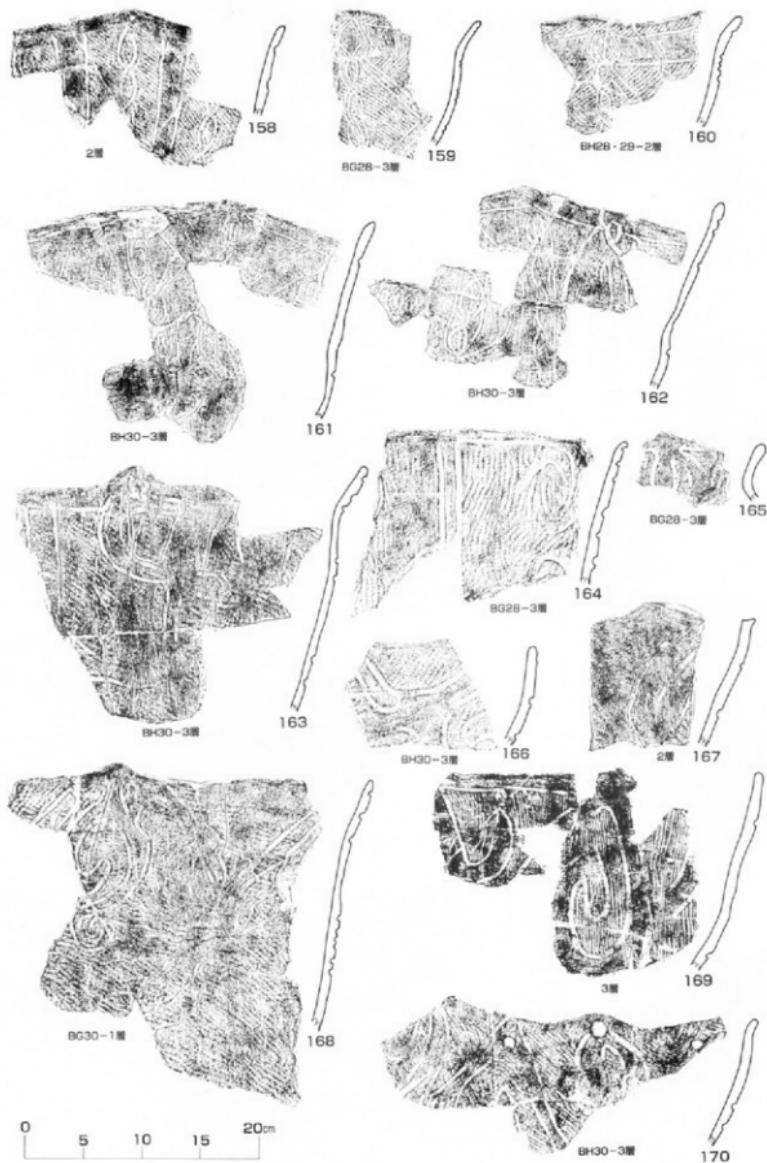
第37図 遺構外出土土器



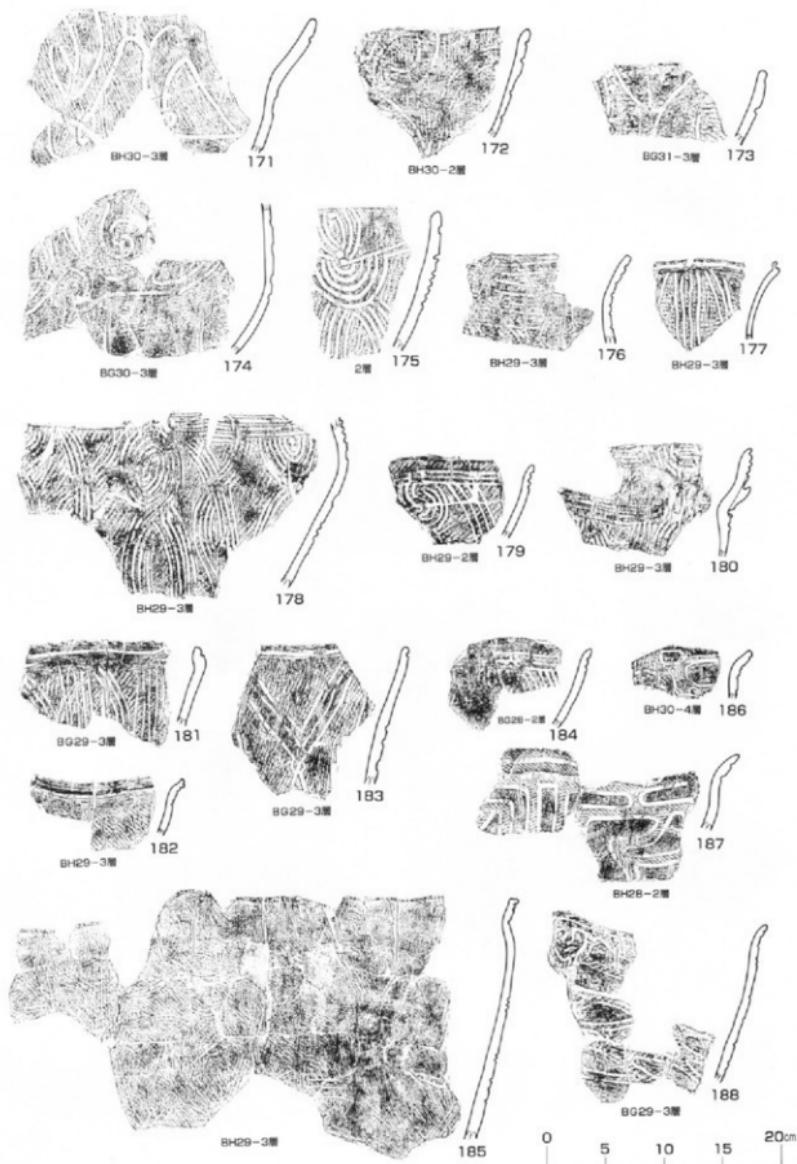
第38図 遺構外出土土器



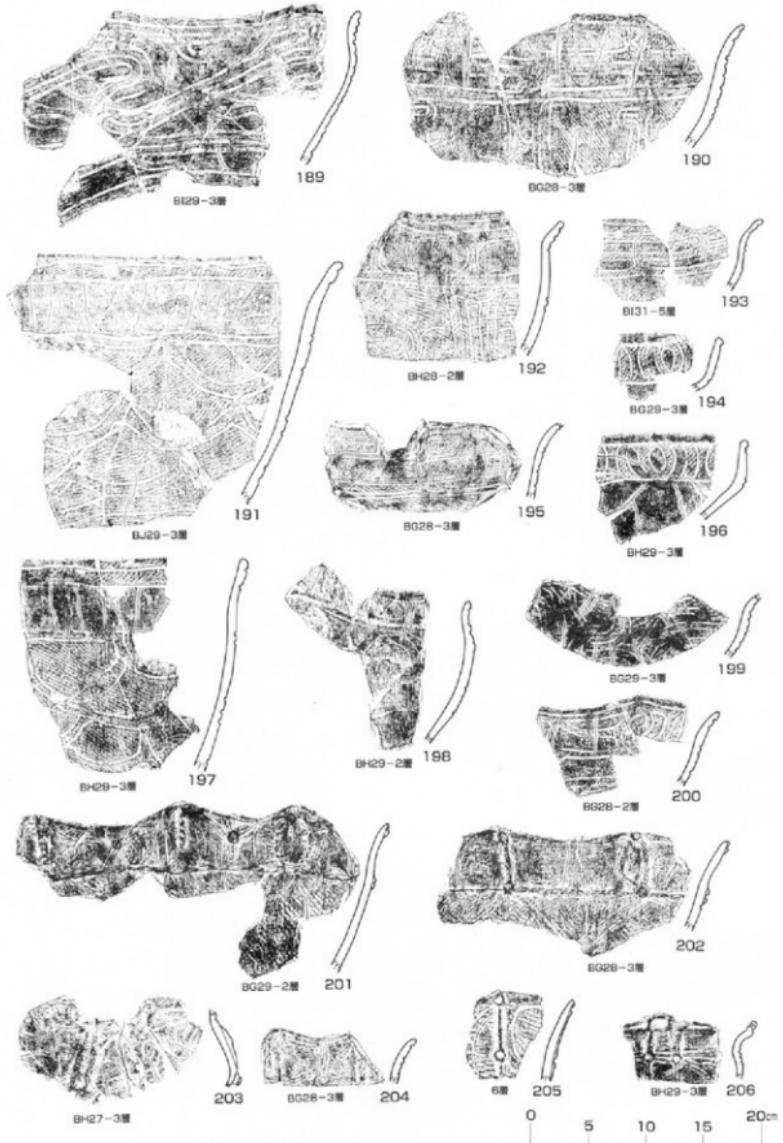
第39図 遺構外出土土器



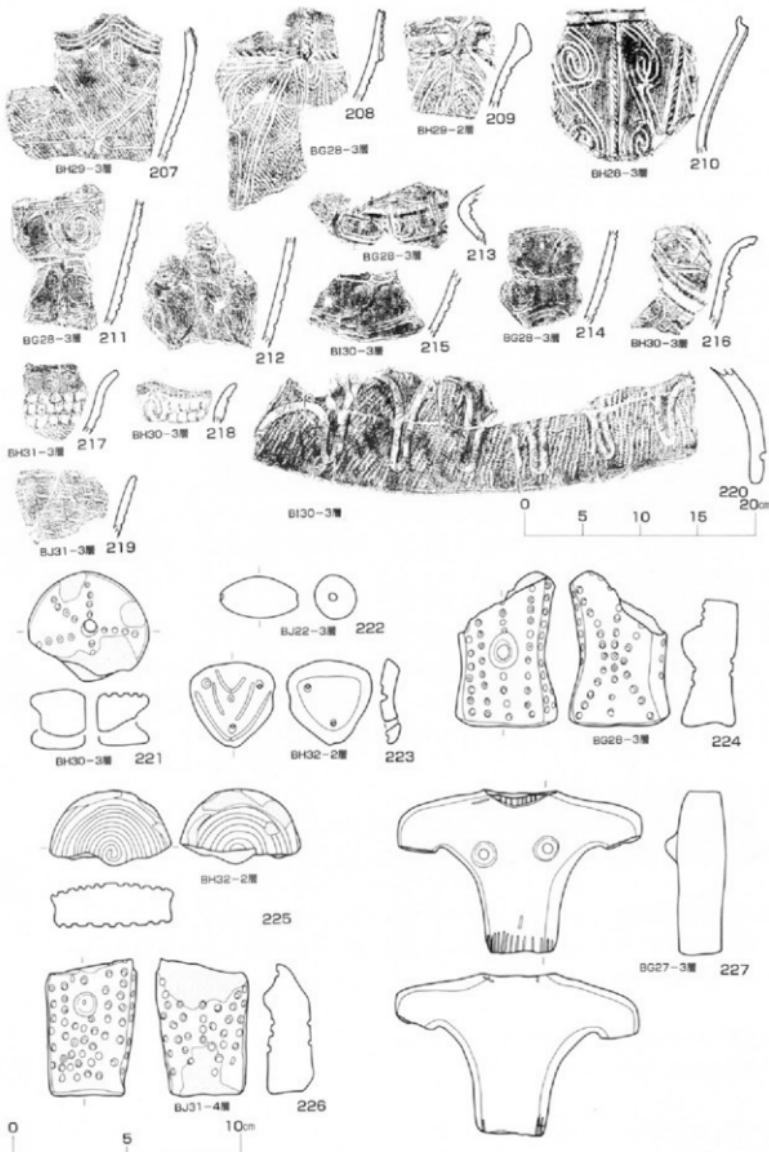
第40図 遺構外出土土器



第41図 遺構外出土土器



第42図 遺構出土土器



第43図 遺構外出土土器・土製品

4、石器（第44図～46図、写真図版15～20、第4表～第11表）

出土した石器は、石鎌344点・尖頭器14点・石錐8点・石匙11点・不定形石器230点・打製石斧2点・磨製石斧23点・石皿7点・敲石2点・磨石3点・石製円盤10点・砾石器2点・凹石5点・石棒10点・石錐1点・石製品1点・線刻石1点の、総計672点である。以下、器種ごとに説明を行う。

（1）石鎌（第44図1～19、写真図版15-1～16-342）

石鎌は未製品を含めて342点出土した。石質は、チャート248点（72.52%）、珪質頁岩65点（19.01%）、黒曜石16点（4.68%）、細粒砂岩5点、蛋白石4点、凝灰質頁岩2点で、他に珪質凝灰岩、玄武岩があるが、いずれも出土は1点である。茎部の有無・基部の形状・側縁の形状によって細分が可能である。

第Ⅰ群（第44図1～5、写真図版15-1～34）

有茎の石鎌である。34点が出土したが、無茎の石鎌に比べると数は少ない。

第1類（第44図1・2、写真図版15-1～7）

基部が平基をなすもの。7点出土した。身部が正三角形をなすもの（1、写真1・2）と二等辺三角形をなすものと（2、写真3～7）がある。側縁の形状は、外弧をなすもの（2、写真3）、直線的なものの（1、写真1・4）、内弧をなすもの（写真5・6）、基部付近で膨らむもの（写真7）がある。茎部は写真4は短く作り出されている。

第2類（第44図3・4、写真図版15-8～18）

基部が凹基をなすもの。11点出土した。身部は二等辺三角形をなす。側縁の形状は、外弧をなすもの（写真9～13）、直線的なもの（写真12～16）、内弧をなすもの（4、写真17）、基部付近で膨らむもの（写真18）がある。茎部は3・写真16は短く作り出されている。

第3類（第44図5、写真図版15-19～29）

基部が尖基をなすもの。11点出土した。身部は二等辺三角形状で、側縁は、外弧をなすもの（5、写真21～25）、直線的なもの（写真26～29）がある。

第4類（写真図版15-30～34）

基部が円基をなすもの。5点出土した。身部は二等辺三角形状をなし、側縁は外弧をなすもの（写真30）、直線的なもの（写真32～34）、基部付近で膨らむもの（写真31）がある。

第Ⅱ群（第44図6～19、写真図版15-35～16-295）

無茎の石鎌である。246点出土した。

第1類（第44図6～8、写真図版15-36～67）

基部が平基をなすもの。32点出土した。

A、（第44図6・7、写真図版15-36～40）

身部が正三角形状のもの。5点出土した。側縁は、外弧をなすもの（6、写真36～39）と内弧をなすもの（7、写真40）がある。

B、（第44図8、写真図版15-41～67）

身部が二等辺三角形のもの。27点出土した。側縁は、外弧をなすもの（写真45～51）、直線的なもの（8、写真52～64）、内弧のもの（写真65・66）、基部付近で膨らむもの（写真67）がある。

第2類（第44図9～13、写真図版15-68～16-275）

基部が凹基のもの。206点出土した。

A、（第44図9、写真図版15-83～100）

身部が正三角形状のもの。18点出土した。側縁は、外弧をなすもの（9、写真83～93）と、直線的なもの（写真94～98）、基部付近で膨らむもの（写真99・100）がある。基部の抉りは、浅いもの（写真83～87、95・96・99）と、深いもの（9、写真88～93・97・98・100）がある。

B、（第44図10～12、写真図版15-101～16-272）

身部が二等辺三角形状のもの。167点出土した。側縁は、外弧をなすもの（10・11、写真127～17・3）、直線的なもの（12、写真174～220）、内弧のもの（写真221～236）、基部付近が膨らむもの（写真237～272）がある。基部の抉りは浅いもの（10、写真102～112・127～145・176～193・221～228・237～244）と深いもの（11・12、写真113～126・146～173・194～219・229～236・245～272）、非常に深いもの（写真220）がある。

C、（第44図13、写真図版16-273～275）

身部が二等辺三角形状のもので、基部の長さが側縁の長さより長いものである。3点出土した。側縁は、外弧をなすもの（写真273）、基部付近が膨らむもの（13、写真274・275）がある。基部の抉りは写真273・275は浅い。

第3類（第44図14～16、写真図版16-276～284）

基部が尖基をなすものである。9点出土した。身部は、14は正三角形状で、他は二等辺三角形状である。側縁は、外弧をなすもの（14・15、写真276～281）、直線的なもの（写真282・283）、基部付近が膨らむもの（16、写真284）がある。

第4類（第44図17～19、写真図版16-285～295）

基部が円基をなすものである。11点出土した。身部はすべて二等辺三角形状で、側縁は、外弧をなすもの（17、写真286～293）、直線的なもの（18、写真294）、内弧をなすもの（19、写真295）がある。

第5類（写真図版16-296～342）

欠損により形状の不明のもの（写真307～342）、未製品（写真296～305）を一括した。形状不明のものは36点、未製品は11点出土している。

(2) 尖頭器（第44図20～23、写真図版16-343～357）

尖頭器は15点出土した。基部の形状は、平基をなすもの（I：20・21、写真345～350）、円基をなすもの（II：22～23、写真351～357）がある。身部の形状は、22は正三角形をなし（A）、他は二等辺三角形である（B）。側縁は、21・写真357が直線状で（a）、他は外弧である（b）。

(3) 石錐（第44図24・25、写真図版16-358～365）

石錐は8点出土した。頭部と身部が明瞭に区分されるもの（I）と頭部と身部の境界が不明瞭なもの（II）に細分が可能である。

(4) 石匙（第44図26～29、写真図版16-366～375・17-521）

石匙は11点出土した。身部の形状は、横長のもの（I）と縱長のもの（II）がある。刃は、片刃のもの（A:26・28、写真367・369～372）と、両刃のもの（B:27・29、写真368・373～375・521）のものがある。刃を一辺にもつもの（a）、二辺に刃を有するもの（b）、三辺に刃を有するもの（c）がある。写真368は柄を欠損する。

(5) 不定形石器（第44図30～50、写真図版16-376～18-605）

不定形石器は229点出土し、石錐に次いで数が多い。刃の数・形状によって細分が可能である。

第Ⅰ群（第44図30～34、写真図版16-376～17-520・18-522）

一辺に刃を有するもの。146点出土した。刃には、片刃のもの（A）・両刃のもの（B）が見られ、形状は、丸みを帯びるもの（a）・直線的なもの（b）・ノッチを有するもの（c）がある。

第Ⅱ群（第44図35～42、写真図版18-523～556）

二辺に刃を有するもの。34点出土した。刃には、片刃のもの（A）・両刃のもの（B）・一辺が片刃で他は両刃のもの（C）がある。刃の形状は、丸みを帯びるもの（a）・直線的なもの（b）・一辺が丸みをおび他は直線的なもの（c）・一辺にノッチを有し他は丸みを帯びるもの（d）がある。

第Ⅲ群（第44図43～47、写真図版18-557～563）

三辺に刃を有するものである。7点出土した。刃には、片刃のもの（A）・両刃のもの（B）・二辺が片刃で一辺が両刃のもの（C）、二辺が両刃で一辺は片刃のもの（D）がある。刃の形状は、二辺が丸みを帯び一辺が直線的なもの（a）、二辺が直線的で一辺が丸みを帯びるもの（b）、一辺にノッチを有し二辺が直線的なもの（c）、一辺にノッチを有し一辺が直線的で他の一辺が丸みを帯びるもの（d）がある。

第Ⅳ群（第44図48、写真18-564）

全周に刃部を有するものである。1点のみ出土した。刃は両刃で、形状は橢円形を呈している。

第Ⅴ群（第44図49、写真図版18-565～567）

両極剥離によるものである。3点出土した。刃は片刃で、裁断面を有するもの（49、写真565・566）と、持たないもの（写真567）がある。

第VI群 (第44図50、写真図版18-568~605)

マイクロフレーリングを有するものである。38点出土した。

(6) 打製石斧 (第44図51、写真図版18-606・607)

2点出土した。写真606は刃部は欠損する。51は片面のみ加工されている。

(7) 磨製石斧 (第45図52~57、写真図版18-608~19-629)

21点出土した。蛇紋岩製の極めて大型のもの (A) ものと、小型のもの (B)、未製品 (C) がある。大型のものは、刃部・頭部は幾分丸みを帯びている。刃部には使用痕が見られず、祭祀用具であろう。小型のものは、刃部は丸みを帯びており、頭部は、尖るもの (a)、丸みを帯びるもの (b)、平坦に作り出されるもの (c) がある。

(8) 磨石 (写真図版19-630~633)

4点出土した。自然礫を利用したものである。写真630は梢円礫を利用したもので平坦面を有している。写真631~633は不定形の礫を用いたもので、部分的に研磨されている。

(9) 石皿 (写真46図58・59、写真図版19-634~640)

7点出土したが、完形のものはない。脚を有するもの (A) と、持たないものがあるが (B)、細片のため、不明のものが多い。

(10) 敲石 (第46図60、写真図版19-641・642)

2点出土した。自然礫を利用したもので、写真641は梢円礫の側面に、60は礫の先端に敲打痕を有している。

(11) 石棒 (写真図版19-644~20-653)

10点出土した。自然礫の一部を研磨したもの (A) と、全体を成形しているもの (B) がある。

(12) 石製円盤 (第46図63・64、写真図版20-655~664)

10点出土した。扁平な礫の側面を打ち欠き、円形・梢円形に整形されたもの (A)、研磨が施されているもの (B) がある。

(13) 砕石器 (写真図版20-665・666)

2点出土した。扁平な礫の側縁の両面を打ち欠き、刃を設けたものである。

(14) 石錘 (写真図版20-667)

1点出土した。偏平な梢円礫の両側縁を打ち欠いたものである。

(15) 凹石 (第46図65、写真図版20-668~672)

5点出土した。自然礫に凹みを有するもの (A) と、石棒の欠損品に凹みを有するもの (B) がある。

(16) 線刻を有するもの（第46図61、写真図版19-643）

1点出土した。安山岩礫の片面に7本の沈線を有するが、モチーフは不明である。

(17) 石製品（第46図62、写真図版19-654）

1点出土した。珪質岩製で、一部欠損する。全体丁寧に研磨されており、貫通孔を有している。

5、動物遺存体（写真図版20-673～680）

堂の前貝塚出土動物遺存体種名表

腹足綱	アカニシ
二枚貝綱	1 マガキ
	2 ウバガイ
	3 オオノガイ
哺乳綱	1 ネズミ科の一種
	2 イノシシ
	3 シカ

1997年度の堂の前貝塚の発掘調査で出土した動物遺存体は、重量にして約500gである。これらには、焼けて白色化した小破片や粉状を呈するものなど多く含まれている。関節部の残るものを中心同定を行ったところ、種同定できた資料は25点であった。同定の結果、軟体動物4種（腹足綱1種、二枚貝綱3種）、脊椎動物哺乳綱3種が確認された。出土内容については第11表に示した。以下、各動物遺存体について触れる。

アカニシ：BH31-2層より1点が出土している。殻頂部を欠くが、軸唇部などの破片が残存する。

マガキ：貝類では最も出土量が多くBH31-2層より左殻1点、右殻1点、BJ31-3層より右殻2点、BJ32-5層より左殻1点、右殻1点の合計6点が出土している。BH31-2層から出土している右殻は、殻高98.6mm、殻長71.9mmで、岩場から剥がすためにいたとされる筋痕（貝柱）の位置する腹縁側に打ち欠いた痕跡を有する。また、腹縁に沿うように殻頂部に向かって1cmほどの位置に直径7～8mmの梢円形や半円形の孔が3つ穿ってある。

ウバガイ：BH30-3層より右殻1点が出土している。表面がかなり摩耗、剥落している。

オオノガイ：BH30-4層より左殻1点が出土している。特徴的な大きくさじ状を呈する韌帶受のみが残存する。

ネズミ科の一種：BJ32-5層より臼歯の遊離歯が1点出土している。

イノシシ：CA33-2層より右中節骨1点、BH29-3層より右尺骨1点、BJ31-5層左下顎第3後臼歯1点、左下顎関節突起1点、左踵骨近位骨端1点の合計5点が出土している。このうち右尺骨と左踵骨近位骨端は、骨端の癒着していない若獣のものである。

また、右中節骨、右尺骨、左踵骨近位骨端は、受熱による色調変化が見られ、白色化している。右中節骨は、骨端の癒着が完了しており成獣のものであるが、一般的なイノシシの成獣の中節骨よりややすびまりであり、病変などで見られるような形態の変化が認められることがから奇形骨と思われる。

シカ：CA33-2層より左基節骨遠位端1点、BJ31-3層より左足根骨1点、腰椎1点、右中節骨遠位端1点、BJ32-3層より中手・中足骨遠位骨端1点、BJ33-3層より基節骨？1点、BJ32-5層より右踵骨1点、右距骨1点、鹿角1点、腰椎1点の合計10点が出土している。

BJ32-3層出土の中手・中足骨遠位骨端のみが若獣のもので、これ以外はすべて成獣のものである。BJ31-3層出土の腰椎と、BJ32-5層出土の4点すべては熱は受けていないが、これ以外の資料はすべて受熱による色調変化が見られ、白色化している。

小破片などが多い中、BJ32-5層出土の資料は、比較的保存状態が良好であり右踵骨、右距骨はほぼ完形である。また、鹿角は角幹部の資料であるが破損していない一方は、打痕が見られ、折り取られている。

前回1996年度に出土した動物遺存体は、すべてFF32埋設土器周辺の炭化物範囲から出土し、熱を受け白色化し、食料とはならない鹿角も熱を受け白色化していた（注1）のに対し、今回出土した動物遺存体は、遺構からの出土ではなく熱を受け白色化している資料と、熱を受けない資料の両方が見られ、鹿角は熱を受けていないことなどから性格の異なるものと思われる。

注1：陸前高田市文化財調査報告書第18集「堂の前貝塚発掘調査報告書1」平成9年3月

第3表 出土動物遺存体一覧表

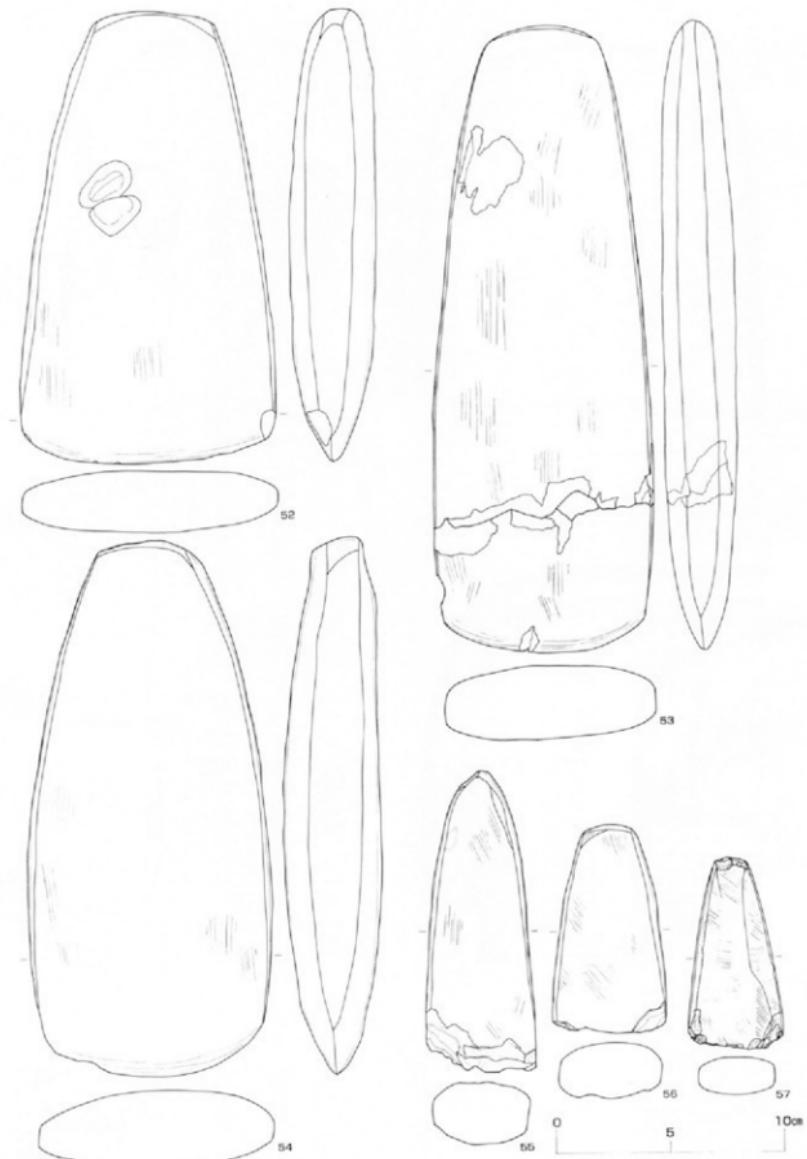
グリット	層位	種名	部位	数	受熱による色調変化	齢	備考
BH31	2層	マガキ	右歯	1			
BH31	2層	マガキ	左歯	1			
CA33	2層	シカ	左基節骨遠位端	1	有（焼けて白色化）	成獣	
CA33	2層	イノシシ	右中節骨	1	有（焼けて白色化）	成獣	
BH29	3層	イノシシ	右尺骨	1	有（焼けて白色化）	若獣	
BI30	3層	ウバガイ	右歯	1			
BJ31	3層	シカ	左足根骨	1	有（焼けて白色化）	成獣	
BJ31	3層	シカ	腰椎	1	無	成獣	
BJ31	3層	シカ	右中節骨遠位端	1	有（焼けて白色化）	成獣	
BJ31	3層	マガキ	右歯	2			
BJ31	3層	アカニシ		1			
BJ32	3層	シカ	中手・中足骨遠位端	1	有（焼けて白色化）	若獣	
BJ33	3層	シカ	基節骨？	1	有（焼けて白色化）	成獣	
BH30	4層	オオノガイ	左歯	1			
BJ31	5層	イノシシ	左下顎第3後臼歯	1	無	成獣	
BJ31	5層	イノシシ	左下顎関節突起	1	無	成獣	
BJ31	5層	イノシシ	左踵骨近位骨端	1	有（焼けて白色化）	若獣	
BJ32	5層	ネズミ科の一種	遊離歯	1	無	成獣	
BJ32	5層	マガキ	左歯	1			
BJ32	5層	マガキ	右歯	1			
BJ32	5層	シカ	右踵骨	1	無	成獣	
BJ32	5層	シカ	右距骨	1	無	成獣	
BJ32	5層	シカ	鹿角（角幹部）	1	無	成獣	
BJ32	5層	シカ	腰椎	1	無	成獣	加工痕有り

6 アスファルト（写真図版14-235・236）

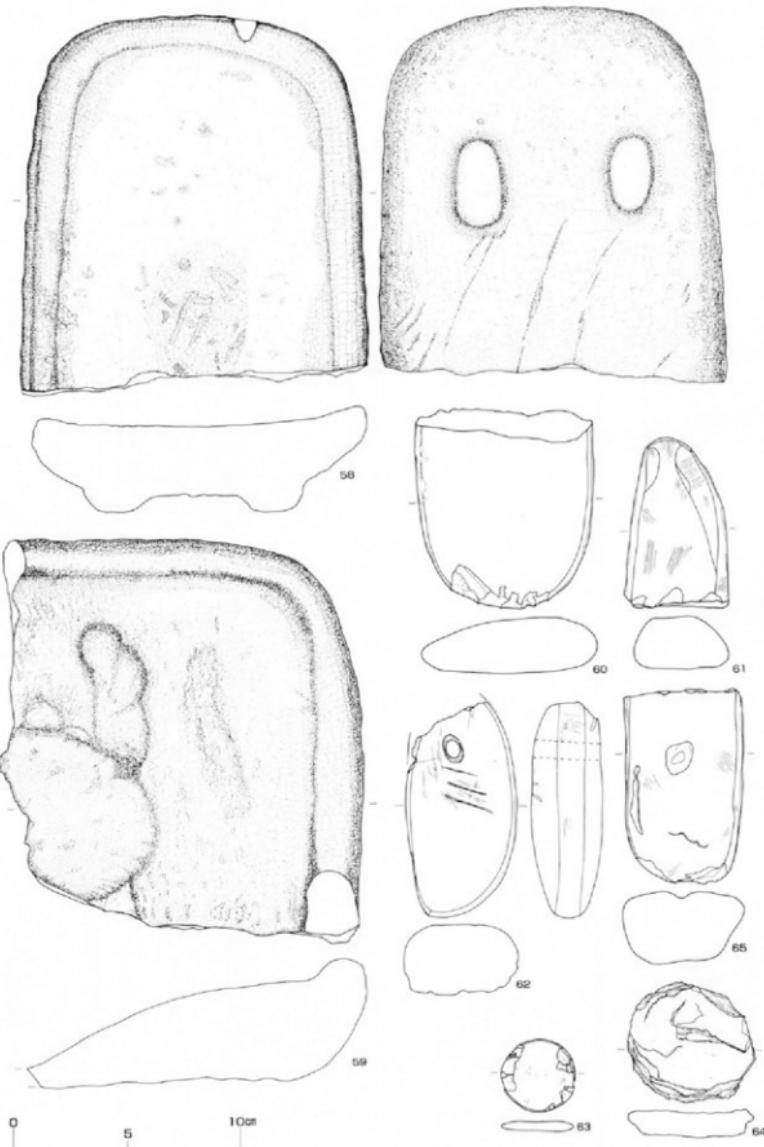
平成8年度の発掘調査において、アスファルト2点が出土した。未報告であったので、本書をもって報告する。重量は、3.3g、5.5gである。共に一面に自然面を残している。



第44図 遺構外出土石器



第45図 遺構外出土石器



第46図 遺構外出土石器

第4表 遺構外出土石器一覧表

図版	地点	層	器種	分類	石材	長さ	幅	厚さ	重さ	登録番号
第44図1、2、3、4、5、6、7、8、9、10、11、12、13、14、15、16、17、18、19、20、21、22、23、24、25、26、27、28、29、30、31、32、33、34、35、36、37、38、39、40、41、42、43、44、45、46、47、48、49、50、51、52、53、54、55、56、57、58、59、60、61、62、63、64、65、66、67、68、69、70、71、72、73、74、75、76、77、78、79、80、81、82、83、84、85	BH42	1	石鏡	一	チャート	13.9	11.3	3.0	0.30	9740
	CG41	3	石鏡	一	チャート	22.2	14.7	5.0	1.20	9787
	BH29	3	石鏡	一	チャート	22.0	15.2	3.3	0.70	9504
	BF	1	石鏡	一	チャート	22.5	14.2	3.3	0.60	10199
	BH29	3	石鏡	一	チャート	22.6	14.4	3.6	0.70	9503
	BH430	2	石鏡	一	チャート	16.6	13.0	3.5	0.40	9488
	BJ32	2	石鏡	一	細粒砂岩	25.0	13.2	3.0	0.60	10223
	BJ32	1	石鏡	一	チャート	13.1	15.5	3.3	0.40	10046
	BG28	3	石鏡	一	チャート	19.8	10.5	4.6	0.55	9498
	BH30	1	石鏡	一	チャート	26.0	16.4	6.0	1.35	9402
	BJ31	2	石鏡	一	チャート	19.2	16.4	4.0	1.10	9394
	不明	1	石鏡	一	チャート	15.6	12.4	2.8	0.40	9496
	BH28	2	石鏡	一	チャート	22.0	16.8	4.0	0.90	9493
	BG32	5	石鏡	一	チャート	16.1	12.1	3.2	0.50	10127
	BJ11	5	石鏡	一	チャート	19.4	10.8	2.6	0.40	9499
	BG28	4	石鏡	一	珪質頁岩	20.2	11.6	3.7	0.70	10119
	BG30	1	石鏡	一	珪質頁岩	22.6	12.4	4.0	0.80	9502
第44図4、5、6、7、8、9、10、11、12、13、14、15、16、17、18、19、20、21、22、23、24、25、26、27、28、29、30、31、32、33、34、35、36、37、38、39、40、41、42、43、44、45、46、47、48、49、50、51、52、53、54、55、56、57、58、59、60、61、62、63、64、65、66、67、68、69、70、71、72、73、74、75、76、77、78、79、80、81、82、83、84、85	BH29	3	石鏡	一	珪質頁岩	22.4	14.3	5.0	1.00	9894
	BJ31	2	石鏡	一	珪質頁岩	13.4	12.2	3.5	0.45	9410
	不明	2	石鏡	一	珪質頁岩	17.0	16.6	3.2	0.90	9770
	BH27	2	石鏡	一	珪質頁岩	22.8	9.5	2.5	0.55	9517
	BH27	2	石鏡	一	珪質頁岩	30.5	14.0	5.7	1.70	10205
	BJ33	1	石鏡	一	珪質頁岩	39.2	20.4	7.0	3.15	9398
	CD41	3	石鏡	一	珪質頁岩	21.3	12.6	3.9	0.80	9903
	CD39	2	石鏡	一	珪質頁岩	35.6	15.4	6.5	2.90	9899
	BJ33	3	石鏡	一	珪質頁岩	17.2	11.6	2.4	0.40	10222
	BJ32	1	石鏡	一	珪質頁岩	32.0	19.5	3.8	1.70	9920
	CA34	1	石鏡	一	珪質頁岩	14.4	10.2	3.3	0.40	9781
	CA33	2	石鏡	一	珪質砂岩	24.2	13.6	4.0	0.75	9391
	BH29	2	石鏡	一	珪質頁岩	31.3	13.0	3.8	1.40	9907
	BJ33	1	石鏡	一	珪質頁岩	35.4	16.8	3.1	1.30	9924
	CD41	3	石鏡	一	珪質頁岩	25.5	10.8	5.7	1.40	9439
	CD39	2	石鏡	一	珪質頁岩	15.6	8.8	4.0	0.30	9400
	BJ33	1	石鏡	一	珪質頁岩	21.4	11.9	3.2	0.70	10212
	BJ32	3	石鏡	一	珪質頁岩	16.1	15.7	3.0	0.50	10072
	BG28	3	石鏡	一	珪質頁岩	18.9	19.7	7.0	2.30	10070
	BG29	2	石鏡	一	珪質頁岩	22.9	21.4	6.1	2.20	9915
	BG30	1	石鏡	一	珪質頁岩	19.4	18.9	6.0	2.00	10116
	DF42	2	石鏡	一	珪質頁岩	14.6	14.4	3.7	0.60	9790
	BH31	2	石鏡	一	珪質頁岩	17.4	19.1	5.3	1.20	9792
	BH30	3	石鏡	一	珪質頁岩	18.4	13.0	3.4	0.70	9564
	CA35	5	石鏡	一	珪質頁岩	19.1	18.9	4.1	1.40	10126
	CA33	2	石鏡	一	珪質頁岩	21.0	18.0	5.3	2.00	10226
	BJ31	1	石鏡	一	珪質頁岩	17.6	13.7	2.9	0.80	9982
	BJ32	3	石鏡	一	珪質頁岩	28.1	12.6	4.3	1.50	10117
	BH29	2	石鏡	一	珪質頁岩	19.2	13.6	2.9	0.60	9469
	BH30	2	石鏡	一	珪質頁岩	19.2	18.6	6.2	3.30	9450
	BH31	2	石鏡	一	珪質頁岩	14.4	12.2	2.9	0.50	10197
	BH30	3	石鏡	一	珪質頁岩	19.9	23.5	6.3	2.20	9911
	CA33	2	石鏡	一	珪質頁岩	21.0	18.0	5.6	1.80	9452
	BJ30	2	石鏡	一	珪質頁岩	17.6	13.7	2.9	0.80	9982
	BH29	3	石鏡	一	珪質頁岩	28.1	12.6	4.3	1.50	10117
	不明	2	石鏡	一	珪質頁岩	19.2	13.6	2.9	0.60	9469
	BF	1	石鏡	一	珪質頁岩	14.6	12.2	2.9	0.50	10197
	BH29	3	石鏡	一	珪質頁岩	19.9	23.5	6.3	2.20	9911
	BH	1	石鏡	一	珪質頁岩	21.2	17.4	7.0	2.20	9914
	BH29	3	石鏡	一	珪質頁岩	20.3	18.0	5.6	1.80	9452
	CA38	2	石鏡	一	珪質頁岩	25.2	23.1	6.8	2.50	9786
	BG29	2	石鏡	一	珪質頁岩	23.1	18.6	8.1	3.20	10068
	BJ30	2	石鏡	一	珪質頁岩	28.6	17.6	6.0	2.00	9411
	CA33	3	石鏡	一	珪質頁岩	23.4	19.5	4.8	1.50	9454
	BH29	3	石鏡	一	珪質頁岩	19.5	15.0	3.6	0.80	9588
	BH	1	石鏡	一	珪質頁岩	19.1	15.4	3.5	0.70	9984
	CA38	2	石鏡	一	珪質頁岩	24.7	20.2	7.9	3.00	9763
	CA33	2	石鏡	一	珪質頁岩	23.4	13.8	6.4	1.30	10204
	BH30	2	石鏡	一	珪質頁岩	33.4	27.2	7.7	4.50	9981
	CA35	1	石鏡	一	珪質頁岩	23.8	22.0	4.8	2.30	9444
	BH29	3	石鏡	一	珪質頁岩	18.6	18.7	5.4	1.90	9783
	BJ32	3	石鏡	一	珪質頁岩	26.0	16.2	4.7	1.35	9427
	BJ32	2	石鏡	一	珪質頁岩	24.6	20.4	9.4	3.00	9428
	BH30	3	石鏡	一	珪質頁岩	30.8	12.0	5.0	1.40	9460
	BH29	2	石鏡	一	珪質頁岩	20.3	18.4	4.3	1.00	9798
	BJ32	2	石鏡	一	珪質頁岩	26.4	17.4	4.5	1.20	9397
	BG29	2	石鏡	一	珪質頁岩	16.8	10.4	2.3	0.30	9784
	BJ32	2	石鏡	一	珪質頁岩	13.4	7.2	1.7	0.10	9597
	BJ32	2	石鏡	一	珪質頁岩	17.2	11.2	1.9	0.20	9596
	CA35	2	石鏡	一	珪質頁岩	13.4	15.3	2.8	0.40	9785
	BJ32	1	石鏡	一	珪質頁岩	16.3	18.8	4.4	1.00	10208
	BH30	1	石鏡	一	珪質頁岩	15.0	9.3	2.7	0.30	10028
	BJ32	1	石鏡	一	珪質頁岩	12.9	14.8	2.5	0.50	9485
	BH30	2	石鏡	一	珪質頁岩	16.4	17.8	2.4	0.60	9468
	BH29	1	石鏡	一	珪質頁岩	9.8	12.9	3.0	0.30	9465
	BJ32	1	石鏡	一	珪質頁岩	12.1	16.1	3.4	0.60	9480
	BG29	1	石鏡	一	珪質頁岩	15.1	13.6	2.4	0.40	9916
	BJ32	1	石鏡	一	珪質頁岩	12.1	16.8	2.7	0.50	9768
	BG29	1	石鏡	一	珪質頁岩	12.7	16.7	2.2	0.30	9598
	BJ32	1	石鏡	一	珪質頁岩	10.2	16.0	2.8	0.40	10225
	BJ32	1	石鏡	一	珪質頁岩	19.5	15.3	3.2	0.50	10221
	BH29	1	石鏡	一	珪質頁岩	14.8	16.1	2.5	0.50	9795
	CG41	3	石鏡	一	珪質頁岩	17.2	16.6	3.6	0.90	9788
	BJ32	3	石鏡	一	珪質頁岩	24.7	22.3	7.7	3.40	10074

第5表 遺構出土石器一覧表

図版	地点	層	器種	分類	石材	長さ	幅	厚さ	重さ	登録番号
写真図版15-86	BG29	3	石鏃	二-2-A	チャ-ヤ-ト	16.7	16.8	3.0	0.60	9408
写真図版15-87	BG28	4	石鏃	二-2-A	チャ-ヤ-ト	10.8	9.8	1.7	0.20	9494
写真図版15-88	BH29	1	石鏃	二-2-A	チャ-ヤ-ト	14.1	11.3	2.0	0.30	9743
写真図版15-89	BJ33	2	石鏃	二-2-A	チャ-ヤ-ト	16.9	14.4	4.8	0.80	9481
写真図版15-90	BH30	2	石鏃	二-2-A	チャ-ヤ-ト	16.4	14.2	3.5	0.60	9412
第44図9、写真図版15-91	BH32	2	石鏃	二-2-A	チャ-ヤ-ト	12.4	12.5	3.0	0.30	9592
写真図版15-92	CF41	2	石鏃	二-2-A	チャ-ヤ-ト	15.8	16.8	3.0	0.40	9395
写真図版15-93	BH30	4	石鏃	二-2-A	チャ-ヤ-ト 珪質頁岩	18.6	17.2	2.5	0.70	9466
写真図版15-94	BH29	1	石鏃	二-2-A	チャ-ヤ-ト 珪質頁岩	16.0	15.6	2.7	0.50	9741
写真図版15-95	BH30	3	石鏃	二-2-A	チャ-ヤ-ト 珪質頁岩	16.1	15.6	2.5	0.50	9791
写真図版15-96	CE41	3	石鏃	二-2-A	チャ-ヤ-ト 珪質頁岩	15.2	14.4	2.5	0.35	9405
写真図版15-97	BH28	1	石鏃	二-2-A	チャ-ヤ-ト 珪質頁岩	19.2	18.0	2.5	0.50	10215
写真図版15-98	BH30	3	石鏃	二-2-A	チャ-ヤ-ト 珪質頁岩	11.0	11.5	2.7	0.30	9505
写真図版15-99	BH29	1	石鏃	二-2-A	チャ-ヤ-ト 珪質頁岩	17.0	16.7	4.6	1.00	9744
写真図版15-100	BH30	2	石鏃	二-2-A	チャ-ヤ-ト 珪質頁岩	13.7	12.6	2.1	0.30	9983
写真図版15-101	BH29	1	石鏃	二-2-B	チャ-ヤ-ト 珪質頁岩	17.5	14.5	3.1	0.60	9859
写真図版15-102	BG29	2	石鏃	二-2-B	チャ-ヤ-ト 珪質頁岩	15.9	14.2	5.0	1.00	10042
写真図版15-103	BH30	2	石鏃	二-2-B	チャ-ヤ-ト 珪質頁岩	17.6	17.3	3.8	1.00	9748
写真図版15-104	BJ32	3	石鏃	二-2-B	チャ-ヤ-ト 珪質頁岩	14.8	14.9	3.0	0.70	10073
写真図版15-105	BH32	2	石鏃	二-2-B	チャ-ヤ-ト 珪質頁岩	14.5	13.8	2.9	0.70	9486
写真図版15-106	BH29	2	石鏃	二-2-B	チャ-ヤ-ト 珪質頁岩	16.2	15.5	3.3	0.70	9910
写真図版15-107	BH30	3	石鏃	二-2-B	チャ-ヤ-ト 珪質頁岩	17.2	18.3	3.4	1.00	9482
写真図版15-108	BJ32	2	石鏃	二-2-B	チャ-ヤ-ト 珪質頁岩	16.0	13.6	4.0	0.70	9387
写真図版15-109	BH30	3	石鏃	二-2-B	チャ-ヤ-ト 珪質頁岩	14.8	15.6	3.0	0.60	9385
写真図版15-110	BH30	1	石鏃	二-2-B	チャ-ヤ-ト 珪質頁岩	18.3	17.8	3.5	0.80	9392
写真図版15-111	CB37	2	石鏃	二-2-B	チャ-ヤ-ト 珪質頁岩	18.2	17.7	3.0	1.00	9396
写真図版15-112	BJ32	2	石鏃	二-2-B	チャ-ヤ-ト 珪質頁岩	20.0	18.0	4.0	1.30	9386
写真図版15-113	BH31	3	石鏃	二-2-B	チャ-ヤ-ト 珪質頁岩	15.4	14.2	3.1	0.50	9775
写真図版15-114	BH32	2	石鏃	二-2-B	チャ-ヤ-ト 珪質頁岩	20.6	10.9	4.5	1.45	9393
写真図版15-115	BH30	1	石鏃	二-2-B	チャ-ヤ-ト 珪質頁岩	16.8	13.6	3.5	0.50	9860
写真図版15-116	BG27	2	石鏃	二-2-B	チャ-ヤ-ト 珪質頁岩	14.3	15.0	2.7	0.40	10203
写真図版15-117	BG28	2	石鏃	二-2-B	チャ-ヤ-ト 珪質頁岩	22.3	15.8	5.1	1.10	10207
写真図版15-118	BH30	2	石鏃	二-2-B	チャ-ヤ-ト 珪質頁岩	19.0	19.4	3.0	0.95	9422
写真図版15-119	BH30	1	石鏃	二-2-B	チャ-ヤ-ト 珪質頁岩	19.2	17.4	2.8	0.70	10045
写真図版15-120	BH30	1	石鏃	二-2-B	チャ-ヤ-ト 珪質頁岩	15.6	16.1	2.7	0.60	9862
写真図版15-121	BH31	2	石鏃	二-2-B	チャ-ヤ-ト 珪質頁岩	16.1	17.2	3.8	0.90	9913
写真図版15-122	CE40	3	石鏃	二-2-B	チャ-ヤ-ト 珪質頁岩	19.4	16.9	4.2	1.10	9767
写真図版15-123	BJ31	5	石鏃	二-2-B	チャ-ヤ-ト 珪質頁岩	19.6	17.5	3.5	0.90	10177
写真図版15-124	BH28	1	石鏃	二-2-B	チャ-ヤ-ト 珪質頁岩	13.5	15.0	2.5	0.40	10214
写真図版15-125	BH32	2	石鏃	二-2-B	チャ-ヤ-ト 珪質頁岩	15.9	15.8	3.2	0.60	9607
写真図版15-126	BH28	1	石鏃	二-2-B	チャ-ヤ-ト 珪質頁岩	16.2	18.0	2.8	0.70	10217
写真図版15-127	BH30	1	石鏃	二-2-B	チャ-ヤ-ト 珪質頁岩	23.3	16.5	6.6	2.20	9431
写真図版15-128	BH29	3	石鏃	二-2-B	チャ-ヤ-ト 珪質頁岩	18.0	12.2	3.5	0.50	9610
写真図版15-129	BH29	3	石鏃	二-2-B	チャ-ヤ-ト 珪質頁岩	14.3	12.0	2.7	0.40	9757
写真図版15-130	BH30	3	石鏃	二-2-B	チャ-ヤ-ト 珪質頁岩	21.4	12.0	3.0	0.50	9413
写真図版15-131	BH29	1	石鏃	二-2-B	チャ-ヤ-ト 珪質頁岩	21.2	16.7	6.3	2.30	9739
写真図版15-132	BH30	4	石鏃	二-2-B	チャ-ヤ-ト 珪質頁岩	15.8	11.8	2.6	0.40	9419
写真図版15-133	BJ32	2	石鏃	二-2-B	チャ-ヤ-ト 珪質頁岩	27.7	17.2	3.2	1.30	9782
写真図版15-134	BH30	2	石鏃	二-2-B	チャ-ヤ-ト 珪質頁岩	18.8	16.1	3.5	0.90	9749
写真図版15-135	BG29	1	石鏃	二-2-B	チャ-ヤ-ト 珪質頁岩	18.8	16.3	4.8	1.30	9446
写真図版15-136	BH31	1	石鏃	二-2-B	チャ-ヤ-ト 珪質頁岩	19.3	14.2	3.4	0.60	9797
写真図版15-137	BG31	3	石鏃	二-2-B	チャ-ヤ-ト 珪質頁岩	21.8	17.0	3.0	0.70	9516
写真図版15-138	BJ31	3	石鏃	二-2-B	チャ-ヤ-ト 珪質頁岩	20.0	16.0	4.5	1.20	9918
写真図版15-139	BH29	3	石鏃	二-2-B	チャ-ヤ-ト 珪質頁岩	17.7	15.5	4.5	1.10	9758
写真図版15-140	BG28	7	石鏃	二-2-B	チャ-ヤ-ト 珪質頁岩	23.4	11.9	3.7	0.80	9495
写真図版15-141	BH31	5	石鏃	二-2-B	チャ-ヤ-ト 珪質頁岩	27.2	14.2	1.9	0.60	10135
写真図版15-142	BH30	2	石鏃	二-2-B	チャ-ヤ-ト 珪質頁岩	27.0	19.1	4.6	1.90	9750
写真図版15-143	BH30	2	石鏃	二-2-B	チャ-ヤ-ト 珪質頁岩	20.0	15.5	5.0	1.30	9423
写真図版15-144	BH31	2	石鏃	二-2-B	チャ-ヤ-ト 珪質頁岩	19.5	19.0	3.4	1.00	9789
写真図版15-145	BH30	3	石鏃	二-2-B	チャ-ヤ-ト 珪質頁岩	15.1	13.5	3.5	0.50	9421
写真図版15-146	BG29	1	石鏃	二-2-B	チャ-ヤ-ト 珪質頁岩	15.2	10.6	3.0	0.40	9490
写真図版15-147	BH30	1	石鏃	二-2-B	チャ-ヤ-ト 珪質頁岩	22.7	14.2	2.0	0.60	10055
写真図版15-148	BG28	7	石鏃	二-2-B	チャ-ヤ-ト 珪質頁岩	18.7	10.4	2.4	0.40	9497
写真図版15-149	BH30	1	石鏃	二-2-B	チャ-ヤ-ト 珪質頁岩	16.9	13.7	2.6	0.40	10048
写真図版15-150	BG29	1	石鏃	二-2-B	チャ-ヤ-ト 珪質頁岩	14.2	10.7	2.4	0.30	9489
写真図版15-151	BG31	3	石鏃	二-2-B	チャ-ヤ-ト 珪質頁岩	25.9	11.2	3.1	0.50	10076
写真図版15-152	BJ32	5	石鏃	二-2-B	チャ-ヤ-ト 珪質頁岩	18.5	13.5	3.0	0.60	9492
写真図版15-153	BG29	1	石鏃	二-2-B	チャ-ヤ-ト 珪質頁岩	18.0	15.1	2.4	0.40	10211
写真図版15-154	BH30	1	石鏃	二-2-B	チャ-ヤ-ト 珪質頁岩	19.2	13.6	3.4	0.60	10043
写真図版15-155	BJ31	2	石鏃	二-2-B	チャ-ヤ-ト 珪質頁岩	20.8	14.6	4.0	1.15	9404
写真図版15-156	BH29	1	石鏃	二-2-B	チャ-ヤ-ト 珪質頁岩	14.5	12.7	2.6	0.40	9742
写真図版15-157	BH29	3	石鏃	二-2-B	チャ-ヤ-ト 珪質頁岩	22.4	13.4	2.5	0.60	9503
写真図版15-158	BH30	3	石鏃	二-2-B	チャ-ヤ-ト 珪質頁岩	19.1	17.8	2.6	0.80	9474
写真図版15-159	BF	1	石鏃	二-2-B	チャ-ヤ-ト 珪質頁岩	21.5	17.6	3.0	0.60	10198
写真図版15-160	BG27	2	石鏃	二-2-B	チャ-ヤ-ト 珪質頁岩	16.4	12.2	2.5	0.50	10202
写真図版15-161	BG28	3	石鏃	二-2-B	チャ-ヤ-ト 珪質頁岩	15.4	13.0	4.0	0.50	9382
写真図版15-162	BJ32	4	石鏃	二-2-B	チャ-ヤ-ト 珪質頁岩	23.8	16.0	4.0	0.80	9515
写真図版15-163	BH30	5	石鏃	二-2-B	チャ-ヤ-ト 珪質頁岩	17.0	13.2	3.0	0.50	9416
写真図版15-164	BH29	1	石鏃	二-2-B	チャ-ヤ-ト 珪質頁岩	19.5	14.2	3.4	0.70	9796
写真図版15-165	BH31	5	石鏃	二-2-B	チャ-ヤ-ト 珪質頁岩	19.3	13.6	2.8	0.40	10136
写真図版15-166	BH30	4	石鏃	二-2-B	チャ-ヤ-ト 珪質頁岩	24.0	13.2	2.6	0.60	9467
写真図版15-167	BG31	3	石鏃	二-2-B	チャ-ヤ-ト 珪質頁岩	20.9	13.2	2.2	0.40	9508
写真図版15-168	CD41	3	石鏃	二-2-B	チャ-ヤ-ト 珪質頁岩	16.2	11.9	2.5	0.40	9902
写真図版15-169	BG28	7	石鏃	二-2-B	チャ-ヤ-ト 珪質頁岩	20.0	15.3	4.0	0.80	9501
写真図版15-170	BH29	3	石鏃	二-2-B	チャ-ヤ-ト 珪質頁岩	24.5	18.8	2.9	0.80	9473

第6表 遺構外出土石器一覧表

図版	地點	層	器種	分類	石材	長さ	幅	厚さ	重さ	登録番号	
写真図版15-171	BH30	1	石鏃	II	-B	チバード	19.8	3.4	0.90	10056	
写真図版15-172	BH29	3	石鏃	II	-B	チバード	21.6	4.2	0.30	9472	
写真図版15-173	BI32	2	石鏃	II	-B	チバード	18.0	4.2	0.80	9590	
写真図版15-174	BH30	1	石鏃	II	-B	チバード	18.4	11.4	3.4	0.70	10058
写真図版15-175	BG30	1	石鏃	II	-B	チバード	19.7	12.8	3.0	0.70	10118
写真図版15-176	不明	1	石鏃	II	-B	チバード	19.4	10.2	2.0	0.40	9484
写真図版15-177	BF30	2	石鏃	II	-B	チバード	13.2	14.5	4.5	0.60	10200
写真図版15-178	BH30	1	石鏃	II	-B	チバード	14.3	12.7	3.1	0.40	9479
写真図版15-179	BH30	1	石鏃	II	-B	チバード	13.5	11.9	2.5	0.30	9861
写真図版15-180	CB36	1	石鏃	II	-B	チバード	18.1	17.6	5.3	1.40	9456
写真図版15-181	BI31	5	石鏃	II	-B	チバード	17.1	15.4	3.0	0.50	9608
写真図版15-182	BJ32	2	石鏃	II	-B	チバード	18.9	15.3	3.8	0.80	9511
写真図版15-183	BH29	3	石鏃	II	-B	チバード	15.7	13.2	2.6	0.40	9773
写真図版15-184	BH30	1	石鏃	II	-B	チバード	13.7	11.7	1.9	0.30	10057
写真図版15-185	BI32	2	石鏃	II	-B	チバード	19.1	14.6	3.0	0.50	9593
写真図版15-186	BG28	3	石鏃	II	-B	チバード	19.4	17.6	3.0	0.80	9406
写真図版15-187	BG28	3	石鏃	II	-B	チバード	20.3	14.1	3.5	0.70	10071
写真図版15-188	BH29	3	石鏃	II	-B	チバード	16.5	15.1	2.5	0.50	9756
写真図版15-189	BJ32	2	石鏃	II	-B	チバード	19.8	12.4	2.9	0.40	9780
写真図版15-190	BH30	3	石鏃	II	-B	チバード	24.2	23.7	7.9	3.80	9424
写真図版15-191	BH29	3	石鏃	II	-B	チバード	18.3	13.1	4.2	0.60	9912
写真図版15-192	BJ32	4	石鏃	II	-B	珪質頁岩	25.0	16.0	2.9	0.80	10113
写真図版15-193	BH30	2	石鏃	II	-B	チバード	20.1	16.7	2.9	0.60	9864
写真図版15-194	BI30	3	石鏃	II	-B	チバード	18.6	13.2	3.0	0.40	9384
写真図版15-195	BH30	1	石鏃	II	-B	チバード	19.0	14.3	3.0	0.60	9509
第44図12、写真図版15-196	BI29	3	石鏃	II	-B	チバード	23.6	14.1	2.3	0.50	10080
写真図版15-197	BH29	3	石鏃	II	-B	チバード	19.6	14.0	4.2	0.70	9761
写真図版15-198	BI31	3	石鏃	II	-B	チバード	19.8	16.2	3.0	0.60	9414
写真図版15-199	CB37	1	石鏃	II	-B	チバード	19.0	14.3	3.0	0.60	10227
写真図版15-200	BJ31	2	石鏃	II	-B	チバード	17.4	16.2	5.5	0.65	9390
写真図版15-201	BJ32	2	石鏃	II	-B	チバード	15.2	12.6	1.8	0.30	9487
写真図版15-202	BH30	1	石鏃	II	-B	チバード	19.6	16.0	3.4	0.40	9606
写真図版15-203	CB39	2	石鏃	II	-B	チバード	16.7	13.7	2.9	0.40	10078
写真図版15-204	BH30	2	石鏃	II	-B	チバード	23.7	14.0	3.0	0.50	9425
写真図版15-205	BJ33	1	石鏃	II	-B	チバード	17.8	10.6	3.0	0.30	9399
写真図版15-206	BI32	2	石鏃	II	-B	チバード	19.8	17.2	3.0	0.60	9586
写真図版15-207	BI30	3	石鏃	II	-B	チバード	17.9	13.2	3.3	0.60	9917
写真図版15-208	BH29	1	石鏃	II	-B	チバード	23.4	13.7	2.6	0.40	9905
写真図版15-209	BG28	3	石鏃	II	-B	珪質頁岩	19.9	12.4	2.5	0.40	10069
写真図版15-210	BH30	3	石鏃	II	-B	チバード	16.6	15.1	3.1	0.50	9512
写真図版15-211	BI28	2	石鏃	II	-B	チバード	19.8	14.6	2.3	0.40	10216
写真図版15-212	BI30	1	石鏃	II	-B	チバード	18.7	13.2	3.1	0.40	10051
写真図版15-213	BG28	3	石鏃	II	-B	珪質頁岩	18.6	14.5	3.2	0.50	9500
写真図版15-214	BI29	2	石鏃	II	-B	珪質頁岩	13.7	13.0	2.4	0.40	10063
写真図版15-215	BI29	3	石鏃	II	-B	珪質頁岩	17.5	15.7	3.5	0.60	10219
写真図版15-216	BI32	2	石鏃	II	-B	珪質頁岩	20.0	13.9	4.0	0.70	9995
写真図版16-217	BH30	1	石鏃	II	-B	チバード	11.0	11.2	2.5	0.40	10029
写真図版16-218	BH30	2	石鏃	II	-B	チバード	18.3	19.4	3.1	0.65	9409
写真図版16-219	不明	2	石鏃	II	-B	チバード	20.6	9.9	4.3	0.70	9609
写真図版16-220	BH29	3	石鏃	II	-B	チバード	21.7	13.2	2.4	0.40	9771
写真図版16-221	BG29	3	石鏃	II	-B	チバード	20.0	11.8	2.5	0.35	9407
写真図版16-222	BH30	3	石鏃	II	-B	チバード	26.0	19.2	3.8	0.80	9418
写真図版16-223	BJ33	3	石鏃	II	-B	チバード	24.8	16.2	3.2	0.70	10220
写真図版16-224	BG28	3	石鏃	II	-B	チバード	22.7	14.3	3.4	0.60	9470
写真図版16-225	DD41	2	石鏃	II	-B	チバード	23.2	15.7	3.7	0.80	9800
写真図版16-226	BI32	2	石鏃	II	-B	チバード	18.6	9.9	2.8	0.40	9779
写真図版16-227	BJ30	3	石鏃	II	-B	チバード	20.6	9.9	4.3	0.70	9477
写真図版16-228	BH30	3	石鏃	II	-B	チバード	21.7	13.2	2.4	0.40	9491
写真図版16-229	BI30	2	石鏃	II	-B	チバード	23.4	16.3	2.4	0.40	9747
写真図版16-230	BH29	3	石鏃	II	-B	チバード	26.2	13.9	3.3	0.70	9793
写真図版16-231	BJ31	5	石鏃	II	-B	チバード	18.1	12.6	2.5	0.30	10133
写真図版16-232	BI32	2	石鏃	II	-B	チバード	24.6	13.4	2.8	0.70	9594
写真図版16-233	BH30	1	石鏃	II	-B	チバード	19.8	13.9	2.3	0.30	9863
写真図版16-234	BH29	1	石鏃	II	-B	チバード	21.0	14.2	2.5	0.40	9605
写真図版16-235	不明	1	石鏃	II	-B	チバード	15.6	12.1	3.1	0.40	10079
写真図版16-236	BH30	3	石鏃	II	-B	チバード	8.5	17.0	3.0	4.50	9417
写真図版16-237	BI29	3	石鏃	II	-B	チバード	19.4	13.3	3.2	0.50	10218
写真図版16-238	BH30	3	石鏃	II	-B	チバード	16.9	14.0	4.2	0.70	9506
写真図版16-239	BJ32	3	石鏃	II	-B	チバード	16.5	17.0	5.4	1.20	9513
写真図版16-240	BJ31	5	石鏃	II	-B	チバード	18.1	12.3	2.4	0.40	10134
写真図版16-241	BH29	3	石鏃	II	-B	チバード	28.3	18.4	3.6	1.30	9760
写真図版16-242	BJ30	3	石鏃	II	-B	チバード	21.4	16.8	2.9	0.80	9475
写真図版16-243	CF39	1	石鏃	II	-B	チバード	15.0	15.0	2.7	0.50	10075
写真図版16-244	BH30	3	石鏃	II	-B	チバード	23.3	16.8	5.3	2.00	9462
写真図版16-245	BI30	1	石鏃	II	-B	チバード	23.1	18.5	2.9	0.80	10050
写真図版16-246	BI30	1	石鏃	II	-B	チバード	21.1	13.1	2.6	0.40	10052
写真図版16-247	BG29	2	石鏃	II	-B	チバード	20.5	15.9	3.1	0.90	10064
写真図版16-248	BG29	2	石鏃	II	-B	チバード	24.3	11.2	3.9	0.90	10066
写真図版16-249	BI32	2	石鏃	II	-B	チバード	14.7	13.2	2.7	0.40	10224
写真図版16-250	BH29	3	石鏃	II	-B	チバード	24.2	12.9	2.2	0.50	9755
写真図版16-251	BI30	1	石鏃	II	-B	チバード	23.2	13.6	2.8	0.70	10077
写真図版16-252	BI32	2	石鏃	II	-B	チバード	26.6	16.9	4.4	1.00	10049
写真図版16-253	BI32	2	石鏃	II	-B	チバード	24.0	15.8	4.0	0.60	9987
写真図版16-254	BG31	3	石鏃	II	-B	チバード	20.0	12.5	2.4	0.30	9507
写真図版16-255	BH29	1	石鏃	II	-B	チバード	21.4	14.4	3.5	0.70	9738

第7表 遺構外出土石器一覧表

國	版	地點	層	器種	分類	石	材	長さ	幅	厚さ	重さ	登録番号
寧夏	固原16-256	BG30	1	石鏟	II-2-B	珪質頁岩	24.5	22.9	2.0	0.40	10120	
寧夏	固原16-257	BH30	2	石鏟	II-2-B	珪質頁岩	22.2	14.2	2.5	0.45	9426	
寧夏	固原16-258	BJ11	5	石鏟	II-2-B	珪質頁岩	21.7	16.9	3.0	0.60	10128	
寧夏	固原16-259	CD40	5	石鏟	II-2-B	珪質頁岩	24.5	16.8	4.3	1.30	9900	
寧夏	固原16-260	CD41	2	石鏟	II-2-B	珪質頁岩	15.6	14.6	3.0	0.30	9901	
寧夏	固原16-261	BH30	3	石鏟	II-2-B	珪質頁岩	21.0	16.6	3.0	0.70	9415	
寧夏	固原16-262	BH30	1	石鏟	II-2-B	珪質頁岩	24.8	14.2	2.6	0.50	9510	
寧夏	固原16-263	BH29	3	石鏟	II-2-B	珪質頁岩	24.3	14.6	1.8	0.30	9471	
寧夏	固原16-264	BG29	1	石鏟	II-2-B	珪質頁岩	23.6	15.0	2.7	0.50	10209	
寧夏	固原16-265	BJ30	3	石鏟	II-2-B	珪質頁岩	22.6	14.7	3.1	0.80	9476	
寧夏	固原16-266	BH29	3	石鏟	II-2-B	珪質頁岩	18.9	16.3	2.9	0.50	9602	
寧夏	固原16-267	BH29	3	石鏟	II-2-B	珪質頁岩	14.8	14.5	2.3	0.40	9762	
寧夏	固原16-268	CA38	3	石鏟	II-2-B	珪質頁岩	27.4	16.8	2.9	0.60	9896	
寧夏	固原16-269	BH29	3	石鏟	II-2-B	珪質頁岩	22.6	16.9	2.6	0.50	9759	
寧夏	固原16-270	BF30	碑	石鏟	II-2-B	珪質頁岩	21.7	14.4	3.6	0.60	10213	
寧夏	固原16-271	BI30	1	石鏟	II-2-B	珪質頁岩	16.2	14.0	2.7	0.40	10047	
寧夏	固原16-272	BH29	3	石鏟	II-2-B	珪質頁岩	19.2	14.0	3.2	0.50	9754	
寧夏	固原16-273	BG30	1	石鏟	II-2-C	珪質頁岩	21.6	19.5	4.2	1.70	10121	
寧夏	固原16-274	BJ31	3	石鏟	II-2-C	珪質頁岩	25.6	21.7	6.1	2.50	9919	
寧夏	固原16-275	BH30	1	石鏟	II-2-C	黑曜石	13.1	15.2	3.1	0.50	10062	
第44[13]	寧夏	固原16-276	BJ32	碑	石鏟	II-3	珪質頁岩	16.5	17.0	5.4	1.20	9514
第44[14]	寧夏	固原16-277	BH29	1	石鏟	II-3	珪質頁岩	17.2	13.4	2.3	0.60	9858
第44[15]	寧夏	固原16-278	BH30	1	石鏟	II-3	珪質頁岩	25.0	19.5	6.9	2.80	10054
寧夏	固原16-279	不明	碑	石鏟	II-3	珪質頁岩	19.0	14.7	5.6	1.30	9769	
寧夏	固原16-280	CD39	2	石鏟	II-3	珪質頁岩	19.6	18.1	5.2	1.90	9898	
寧夏	固原16-281	BJ11	5	石鏟	II-3	珪質頁岩	26.1	18.4	7.5	2.70	10130	
寧夏	固原16-282	BH30	1	石鏟	II-3	珪質頁岩	20.5	16.8	5.2	1.60	10061	
寧夏	固原16-283	BG29	2	石鏟	II-3	珪質頁岩	21.5	13.9	2.8	0.70	10065	
第44[16]	寧夏	固原16-284	BG29	2	石鏟	II-3	珪質頁岩	25.9	18.6	5.9	2.20	10067
寧夏	固原16-285	BH29	2	石鏟	II-4	珪質頁岩	16.6	14.6	4.0	0.90	9436	
寧夏	固原16-286	CA34	2	石鏟	II-4	珪質頁岩	20.0	19.7	4.3	1.50	9599	
寧夏	固原16-287	BI32	1	石鏟	II-4	珪質頁岩	26.3	20.5	6.5	3.30	9921	
第44[17]	寧夏	固原16-288	CC38	2	石鏟	II-4	珪質頁岩	27.3	13.8	6.7	2.20	9923
寧夏	固原16-289	BI30	4	石鏟	II-4	珪質頁岩	22.5	19.2	3.5	1.30	9420	
寧夏	固原16-290	BI31	3	石鏟	II-4	珪質頁岩	27.3	18.4	6.5	2.90	9432	
寧夏	固原16-291	CD39	2	石鏟	II-4	珪質頁岩	20.0	16.3	8.5	2.40	9897	
寧夏	固原16-292	BI27	碑	石鏟	II-4	珪質頁岩	33.6	23.2	6.0	3.80	9459	
寧夏	固原16-293	BH28	1	石鏟	II-4	珪質頁岩	21.5	16.5	6.3	2.20	10232	
第44[18]	寧夏	固原16-294	BH30	1	石鏟	II-4	珪質頁岩	41.4	16.2	6.4	3.80	10053
第44[19]	寧夏	固原16-295	5	石鏟	II-4	珪質頁岩	14.0	11.0	3.4	0.40	10129	
寧夏	固原16-296	BG27	2	石鏟木製	II-4	珪質頁岩	16.2	15.7	4.2	1.00	10201	
寧夏	固原16-297	BJ31	3	石鏟木製	II-4	珪質頁岩	19.0	17.4	5.0	1.60	9965	
寧夏	固原16-298	CD39	2	石鏟木製	II-4	珪質頁岩	24.8	13.0	5.0	1.60	9971	
寧夏	固原16-299	BH30	2	石鏟木製	II-4	珪質頁岩	14.4	15.2	4.6	1.60	9976	
寧夏	固原16-301	BI31	3	石鏟木製	II-4	珪質頁岩	19.3	13.0	2.5	0.50	10098	
寧夏	固原16-302	BJ32	2	石鏟木製	II-4	珪質頁岩	22.0	14.9	6.0	1.50	9388	
寧夏	固原16-303	BI32	1	石鏟木製	II-4	珪質頁岩	18.3	19.4	5.2	1.80	9922	
寧夏	固原16-304	不明	1	縫	II-4	珪質頁岩	23.3	14.1	6.5	1.60	10236	
寧夏	固原16-305	BI31	3	石鏟木製	II-4	珪質頁岩	16.9	11.4	3.2	0.50	10132	
寧夏	固原16-306	BI30	4	石鏟木製	II-4	珪質頁岩	17.2	14.0	4.1	1.30	9734	
寧夏	固原16-307	CA38	3	石鏟木製	II-4	珪質頁岩	14.9	11.8	2.5	0.30	9895	
寧夏	固原16-308	BG31	碑	石鏟	II-4	珪質頁岩	15.3	12.1	3.7	0.80	9521	
寧夏	固原16-309	不明	1	縫	II-4	珪質頁岩	14.2	14.3	4.5	0.60	9623	
寧夏	固原16-310	BG29	3	石鏟	II-5	珪質頁岩	15.0	14.2	3.4	0.50	9600	
寧夏	固原16-311	BI31	2	石鏟	II-5	珪質頁岩	12.7	7.9	2.5	0.30	9527	
寧夏	固原16-312	BI30	1	石鏟	II-5	珪質頁岩	17.0	8.3	2.3	0.30	10044	
寧夏	固原16-313	BH29	3	石鏟	II-5	珪質頁岩	17.0	8.6	2.7	0.30	9604	
寧夏	固原16-314	BH30	1	石鏟	II-5	珪質頁岩	23.6	20.3	5.1	1.50	10060	
寧夏	固原16-315	不明	3	縫	II-5	珪質頁岩	16.5	11.3	3.0	0.40	9745	
寧夏	固原16-316	BI31	3	石鏟	II-5	珪質頁岩	13.6	13.9	4.8	0.60	9611	
寧夏	固原16-317	BG29	1	石鏟	II-5	珪質頁岩	14.6	13.3	2.4	0.40	9523	
寧夏	固原16-318	BH29	1	石鏟	II-5	珪質頁岩	12.4	9.8	3.0	0.30	9904	
寧夏	固原16-319	BH30	1	石鏟	II-5	珪質頁岩	10.9	10.1	2.6	0.20	10059	
寧夏	固原16-320	BH30	1	石鏟	II-5	珪質頁岩	13.0	16.5	4.7	0.90	9526	
寧夏	固原16-321	BI32	2	石鏟	II-5	珪質頁岩	16.2	16.7	3.1	0.70	9591	
寧夏	固原16-322	BI32	2	石鏟	II-5	珪質頁岩	11.7	10.6	2.8	0.20	9589	
寧夏	固原16-323	BI27	碑	石鏟	II-5	珪質頁岩	16.4	13.8	2.2	0.50	9530	
寧夏	固原16-324	BF	1	石鏟	II-5	珪質頁岩	17.6	8.4	4.2	0.50	10177	
寧夏	固原16-325	BH29	1	石鏟	II-5	珪質頁岩	12.8	8.4	4.3	0.40	9906	
寧夏	固原16-326	BH29	1	石鏟	II-5	珪質頁岩	18.1	10.5	3.9	0.70	9908	
寧夏	固原16-327	BH29	1	石鏟	II-5	珪質頁岩	13.0	10.2	2.5	0.30	9909	
寧夏	固原16-328	BH29	2	石鏟	II-5	珪質頁岩	15.5	9.9	2.8	0.30	9774	
寧夏	固原16-329	BH29	2	石鏟	II-5	珪質頁岩	10.0	14.7	10.8	0.20	9772	
寧夏	固原16-330	BI30	3	石鏟	II-5	珪質頁岩	23.6	20.4	6.0	2.35	9383	
寧夏	固原16-331	BI27	碑	石鏟	II-5	珪質頁岩	27.5	15.9	5.0	1.70	9478	
寧夏	固原16-332	BI32	1	石鏟	II-5	珪質頁岩	16.5	7.7	3.5	0.40	9961	
寧夏	固原16-333	BH29	2	石鏟	II-5	珪質頁岩	12.2	12.6	2.8	0.30	9766	
寧夏	固原16-334	BH29	1	石鏟	II-5	珪質頁岩	15.1	9.7	2.3	0.30	9765	
寧夏	固原16-335	BI32	2	石鏟	II-5	珪質頁岩	9.1	7.8	2.7	0.10	9764	
寧夏	固原16-336	BI32	2	石鏟	II-5	珪質頁岩	30.7	17.6	4.0	1.90	9389	
寧夏	固原16-337	BI33	2	石鏟	II-5	珪質頁岩	19.2	16.4	3.1	1.00	9483	
寧夏	固原16-338	BG29	1	石鏟	II-5	珪質頁岩	18.2	16.0	3.2	0.70	10210	
寧夏	固原16-339	BH29	3	石鏟	II-5	珪質頁岩	21.4	15.6	4.4	1.40	9601	
寧夏	固原16-340	BI31	3	石鏟	II-5	珪質頁岩	25.1	21.3	6.2	3.30	10131	

第8表 遺構外出土石器一覧表

図版	地点	層	器種	分類	石材	長さ	幅	厚さ	重さ	登録番号
写真図版16-341	BG29	1	石鏃	II-5	チヤート	24.6	12.0	3.5	1.10	10172
写真図版16-342	BG29	1	石鏃	II-5	黒曜石	21.4	15.7	5.5	1.30	9445
写真図版16-343	BH32	3	尖頭器	チヤート	22.4	19.5	8.9	4.00	9455	
写真図版16-344	BJ26	3	尖頭器	チヤート	33.0	21.1	8.5	4.50	9429	
写真図版16-345	B130	3	尖頭器	チヤート	21.1	15.0	9.0	2.90	9954	
写真図版16-346	BH30	1	尖頭器	I-B-a	チヤート	27.7	22.2	10.7	5.40	10030
写真図版16-347	B130	3	尖頭器	I-B-a	チヤート	25.8	21.6	9.1	4.80	9435
写真図版16-348	BG29	3	尖頭器	I-B-a	チヤート	28.0	21.7	8.9	2.50	9976
第44回20、写真図版16-349	BH29	3	尖頭器	I-B-a	チヤート	34.2	23.4	11.1	8.70	9453
第44回21、写真図版16-350	BG28	3	尖頭器	I-B-a	チヤート	28.2	20.7	10.2	4.80	10109
第44回22、写真図版16-351	不明	1	尖頭器	I-A-b	チヤート	24.5	22.2	10.9	4.60	10110
写真図版16-352	BH29	1	尖頭器	I-B-a	チヤート	26.2	17.3	8.4	3.00	9614
写真図版16-353	B130	1	尖頭器	I-B-a	チヤート	29.8	24.1	18.6	14.2	10108
写真図版16-354	BH29	3	尖頭器	I-B-a	チヤート	29.2	22.5	9.3	4.90	9973
写真図版16-355	BH29	3	尖頭器	I-B-a	チヤート	23.3	17.1	7.6	2.30	10233
第44回23、写真図版16-356	B130	2	尖頭器	I-B-a	チヤート	29.8	24.7	11.3	6.50	9958
写真図版16-357	BH30	1	尖頭器	I-B-a	チヤート	32.5	30.8	7.9	7.10	9451
第44回24、写真図版16-358	BG29	1	石鋸	珪質頁岩	チヤート	18.1	6.1	3.7	0.50	9978
写真図版16-359	BH30	1	石鋸	珪質頁岩	チヤート	20.3	18.0	7.1	2.70	9876
写真図版16-360	BH30	1	石鋸	珪質頁岩	チヤート	34.8	15.5	7.6	2.40	10081
写真図版16-361	BH30	1	石鋸	珪質頁岩	チヤート	29.3	22.7	5.6	3.00	9522
第44回25、写真図版16-362	BH30	2	石鋸	珪質頁岩	チヤート	31.1	15.6	9.6	4.10	9461
写真図版16-363	BH30	2	石鋸	珪質頁岩	チヤート	32.8	8.8	6.0	1.35	9420
写真図版16-364	BH30	2	石鋸	珪質頁岩	チヤート	25.4	19.7	6.2	1.00	10031
写真図版16-365	BH31	2	石鋸	珪質頁岩	チヤート	29.2	21.6	11.3	2.40	9438
写真図版16-366	BH32	2	石鋸	珪質頁岩	チヤート	23.2	23.6	6.7	4.00	10194
第44回26、写真図版16-367	BH33	4	石鋸	珪質頁岩	チヤート	41.5	37.3	9.8	11.8	9519
写真図版16-368	BH30	4	石鋸	珪質頁岩	チヤート	66.7	42.3	8.0	15.40	9518
写真図版16-369	BH28	4	石鋸	珪質頁岩	チヤート	24.9	14.0	4.4	1.50	10206
写真図版16-370	BH31	2	石鋸	珪質頁岩	チヤート	32.5	11.6	4.5	1.50	10403
写真図版16-371	BH33	3	石鋸	珪質頁岩	チヤート	50.0	24.8	2.48	8.90	10195
写真図版16-372	BH32	5	石鋸	珪質頁岩	チヤート	60.1	20.1	4.8	5.70	9520
写真図版16-373	BH31	3	石鋸	珪質頁岩	チヤート	52.8	28.7	11.8	13.60	10139
写真図版16-374	BG27	2	石鋸	珪質頁岩	チヤート	68.3	24.2	7.4	12.30	10196
写真図版16-375	BH30	3	石鋸	珪質頁岩	チヤート	49.8	16.3	7.9	5.60	10115
写真図版16-376	BH29	3	石鋸	珪質頁岩	チヤート	20.3	16.2	9.6	4.00	10149
写真図版16-377	BH31	3	不定形石器	器	チヤート	20.9	18.8	4.3	1.90	10023
写真図版16-378	BH31	3	不定形石器	器	チヤート	25.1	19.1	10.1	4.40	9555
写真図版16-379	BH31	5	不定形石器	器	チヤート	40.6	20.8	8.7	7.70	10159
写真図版16-380	BH29	3	不定形石器	器	チヤート	22.2	18.1	5.7	1.90	9561
写真図版16-381	BH32	2	不定形石器	器	チヤート	23.1	30.0	10.6	8.00	9549
写真図版16-382	BH30	3	不定形石器	器	チヤート	25.1	23.8	10.0	5.70	9566
写真図版16-383	BG29	2	不定形石器	器	チヤート	34.6	29.5	10.5	11.20	10086
写真図版16-384	BH30	3	不定形石器	器	チヤート	24.2	23.7	7.9	3.80	9447
写真図版16-385	BH30	1	不定形石器	器	チヤート	27.0	18.2	9.5	3.70	9525
写真図版16-386	BH32	2	不定形石器	器	チヤート	42.7	21.6	7.9	7.40	10093
写真図版16-387	不明	2	不定形石器	器	チヤート	21.1	18.4	10.4	3.50	9567
写真図版16-388	不明	2	不定形石器	器	チヤート	18.0	16.1	4.7	1.10	9584
写真図版16-389	BH32	2	不定形石器	器	チヤート	43.8	32.2	9.4	13.40	9536
写真図版16-390	BG29	2	不定形石器	器	チヤート	55.2	19.0	9.1	9.40	10106
写真図版16-391	BF29	2	不定形石器	器	チヤート	42.1	22.1	9.5	6.70	9529
写真図版16-392	BH30	2	不定形石器	器	チヤート	27.6	20.1	9.9	5.10	9570
写真図版16-393	CA34	2	不定形石器	器	チヤート	28.2	16.7	15.9	1.70	9574
写真図版16-394	BH31	5	不定形石器	器	チヤート	26.0	18.2	10.4	5.00	10155
写真図版16-395	BH29	3	不定形石器	器	チヤート	39.7	33.4	7.9	10.00	9943
写真図版16-396	BH29	2	不定形石器	器	チヤート	51.5	19.1	10.2	7.40	9875
写真図版16-397	BH29	1	不定形石器	器	チヤート	38.6	31.4	12.8	10.60	9930
写真図版16-398	BH29	2	不定形石器	器	チヤート	37.2	27.3	8.3	7.00	9931
写真図版16-399	BH29	3	不定形石器	器	チヤート	36.5	21.3	8.2	6.50	9778
写真図版16-400	BH29	2	不定形石器	器	チヤート	26.3	22.3	8.6	4.70	9934
写真図版16-401	BH31	3	不定形石器	器	チヤート	34.0	25.7	9.0	5.00	10161
写真図版17-402	BH29	3	不定形石器	器	チヤート	31.5	22.3	12.0	9.00	9936
写真図版17-403	BH29	3	不定形石器	器	チヤート	48.3	24.9	12.0	13.20	9945
写真図版17-404	BH29	1	不定形石器	器	チヤート	32.2	23.6	8.3	6.10	9948
写真図版17-405	BG27	2	不定形石器	器	チヤート	23.6	14.4	4.3	1.90	10165
写真図版17-406	BH31	5	不定形石器	器	チヤート	17.6	14.1	3.8	0.90	9966
写真図版17-407	BH30	1	不定形石器	器	チヤート	31.0	19.5	13.6	8.00	10176
写真図版17-408	BH30	1	不定形石器	器	チヤート	60.0	28.5	8.4	13.70	10415
写真図版17-409	BH27	1	不定形石器	器	チヤート	28.8	20.6	8.0	5.10	9562
写真図版17-410	BH31	5	不定形石器	器	チヤート	26.2	17.0	4.5	3.00	9563
写真図版17-411	BH31	5	不定形石器	器	チヤート	38.1	26.5	17.3	14.30	10143
写真図版17-412	BH30	3	不定形石器	器	チヤート	22.0	17.4	8.3	3.60	10239
写真図版17-413	BH29	3	不定形石器	器	チヤート	26.5	14.7	10.8	3.10	9560
写真図版17-414	BH31	3	不定形石器	器	チヤート	27.3	16.1	7.2	3.00	10160
写真図版17-415	BH28	2	不定形石器	器	チヤート	22.4	11.3	4.6	1.10	9569
写真図版17-416	不明	1	不定形石器	器	チヤート	56.8	30.4	8.7	15.80	10235
写真図版17-417	BH30	1	不定形石器	器	チヤート	28.3	23.8	8.2	4.30	10234
写真図版17-418	BH33	3	不定形石器	器	チヤート	28.1	26.8	9.8	7.80	9580
写真図版17-419	不明	1	不定形石器	器	チヤート	23.1	20.0	4.4	2.20	9577
写真図版17-420	CA31	5	不定形石器	器	チヤート	32.3	35.0	12.1	12.10	10152
写真図版17-421	BF	1	不定形石器	器	チヤート	19.7	11.5	3.1	0.70	10178
写真図版17-422	不明	1	不定形石器	器	チヤート	31.6	15.6	11.2	3.70	9579
写真図版17-423	BH28	1	不定形石器	器	チヤート	22.0	19.6	12.1	4.90	10180
写真図版17-424	BH28	1	不定形石器	器	チヤート	31.8	15.8	8.4	4.10	10182

第9表 遺構外出土石器一覧表

図版	地点	層	器種	分類	石材	長さ	幅	厚さ	重さ	登録番号
写真図版17-425	BH31	3	不定形石器	I-A-b	珪質頁岩	52.7	33.6	13.0	14.90	10162
写真図版17-426	CD41	3	不定形石器	I-A-b	チャート	19.0	12.7	2.8	0.60	10190
写真図版17-427	BH29	3	不定形石器	I-A-b	珪質頁岩	33.6	22.8	5.0	4.20	10183
写真図版17-428	CA33	1	不定形石器	I-A-b	珪質頁岩	25.6	20.4	6.2	2.70	10187
写真図版17-429	BH31	5	不定形石器	I-A-b	珪質頁岩	16.3	18.7	3.9	0.90	10147
写真図版17-430	CC38	2	不定形石器	I-A-b	細粒砂岩	51.2	17.5	10.1	8.40	10188
写真図版17-431	BF	1	不定形石器	I-A-b	チャート	24.1	20.9	8.5	2.70	10175
写真図版17-432	BH29	3	不定形石器	I-A-b	珪質頁岩	21.2	20.2	7.1	2.50	9944
写真図版17-433	BG30	1	不定形石器	I-A-b	チャート	20.4	21.8	11.2	5.90	10125
写真図版17-434	CG41	3	不定形石器	I-A-b	珪質頁岩	60.5	50.7	18.5	44.70	10018
写真図版17-435	BH30	3	不定形石器	I-A-b	珪質頁岩	22.1	25.3	6.5	3.10	9986
写真図版17-436	不明	顕	不定形石器	I-A-b	珪質頁岩	27.1	18.1	8.8	3.80	9974
写真図版17-437	不明	顕	不定形石器	I-A-b	珪質頁岩	34.8	43.6	8.0	7.80	9973
写真図版17-438	BH31	5	不定形石器	I-A-b	珪質頁岩	34.3	32.6	10.8	14.00	9968
写真図版17-439	BH31	5	不定形石器	I-A-b	珪質頁岩	26.0	20.6	6.8	3.30	9967
写真図版17-440	BH32	1	不定形石器	I-A-b	珪質頁岩	34.1	12.6	10.7	3.90	9962
写真図版17-441	BH30	2	不定形石器	I-A-b	珪質頁岩	25.3	33.5	11.1	6.40	9753
写真図版17-442	BH30	3	不定形石器	I-A-b	珪質頁岩	30.6	25.7	12.5	7.10	9915
写真図版17-443	BH30	2	不定形石器	I-A-b	珪質頁岩	21.0	18.3	9.7	2.80	9752
写真図版17-444	BH29	3	不定形石器	I-A-b	珪質頁岩	42.1	20.2	9.6	6.00	9940
写真図版17-445	BH29	3	不定形石器	I-A-b	珪質頁岩	86.6	50.4	12.6	46.30	9939
写真図版17-446	BH29	2	不定形石器	I-A-b	珪質頁岩	26.0	19.8	9.4	3.60	9933
写真図版17-447	BH29	1	不定形石器	I-A-b	珪質頁岩	42.6	19.1	5.4	2.20	9928
写真図版17-448	BH29	1	不定形石器	I-A-b	珪質頁岩	17.3	15.5	4.4	1.20	9927
写真図版17-449	BH29	1	不定形石器	I-A-b	珪質頁岩	35.7	27.2	9.8	8.60	9868
写真図版17-450	BH29	1	不定形石器	I-A-b	珪質頁岩	36.3	14.9	8.4	4.60	9956
写真図版17-451	BH29	1	不定形石器	I-A-b	珪質頁岩	24.3	17.3	6.6	2.30	9735
写真図版17-452	BH29	1	不定形石器	I-A-b	珪質頁岩	37.1	15.8	19.9	4.80	9544
写真図版17-453	BH31	5	不定形石器	I-A-b	珪質頁岩	55.2	43.4	21.9	39.10	10142
写真図版17-454	BH20	2	不定形石器	I-A-b	珪質頁岩	36.6	29.7	7.6	4.80	9464
写真図版17-455	BH32	2	不定形石器	I-A-b	珪質頁岩	33.9	20.9	10.4	6.10	9550
写真図版17-456	BG30	1	不定形石器	I-A-b	珪質頁岩	35.8	24.4	13.7	8.40	10122
写真図版17-457	BH30	1	不定形石器	I-A-b	珪質頁岩	31.8	27.5	9.5	6.40	9531
写真図版17-458	BH32	3	不定形石器	I-A-b	珪質頁岩	51.5	17.1	4.1	4.50	10096
写真図版17-459	BH32	3	不定形石器	I-A-b	珪質頁岩	32.2	27.1	14.3	14.10	10095
写真図版17-460	BH32	2	不定形石器	I-A-b	珪質頁岩	30.5	23.6	9.3	6.30	10094
写真図版17-461	BH33	3	不定形石器	I-A-b	珪質頁岩	25.7	17.2	7.3	2.20	9553
写真図版17-462	BH30	3	不定形石器	I-A-b	珪質頁岩	37.9	18.1	6.8	2.40	10024
写真図版17-463	BH28	3	不定形石器	I-A-b	珪質頁岩	37.4	17.8	10.2	7.20	9558
写真図版17-464	BH29	1	不定形石器	I-A-b	珪質頁岩	25.5	18.5	5.2	2.50	9872
写真図版17-465	BH32	2	不定形石器	I-A-b	珪質頁岩	31.2	12.1	5.1	1.70	9548
写真図版17-466	BH31	5	不定形石器	I-A-c	黒曜石	36.5	17.6	10.7	8.30	10144
写真図版17-467	BH22	3	不定形石器	I-B-a	チャート	20.7	15.1	7.3	2.40	9552
写真図版17-468	BH32	2	不定形石器	I-B-a	珪質頁岩	23.1	27.7	8.1	4.80	9551
写真図版17-469	BH30	1	不定形石器	I-B-a	珪質頁岩	21.4	23.0	9.6	5.30	9532
写真図版17-470	BH32	2	不定形石器	I-B-a	珪質頁岩	23.4	24.6	8.0	3.80	9437
写真図版17-471	BH32	3	不定形石器	I-B-a	珪質頁岩	30.4	12.3	4.1	2.20	9443
写真図版17-472	BH31	2	不定形石器	I-B-a	珪質頁岩	35.4	15.4	8.5	3.60	9533
写真図版17-473	BH31	5	不定形石器	I-B-a	珪質頁岩	29.7	22.6	13.2	9.70	10156
写真図版17-474	BG28	2	不定形石器	I-B-a	珪質頁岩	42.5	33.0	10.0	15.50	10167
写真図版17-475	BH31	5	不定形石器	I-B-a	珪質頁岩	26.3	23.7	11.6	7.10	10146
写真図版17-476	BG29	1	不定形石器	I-B-a	珪質頁岩	15.2	17.7	5.9	1.40	10174
写真図版17-477	BH29	1	不定形石器	I-B-a	珪質頁岩	31.0	18.9	9.1	4.10	9870
写真図版17-478	BH28	1	不定形石器	I-B-a	珪質頁岩	28.0	21.9	10.5	4.50	10179
写真図版17-479	BG28	2	不定形石器	I-B-a	珪質頁岩	19.7	16.5	7.7	2.80	10087
写真図版17-480	CD41	3	不定形石器	I-B-a	珪質頁岩	31.0	15.5	7.6	2.70	10191
写真図版17-481	BH30	3	不定形石器	I-B-a	珪質頁岩	39.6	16.0	9.4	2.60	9957
写真図版17-482	BG30	1	不定形石器	I-B-a	珪質頁岩	35.7	31.9	6.4	9.20	10123
写真図版17-483	BH30	1	不定形石器	I-B-a	珪質頁岩	27.2	28.4	8.3	5.70	10124
写真図版17-484	BH31	5	不定形石器	I-B-a	珪質頁岩	32.1	13.4	6.3	2.30	10148
写真図版17-485	BH30	1	不定形石器	I-B-b	珪質頁岩	28.6	19.9	6.1	2.50	10090
写真図版17-486	BH31	3	不定形石器	I-B-b	珪質頁岩	16.7	15.5	8.2	1.70	9554
写真図版17-487	CA33	3	不定形石器	I-B-b	珪質頁岩	21.3	16.5	3.4	1.00	9539
写真図版17-488	BH30	2	不定形石器	I-B-b	珪質頁岩	31.0	15.5	7.6	2.70	9542
写真図版17-489	BH30	3	不定形石器	I-B-b	珪質頁岩	30.6	19.5	7.4	4.30	9541
写真図版17-490	BH30	1	不定形石器	I-B-b	珪質頁岩	39.0	21.4	11.5	7.70	9540
写真図版17-491	BH30	1	不定形石器	I-B-b	珪質頁岩	20.0	16.7	4.6	1.60	9545
写真図版17-492	BH32	2	不定形石器	I-B-b	珪質頁岩	28.0	15.1	6.7	2.10	9538
写真図版17-493	BH29	1	不定形石器	I-B-b	珪質頁岩	31.2	25.5	9.8	6.70	9967
写真図版17-494	BF29	1	不定形石器	I-B-b	珪質頁岩	11.0	18.6	5.2	0.90	9546
写真図版17-495	BF29	1	不定形石器	I-B-b	珪質頁岩	25.8	18.5	10.5	5.0	9969
写真図版17-496	BH30	3	不定形石器	I-B-b	珪質頁岩	26.1	14.1	8.7	3.00	10026
写真図版17-497	BH30	3	不定形石器	I-B-b	珪質頁岩	30.1	19.4	10.5	5.00	10025
写真図版17-498	BH30	3	不定形石器	I-B-b	珪質頁岩	48.5	37.1	14.5	19.60	9987
写真図版17-499	BI32	2	不定形石器	I-B-b	珪質頁岩	26.2	22.9	11.7	5.10	9613
写真図版17-500	BH29	3	不定形石器	I-B-b	珪質頁岩	25.7	13.0	3.2	1.10	9938
写真図版17-501	BH30	3	不定形石器	I-B-b	珪質頁岩	32.5	22.0	18.5	6.20	9953
写真図版17-502	BH30	1	不定形石器	I-B-b	珪質頁岩	64.5	33.6	14.4	21.00	9949
写真図版17-503	BG31	3	不定形石器	I-B-b	珪質頁岩	24.8	17.5	8.3	3.30	10083
写真図版17-504	BH31	5	不定形石器	I-B-b	珪質頁岩	24.2	14.5	7.5	2.10	10153
写真図版17-505	BG29	1	不定形石器	I-B-b	珪質頁岩	23.4	13.8	6.0	1.90	10173
写真図版17-506	BH28	2	不定形石器	I-B-b	珪質頁岩	21.9	14.2	2.7	0.70	9568
写真図版17-507	BG27	2	不定形石器	I-B-b	珪質頁岩	40.9	22.6	9.6	7.20	10166
写真図版17-508	BG29	1	不定形石器	I-B-b	珪質頁岩	64.0	37.0	12.4	31.80	10169
写真図版17-509	CA34	2	不定形石器	I-B-b	珪質頁岩	36.9	25.6	12.1	8.60	9575

第10表 遺構外出土石器一覧表

図版	地点	層	器種	分類	石	材	長さ	幅	厚さ	重さ	登録番号
等真17-510	CB37	1	不定形石器	B-b	チャート	43.4	50.7	11.2	18.90	10186	
等真17-511	CE131	5	不定形石器	B-b	チャート	27.0	17.8	7.7	3.20	10154	
等真17-512	CD41	3	不定形石器	B-b	チャート	15.2	14.5	6.8	1.60	10189	
等真17-513	BI31	3	不定形石器	B-b	チャート	28.6	29.5	7.4	5.10	9582	
等真17-514	CE40	2	不定形石器	B-b	チャート	60.5	36.5	8.6	15.50	10192	
等真17-515	CE40	2	不定形石器	B-b	チャート	20.5	19.7	7.5	2.80	10193	
等真17-516	CE40	2	不定形石器	B-b	チャート	25.5	23.7	8.1	6.10	10228	
等真17-517	BI31	5	不定形石器	B-b	チャート	34.0	10.7	6.7	2.30	10151	
等真17-518	BG27	2	不定形石器	B-b	チャート	31.3	19.8	8.0	5.50	10163	
等真17-519	BH30	1	不定形石器	B-B	チャート	18.0	12.4	8.1	1.50	10414	
等真17-520	BI32	2	不定形石器	B-B	チャート	25.6	24.1	8.4	5.00	9572	
等真17-521	CE40	2	不定形石器	B-b	チャート	22.2	19.3	5.2	1.70	10184	
等真17-522	BI32	2	不定形石器	B-B	チャート	23.1	19.0	5.8	2.50	9736	
等真17-523	BH29	1	不定形石器	A-A	珪質頁岩	42.7	35.4	7.5	8.40	9733	
等真17-524	BH29	2	不定形石器	A-A	珪質頁岩	34.2	21.3	4.5	3.10	9972	
等真17-525	CD41	3	不定形石器	A-A	珪質頁岩	26.5	15.2	4.3	1.70	9947	
等真17-526	BH30	1	不定形石器	A-A	珪質頁岩	18.7	13.0	3.0	0.80	10185	
等真17-527	CB37	1	不定形石器	A-A	珪質頁岩	56.3	27.1	7.3	10.40	10112	
等真17-528	BG31	3	不定形石器	A-A	珪質頁岩	53.2	25.8	7.2	11.40	10092	
等真17-529	BI30	3	不定形石器	A-A	珪質頁岩	39.1	23.7	7.7	6.80	9556	
等真17-530	BG28	3	不定形石器	A-A	珪質頁岩	24.7	18.9	4.2	1.60	10085	
等真17-531	BG29	2	不定形石器	A-A	珪質頁岩	14.3	12.2	5.3	0.70	9932	
等真17-532	BH29	2	不定形石器	A-A	珪質頁岩	19.4	25.1	5.7	2.50	9929	
等真17-533	BI30	3	不定形石器	A-A	珪質頁岩	35.7	24.8	10.2	10.00	9960	
等真17-534	BH29	1	不定形石器	A-A	珪質頁岩	21.8	18.4	7.0	2.60	9543	
等真17-535	BH29	1	不定形石器	A-A	珪質頁岩	54.0	27.7	9.7	5.10	10107	
等真17-536	BI30	1	不定形石器	A-A	珪質頁岩	29.8	20.0	12.3	6.40	9433	
等真17-537	BH30	1	不定形石器	A-A	珪質頁岩	22.3	17.4	3.4	1.40	9441	
等真17-538	BG28	3	不定形石器	A-A	珪質頁岩	25.9	17.6	6.3	3.30	10171	
等真17-539	BG29	2	不定形石器	A-A	珪質頁岩	41.4	18.2	2.9	2.50	10140	
等真17-540	BI31	5	不定形石器	A-B	チャート	34.1	31.3	8.7	8.40	10409	
等真17-541	BH30	1	不定形石器	B-B	チャート	37.2	23.9	8.1	7.90	10091	
等真17-542	BI30	1	不定形石器	B-B	チャート	38.8	21.4	16.4	4.40	10084	
等真17-543	BH29	1	不定形石器	B-B	チャート	32.9	16.5	6.5	3.00	9737	
等真17-544	BH30	1	不定形石器	B-B	チャート	20.3	26.9	9.3	3.70	9448	
等真17-545	BI30	3	不定形石器	B-B	チャート	32.4	23.0	12.2	10.30	9959	
等真17-546	BH29	1	不定形石器	B-B	チャート	17.7	15.9	6.9	1.90	9866	
等真17-547	BI30	3	不定形石器	B-B	チャート	30.4	12.3	6.3	2.40	9442	
等真17-548	BH30	1	不定形石器	B-C	チャート	32.2	15.0	7.6	3.60	9951	
等真17-549	BH30	1	不定形石器	B-C	チャート	20.5	17.9	4.9	2.90	9434	
等真17-550	BI30	5	不定形石器	C-C	チャート	27.4	21.9	8.9	4.20	10150	
等真17-551	BI31	4	不定形石器	C-C	チャート	31.0	24.0	6.9	5.50	9449	
等真17-552	BH30	2	不定形石器	C-C	チャート	36.4	19.4	9.3	6.00	9537	
等真17-553	BI30	3	不定形石器	C-C	チャート	36.9	20.0	4.5	2.00	9571	
等真17-554	BI30	2	不定形石器	C-C	チャート	14.0	14.8	3.4	0.80	9524	
等真17-555	BH30	2	不定形石器	C-C	チャート	29.0	27.5	8.0	6.90	10088	
等真17-556	BI30	1	不定形石器	C-C	チャート	38.5	29.8	9.8	7.90	9528	
等真17-557	BI31	3	不定形石器	C-C	チャート	28.6	26.9	8.0	5.20	9964	
等真17-558	BH30	4	不定形石器	C-C	チャート	31.3	16.4	7.7	3.30	9457	
等真17-559	BI31	5	不定形石器	C-C	チャート	49.8	44.2	14.0	14.90	9946	
等真17-560	BG29	2	不定形石器	C-C	チャート	63.5	44.5	18.5	30.60	10141	
等真17-561	BI31	5	不定形石器	C-C	チャート	30.7	25.7	8.7	5.50	9777	
等真17-562	BI30	2	不定形石器	C-C	チャート	25.2	29.5	10.4	9.50	10168	
等真17-563	BH30	2	不定形石器	C-C	チャート	24.0	21.4	7.5	3.90	10089	
等真17-564	BI30	1	不定形石器	C-C	チャート	35.9	25.0	13.2	11.10	9871	
等真17-565	BH30	4	不定形石器	V-V	チャート	32.9	23.1	14.0	10.30	9970	
等真17-566	BI30	2	不定形石器	V-V	チャート	28.3	14.6	2.9	1.20	9873	
等真17-567	BH29	1	不定形石器	V-V	チャート	31.7	23.6	11.2	8.00	10229	
等真17-568	BI32	2	不定形石器	V-V	チャート	20.6	20.5	2.4	0.80	9585	
等真17-569	BI30	1	不定形石器	V-V	チャート	38.4	19.3	9.8	5.40	10097	
等真17-570	BG28	3	不定形石器	V-V	チャート	28.6	12.8	2.4	0.70	9559	
等真17-571	BI30	1	不定形石器	V-V	チャート	29.3	29.2	14.1	9.90	9969	
等真17-572	CA33	1	不定形石器	V-V	玄武岩	20.1	19.7	7.1	2.30	9952	
等真17-573	BI31	3	不定形石器	V-V	チャート	35.8	35.4	9.6	14.80	9440	
等真17-574	BI30	3	不定形石器	V-V	チャート	30.1	21.7	7.6	4.70	10157	
等真17-575	BH29	1	不定形石器	V-V	チャート	39.1	23.0	8.7	5.60	10230	
等真17-576	BI11	5	不定形石器	V-V	チャート	29.7	21.8	7.3	5.10	10145	
等真17-577	BG29	1	不定形石器	V-V	チャート	43.6	18.9	7.1	6.30	10416	
等真17-578	BI31	3	不定形石器	V-V	珪質頁岩	27.7	15.3	6.0	2.50	9458	
等真17-579	BI30	3	不定形石器	V-V	珪質頁岩	19.6	10.9	6.2	0.90	9751	
等真17-580	BI33	2	不定形石器	V-V	珪質頁岩	26.6	21.5	7.2	2.80	10027	
等真17-581	BH30	2	不定形石器	V-V	珪質頁岩	23.2	17.9	7.1	3.10	9547	
等真17-582	BH30	3	不定形石器	V-V	珪質頁岩	59.2	36.2	8.8	11.30	10082	
等真17-583	BH32	2	不定形石器	V-V	珪質頁岩	39.8	26.0	10.6	8.60	9746	
等真17-584	CF39	3	不定形石器	V-V	珪質頁岩	31.6	20.5	6.3	3.40	10181	
等真17-585	BH29	2	不定形石器	V-V	珪質頁岩	64.0	39.3	20.0	30.60	10231	
等真17-586	BH28	1	不定形石器	V-V	珪質頁岩	28.2	18.0	11.3	3.10	9980	
等真17-587	不明	1	不定形石器	V-V	珪質頁岩	22.1	26.7	8.3	4.40	9941	
等真17-588	BI31	3	不定形石器	V-V	珪質頁岩	27.6	24.0	5.2	2.70	9937	
等真17-589	BH29	3	不定形石器	V-V	珪質頁岩	39.3	29.3	12.5	11.90	9935	
等真17-590	BH29	3	不定形石器	V-V	珪質頁岩	19.0	11.7	6.8	1.50	9926	
等真17-591	BI32	1	不定形石器	V-V	珪質頁岩	17.3	21.8	6.9	2.10	9963	
等真17-592	BG29	2	不定形石器	V-V	珪質頁岩	28.2	17.3	8.2	3.00	9925	
等真17-593	BI32	1	不定形石器	V-V	珪質頁岩	20.6	19.0	7.1	2.30	9583	
等真17-594	BG29	3	不定形石器	V-V	珪質頁岩						
等真17-595	不明	3	不定形石器	V-V	珪質頁岩						

第11表 遺構外出土石器一覧表

図版	地点	層	器種	分類	石材	長さ	幅	厚さ	重さ	登録番号
第44図50、写真図版18-596	BH31	5	不定形石器	VI	珪質頁岩	52.6	28.5	11.4	13.00	10138
写真図版18-597	BH31	2	不定形石器	VI	チャート	28.4	14.8	4.0	1.95	9401
写真図版18-598	BH11	5	不定形石器	VI	珪質頁岩	35.3	30.2	10.2	9.20	10158
写真図版18-599	BH30	3	不定形石器	VI	珪質頁岩	42.7	32.7	14.0	18.10	9985
写真図版18-600	BH22	1	不定形石器	VI	珪質頁岩	29.5	14.6	7.5	2.60	9874
写真図版18-601	BH29	3	不定形石器	VI	珪質頁岩	24.8	23.5	6.7	3.40	9581
写真図版18-602	不明	層	不定形石器	VI	チャート	24.0	16.3	5.7	1.90	9578
写真図版18-603	不明	層	不定形石器	VI	チャート	28.6	21.9	11.8	4.80	9576
写真図版18-604	BG27	2	不定形石器	VI	珪質頁岩	30.2	27.0	7.6	6.80	10164
写真図版18-605	CA3	2	不定形石器	VI	チャート	27.3	11.9	5.8	1.60	9573
写真図版18-606	CA36	2	打製石斧	VI	中粒砂岩	82.4	48.8	22.2	106.00	10019
写真図版18-607	BH31	5	打製石斧	VI	細粒砂岩	69.5	33.5	14.1	37.30	10104
写真図版18-608	BH30	3	打製石斧	VI	死紋岩	197.0	112.3	38.6	1069.0	9619
第44図51、写真図版18-609	BG30	1	打製石斧	A	死紋岩	274.0	95.0	29.3	1194.0	9617
第45図52、写真図版18-610	BG30	1	打製石斧	A	死紋岩	233.0	106.7	39.7	1415.0	9618
写真図版18-611	BG30	1	打製石斧	B	安山岩	72.2	38.7	23.4	126.00	9622
写真図版18-612	BH30	2	打製石斧	B	花崗岩	131.6	47.9	29.6	269.00	9624
写真図版18-613	BH30	2	打製石斧	B	安山岩	75.2	49.2	23.7	145.00	9625
写真図版18-614	BH30	2	打製石斧	B	安山岩	90.5	49.7	25.3	198.00	9626
写真図版18-615	CD39	2	打製石斧	B	安山岩	80.0	49.4	19.8	140.00	9627
写真図版18-616	BH	2	打製石斧	B	安山岩	88.2	54.5	22.8	168.00	10006
写真図版18-617	BH	2	打製石斧	B	細粒砂岩	83.7	41.5	16.4	80.00	10007
写真図版18-618	CC38	2	打製石斧	B	細粒砂岩	82.2	42.4	21.5	124.00	10008
写真図版18-619	CD39	2	打製石斧	B	泥結晶灰岩	119.4	45.6	30.1	230.00	9630
写真図版18-620	BH31	5	磨製石斧	B	中粒砂岩	62.0	35.5	2.0	70.00	9623
写真図版18-621	BH30	3	磨製石斧	B	中粒砂岩	87.2	52.5	26.8	223.00	9636
写真図版18-622	BH32	3	磨製石斧	B	安山岩	38.7	35.6	22.8	46.00	9638
写真図版18-623	BG22	3	磨製石斧	B	中粒砂岩	99.0	41.2	20.9	134.00	10103
写真図版18-624	BH30	2	磨製石斧	B	花崗岩	62.7	34.0	13.3	50.00	9641
写真図版18-625	BH33	3	磨製石斧	B	花崗岩	82.6	37.7	23.3	173.00	9642
写真図版18-626	BH30	3	磨製石斧	B	安山岩	65.7	35.8	21.8	85.00	9620
写真図版18-627	CB38	2	磨製石斧	B	安山岩	119.1	40.5	31.7	250.00	10014
写真図版18-628	CB32	2	磨製石斧	B	能紋岩	98.0	49.0	22.3	192.00	10102
写真図版18-629	CA34	2	磨製石斧	B	玄武岩	153.5	55.2	28.2	345.00	10016
写真図版18-630	BG30	3	磨製石斧	B	閃綠岩	121.3	89.8	47.0	825.00	9631
写真図版18-631	CE40	2	磨製石斧	B	泥結晶灰岩	207.0	77.0	38.8	871.00	10010
写真図版18-632	BH30	2	磨製石斧	B	中粒砂岩	86.0	42.1	18.0	118.00	9621
写真図版18-633	CG41	3	磨製石斧	B	細粒砂岩	109.0	34.3	36.5	198.00	10015
写真図版18-634	EG37	3	石刀	B	細粒砂岩	42.2	58.0	16.5	50.40	10238
写真図版18-635	不明	細	石刀	B	珪質頁岩	92.8	84.3	44.2	445.00	9632
第46図58、写真図版18-636	BH30	2	石刀	B	泥結晶灰岩	157.3	150.7	37.9	1092.00	9628
写真図版18-637	BG30	3	石刀	B	花崗岩	169.2	110.0	63.7	1029.00	9650
第46図59、写真図版18-638	CB33	3	石刀	B	泥結晶灰岩	165.4	163.1	49.0	1490.00	9649
写真図版18-639	CA36	2	石刀	B	泥結晶灰岩	90.2	58.5	22.2	118.00	10017
写真図版18-640	BH30	2	石刀	B	泥結晶灰岩	105.8	65.0	27.0	11.80	9629
写真図版18-641	BH31	2	石刀	B	花崗岩	110.0	92.9	58.5	897.00	9646
第46図60、写真図版18-642	CB40	3	敲打器	B	中粒砂岩	84.6	78.2	25.1	296.00	10011
第46図61、写真図版18-643	CA39	1	器種不明	C	安山岩	72.6	45.1	23.5	127.00	10111
写真図版18-644	BH32	1	石棒	B	細粒砂岩	69.6	32.3	19.0	67.00	9643
写真図版18-645	BH32	4	石棒	B	細粒砂岩	61.5	19.1	14.2	23.30	10105
写真図版18-646	BH31	3	石棒	B	中流砂岩	187.0	78.8	36.7	628.00	9656
写真図版18-647	不明	9	石棒	B	泥結晶灰岩	193.0	92.6	70.8	2400.00	10022
写真図版18-648	BH30	1	石棒	B	花崗岩	212.0	62.6	43.9	973.00	9633
写真図版18-649	BG30	3	石棒	B	泥結晶灰岩	122.4	44.1	30.0	164.00	9645
写真図版18-650	BG28	3	石棒	B	中粒砂岩	34.5	23.3	17.3	20.20	10413
写真図版18-651	BH31	4	石棒	B	玄武岩	205.0	63.3	54.9	1150.00	9651
写真図版18-652	BH32	3	石棒	B	細粒砂岩	166.6	36.5	27.2	240.00	9639
写真図版18-653	不明	5	石棒	B	中粒砂岩	63.3	23.5	12.3	28.30	9979
第46図62、写真図版18-654	BH30	3	石棒	B	珪質頁岩	96.0	49.5	30.8	163.00	10032
写真図版18-655	BH30	3	石棒	B	細粒砂岩	45.7	39.7	9.2	25.30	9616
写真図版18-656	BH29	3	石棒	B	細粒砂岩	36.0	33.0	4.1	4.40	9615
写真図版18-657	BG28	3	石棒	B	粘成岩	50.0	44.9	10.6	34.30	10002
写真図版18-658	BH30	1	石棒	B	花崗岩	56.4	49.7	15.0	65.00	9640
写真図版18-659	BH30	3	石棒	B	細粒砂岩	40.6	39.0	7.5	15.80	10101
写真図版18-660	BH32	1	石棒	B	粘成岩	51.2	44.4	15.7	37.50	10099
写真図版18-661	BG28	3	石棒	B	細粒砂岩	48.8	46.0	8.7	32.90	10003
写真図版18-662	CC38	2	石棒	B	粘成岩	32.1	31.5	4.3	7.20	10004
写真図版18-664	BH30	2	石棒	B	細粒砂岩	47.7	45.2	8.2	24.80	10005
写真図版18-665	BH31	2	石棒	B	粘成岩	57.0	51.6	11.6	45.90	10100
写真図版18-666	BH31	3	石棒	B	花崗岩	122.2	91.5	52.0	727.00	9647
写真図版18-667	BH29	3	石棒	B	安山岩	179.0	98.7	40.7	897.00	10012
写真図版18-668	BH30	2	石棒	B	花崗岩	140.0	68.5	17.7	145.00	9637
写真図版18-669	BH30	1	石棒	B	アブリ岩	82.4	61.8	30.4	22.00	10040
写真図版18-670	BG30	3	石棒	B	泥結晶灰岩	130.4	64.6	47.5	165.00	9648
写真図版18-671	EB40	4	凹石	B	中粒砂岩	165.0	51.7	40.7	570.00	9634
写真図版18-672	BG27	3	凹石	B	細粒砂岩	82.2	52.7	32.5	241.00	9635
					粗粒砂岩	109.6	83.5	38.5	446.00	10021



1. 遺構検出状況



2. CD39-1ピット 完掘状況



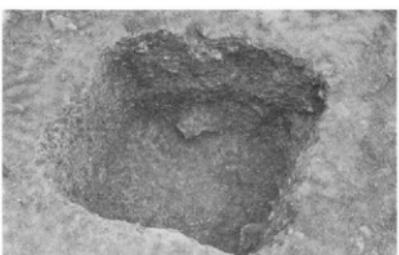
3. CG41-1ピット 半掘状況



4. DA42-1ピット 半掘状況



5. DC42-1ピット 半掘状況



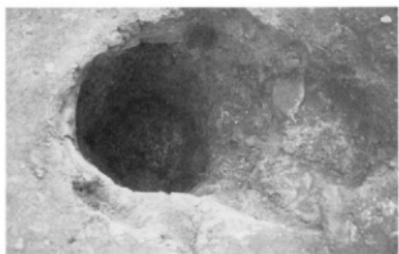
6. DC43-1ピット 完掘状況



7. DD41-1ピット 完掘状況



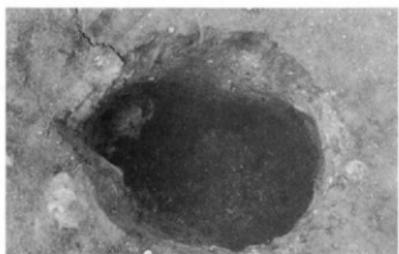
8. 遺構 完掘状況



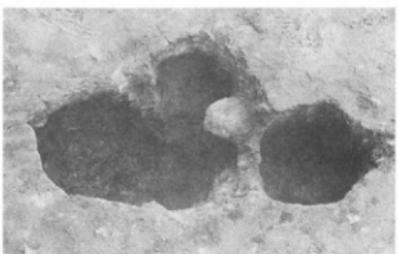
1. DF42-1ピット 完掘状況



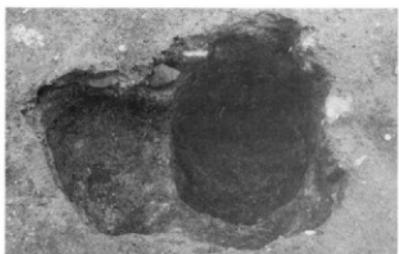
2. DG42-1ピット 完掘状況



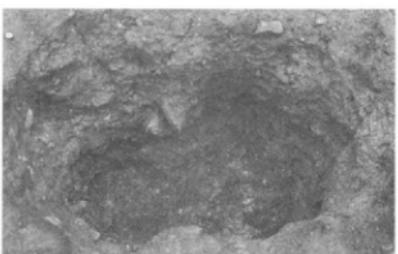
3. DH41-2ピット 完掘状況



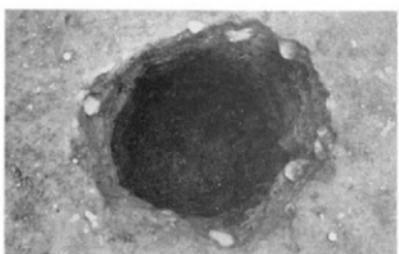
4. DI40-1ピット・DI40-2ピット・DI40-3ピット 完掘状況



5. DI40-6ピット・DI40-7ピット 完掘状況



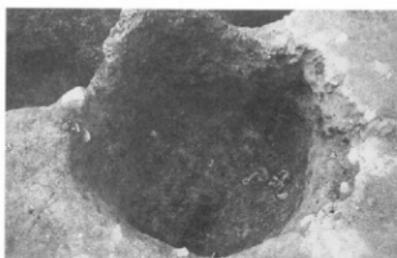
6. DI41-1ピット 完掘状況



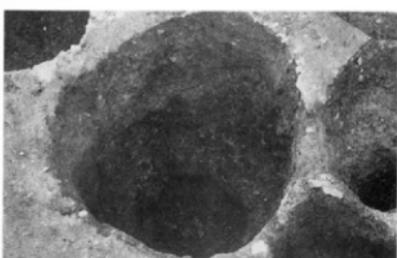
7. DI41-4ピット 完掘状況



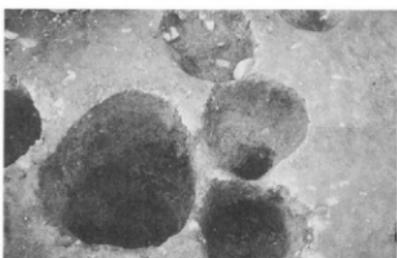
8. 溝・遺構 完掘状況



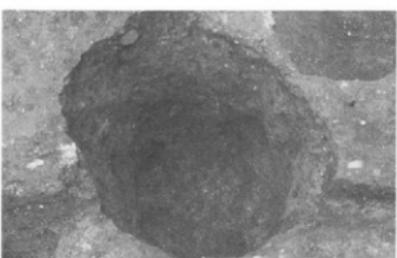
1. EB39-1ピット 完掘状況



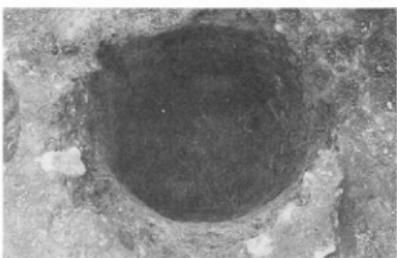
2. EB39-12ピット 完掘状況



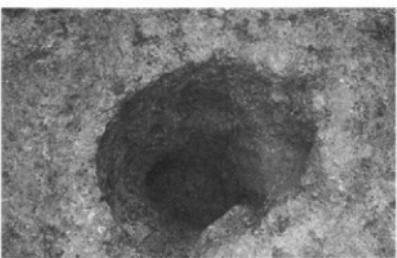
3. EB39-11ピット 完掘状況



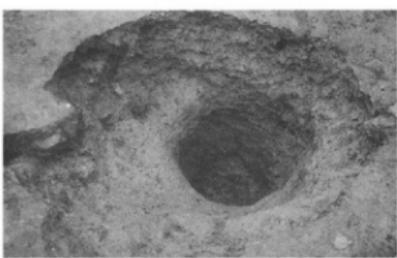
4. EC38-3ピット 完掘状況



5. EC39-3ピット 完掘状況



6. EC39-6ピット 完掘状況



7. EC40-1ピット 完掘状況



8. ED39-2ピット・ED39-3ピット・ED39-4ピット
ED39-5ピット・ED39-6ピット 完掘状況

写真図版 3



1. 遺構 完掘状況



2. 遺構 完掘状況



3. 遺構 完掘状況



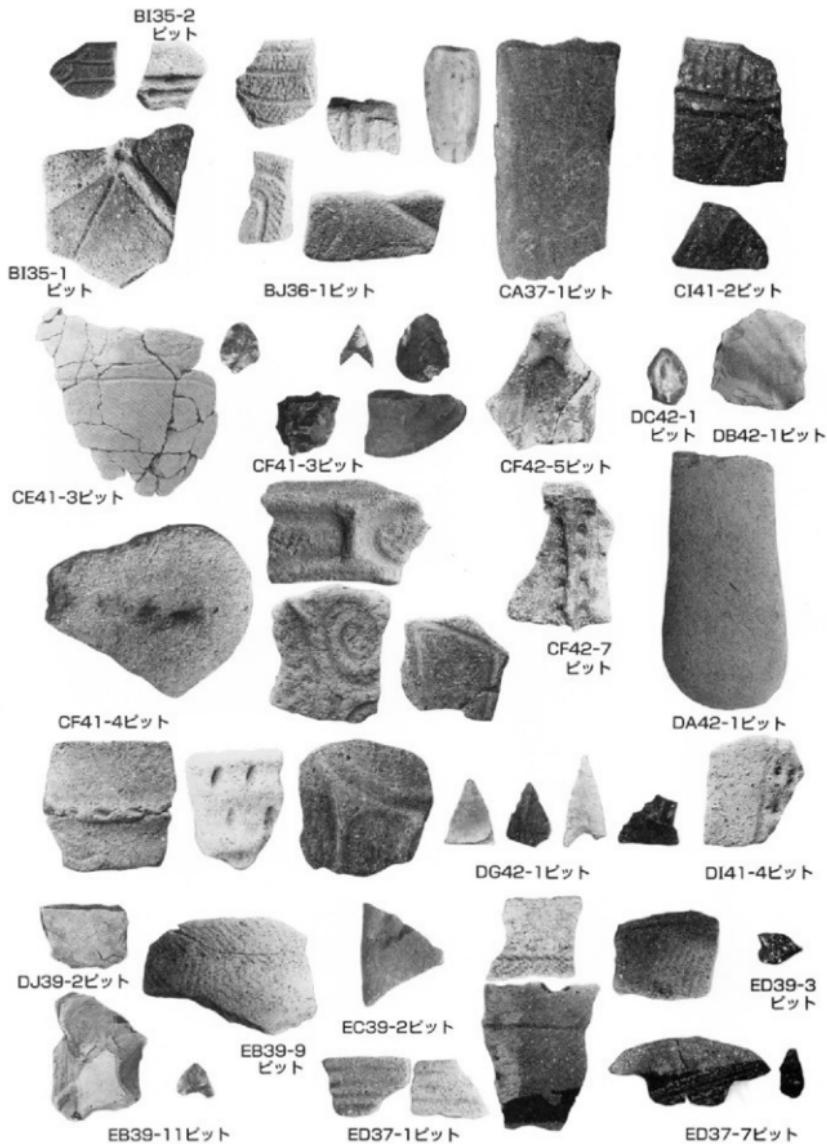
4. 土器出土状況



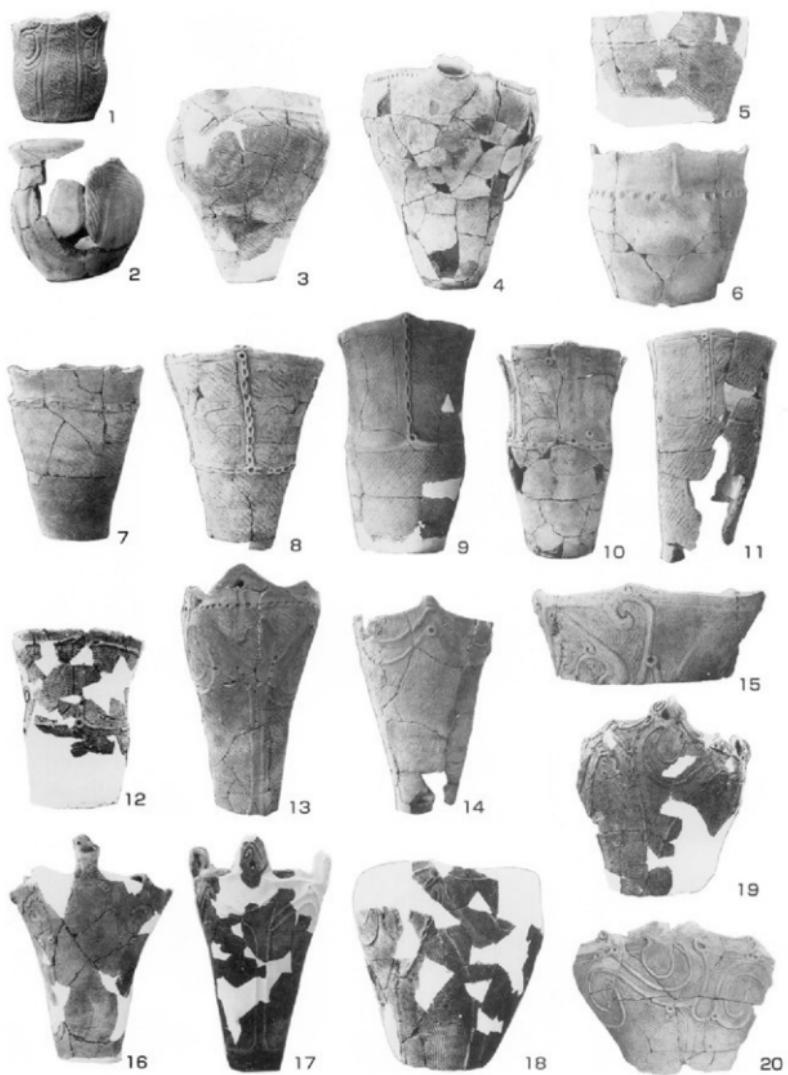
5. 土器出土状況



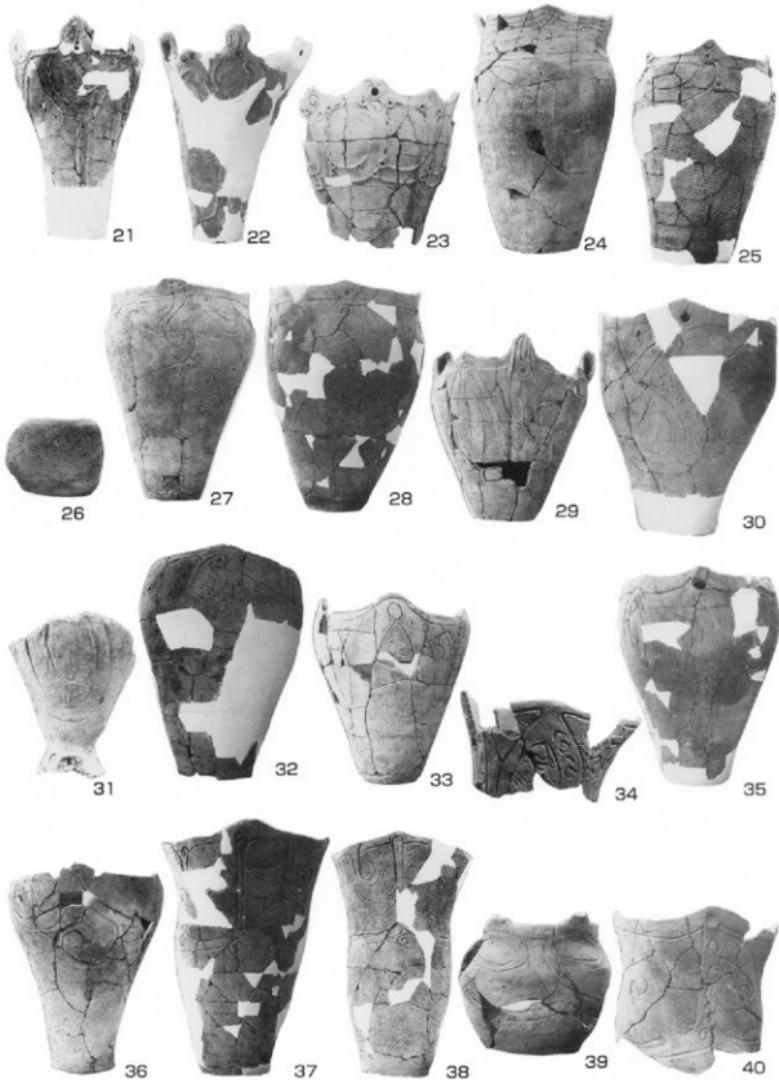
6. 土器出土状況



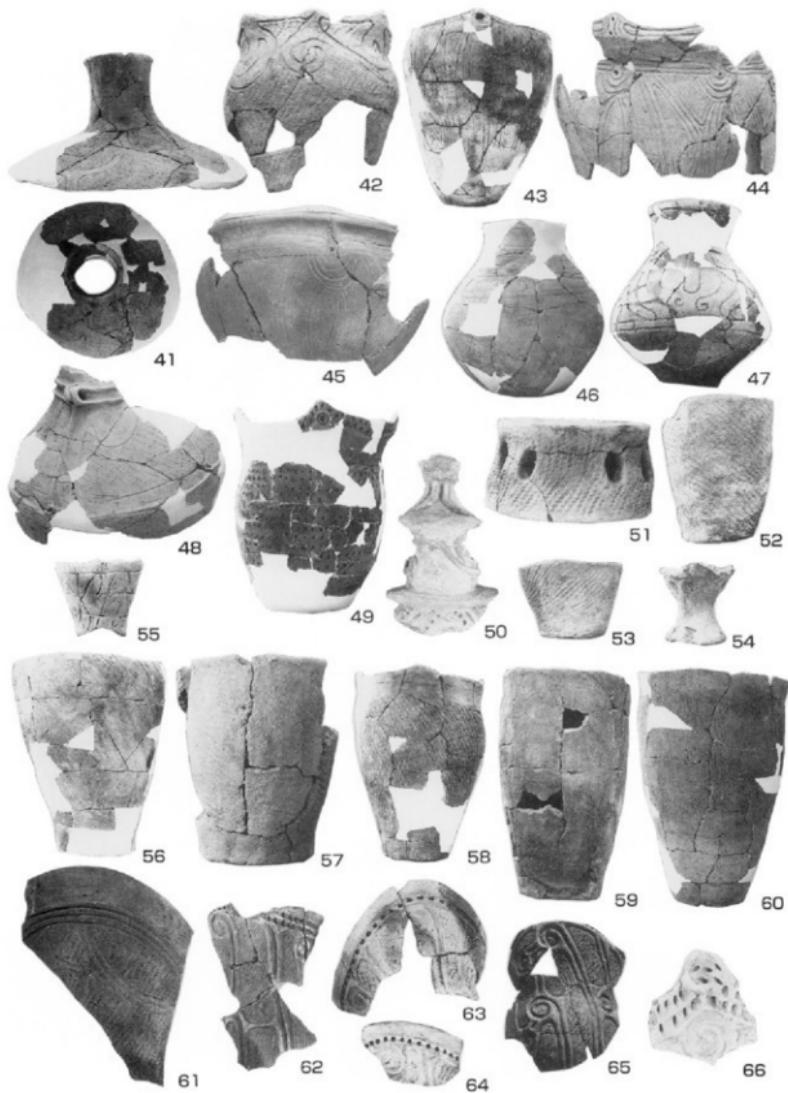
写真図版 5



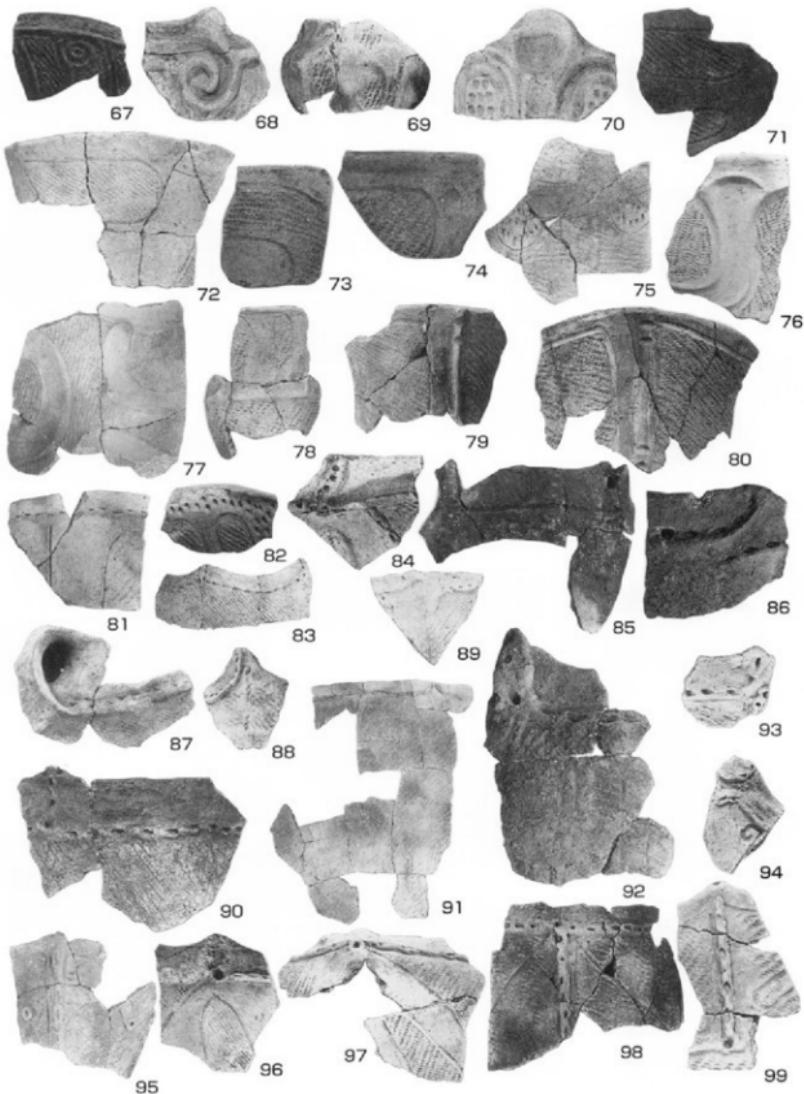
写真図版 6



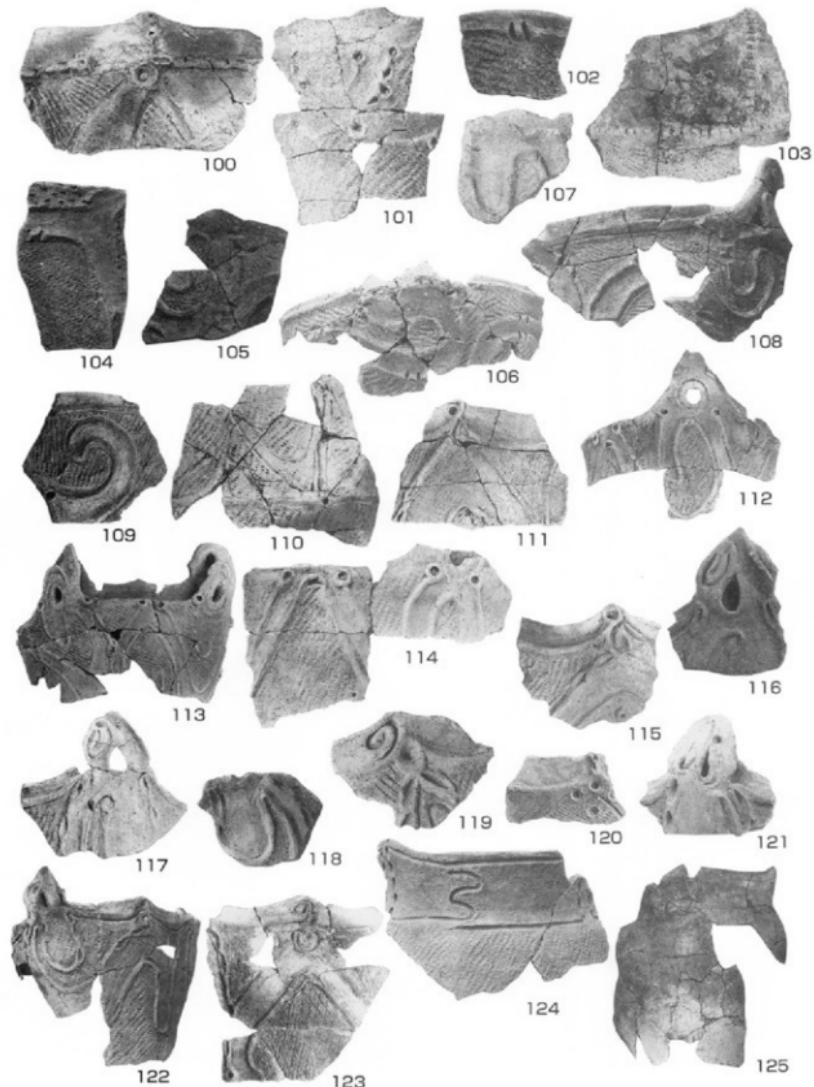
写真図版 7



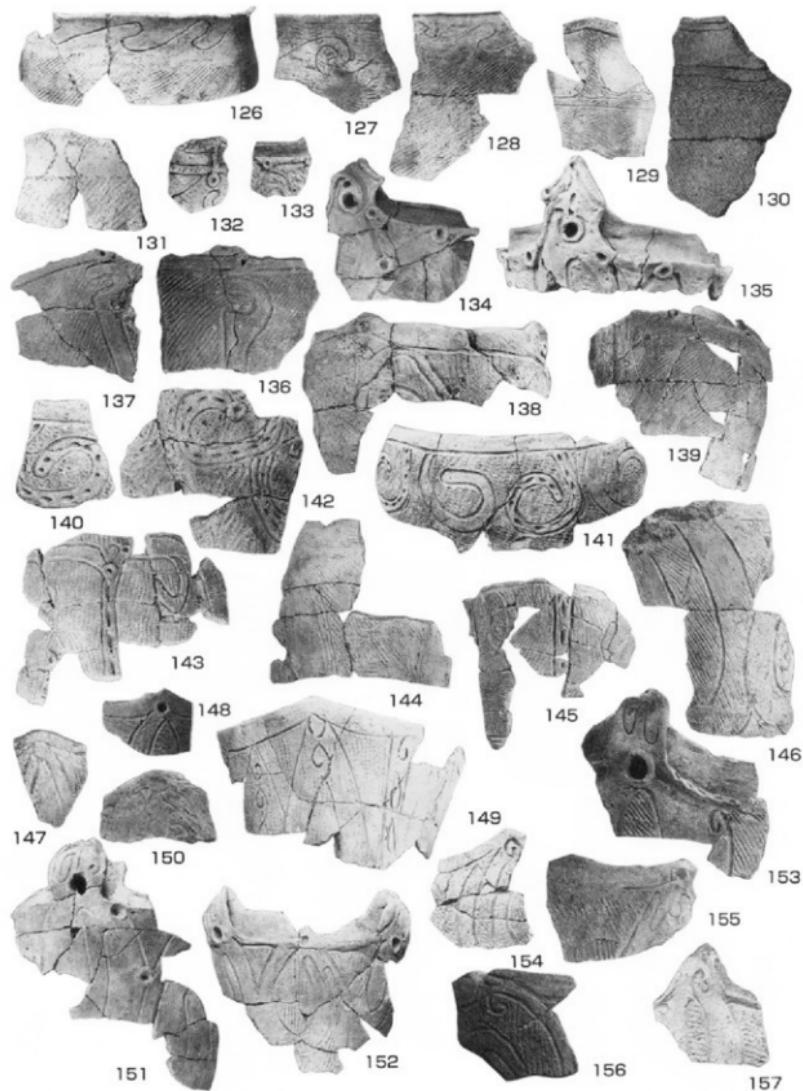
写真図版 8



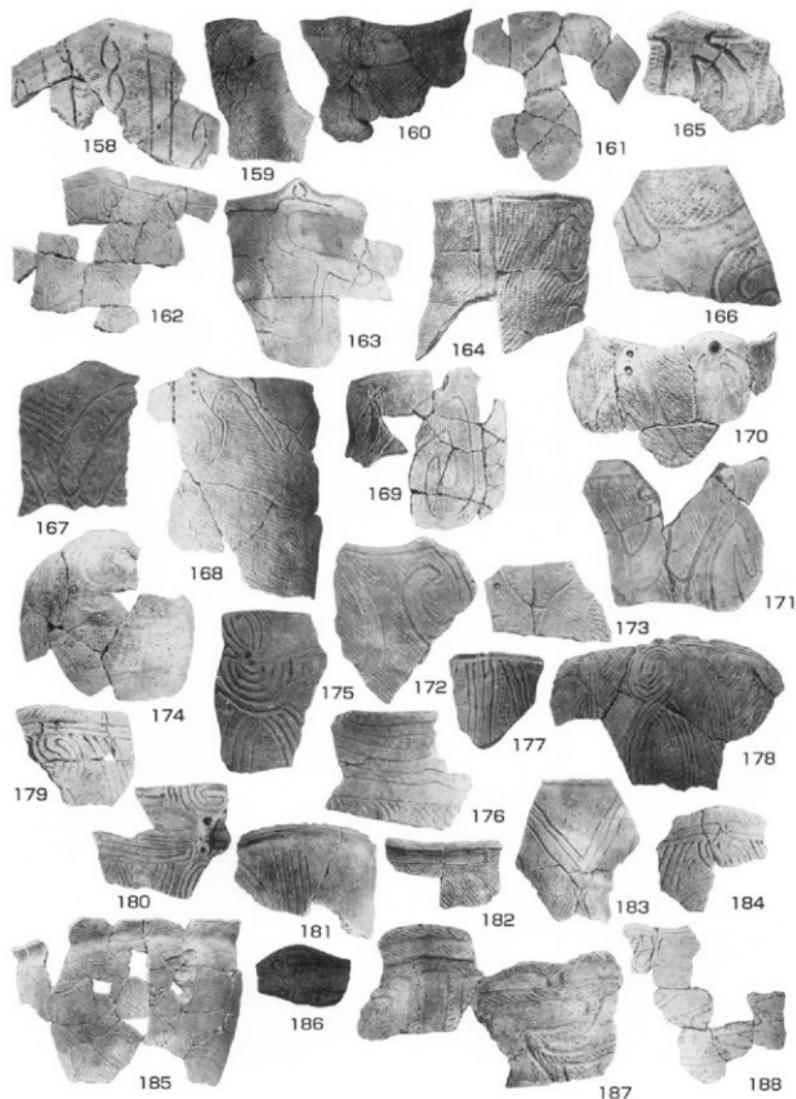
写真図版 9



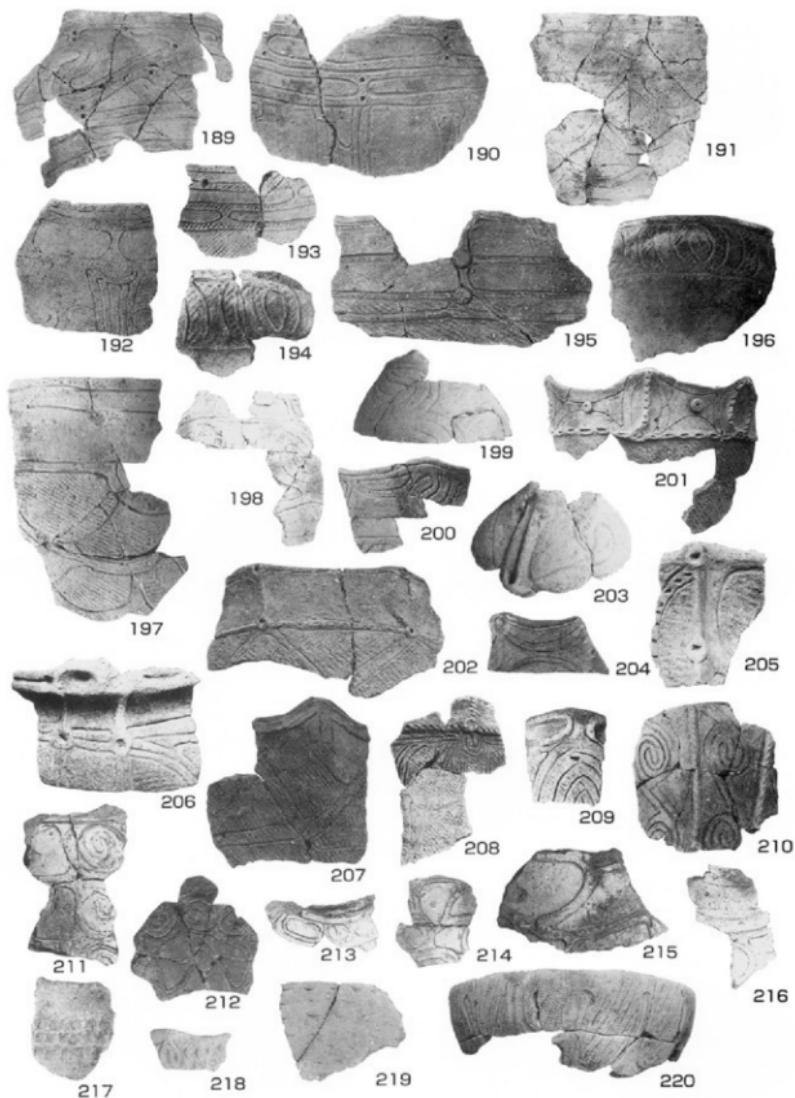
写真図版 10



写真図版 11



写真図版 12



写真図版 13



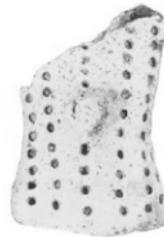
221



222



223



224



225



226



227



228



229



230



231



232



233



234

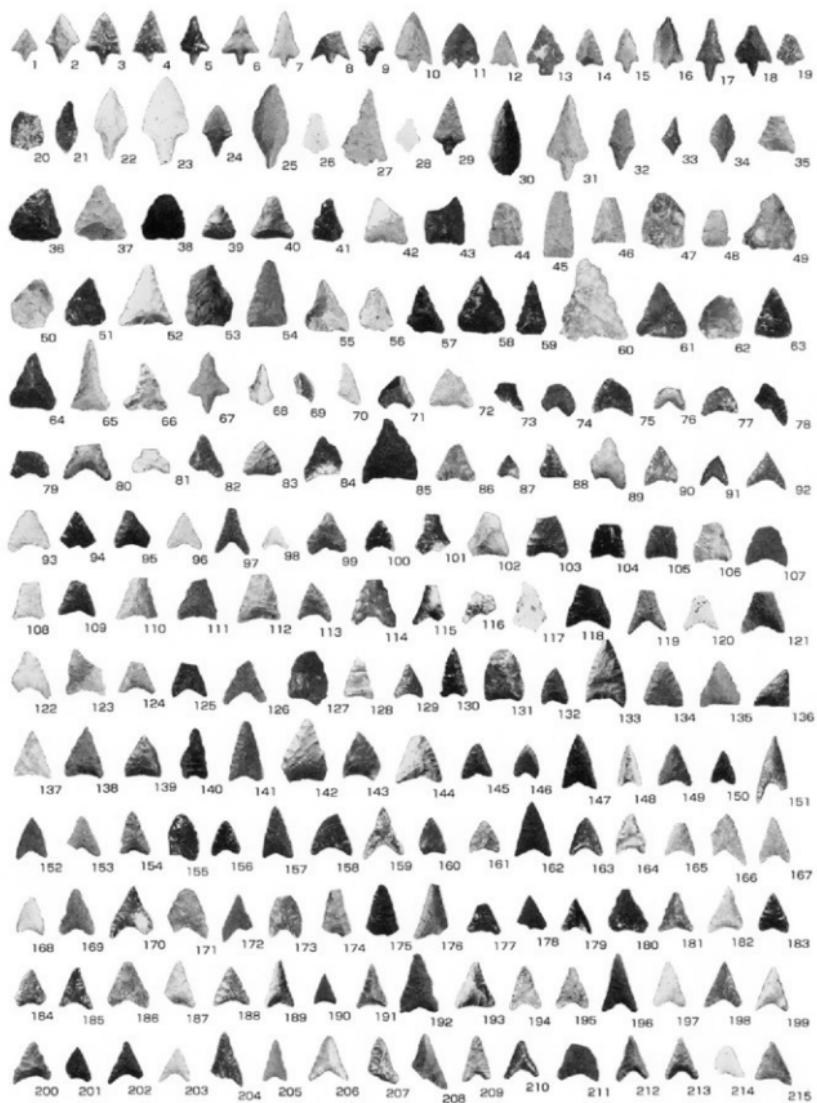


235

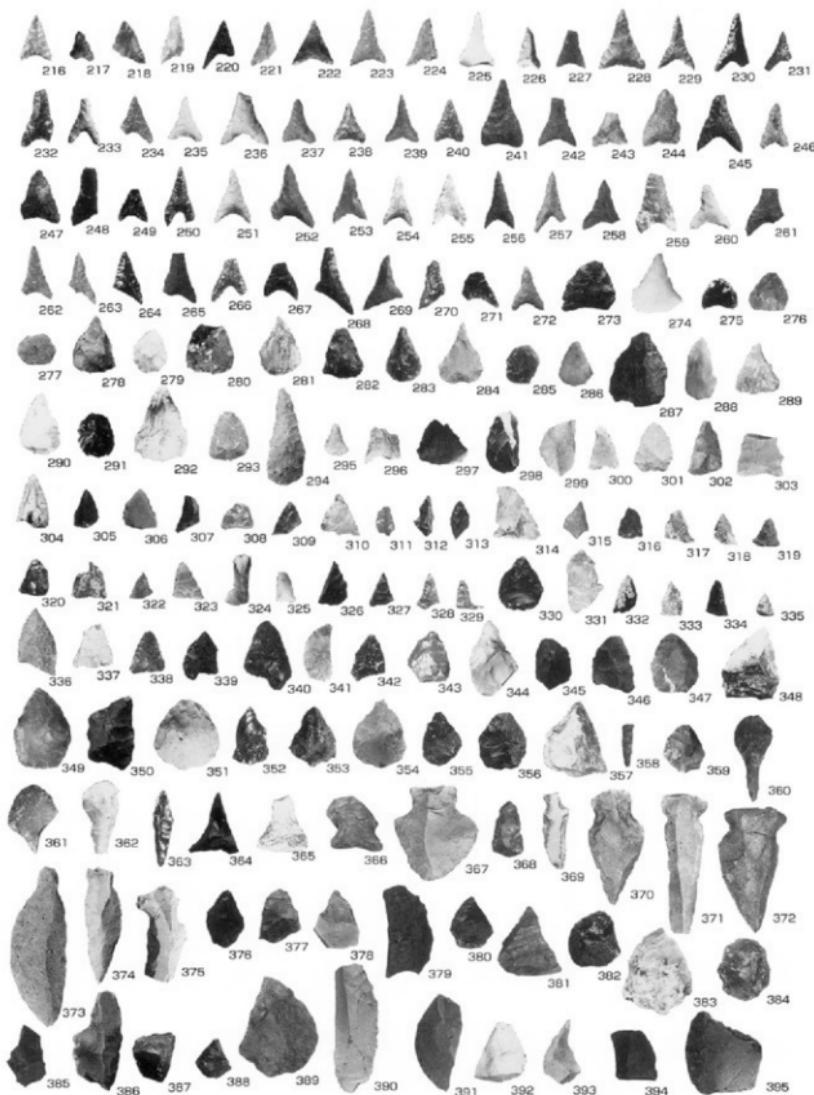


236

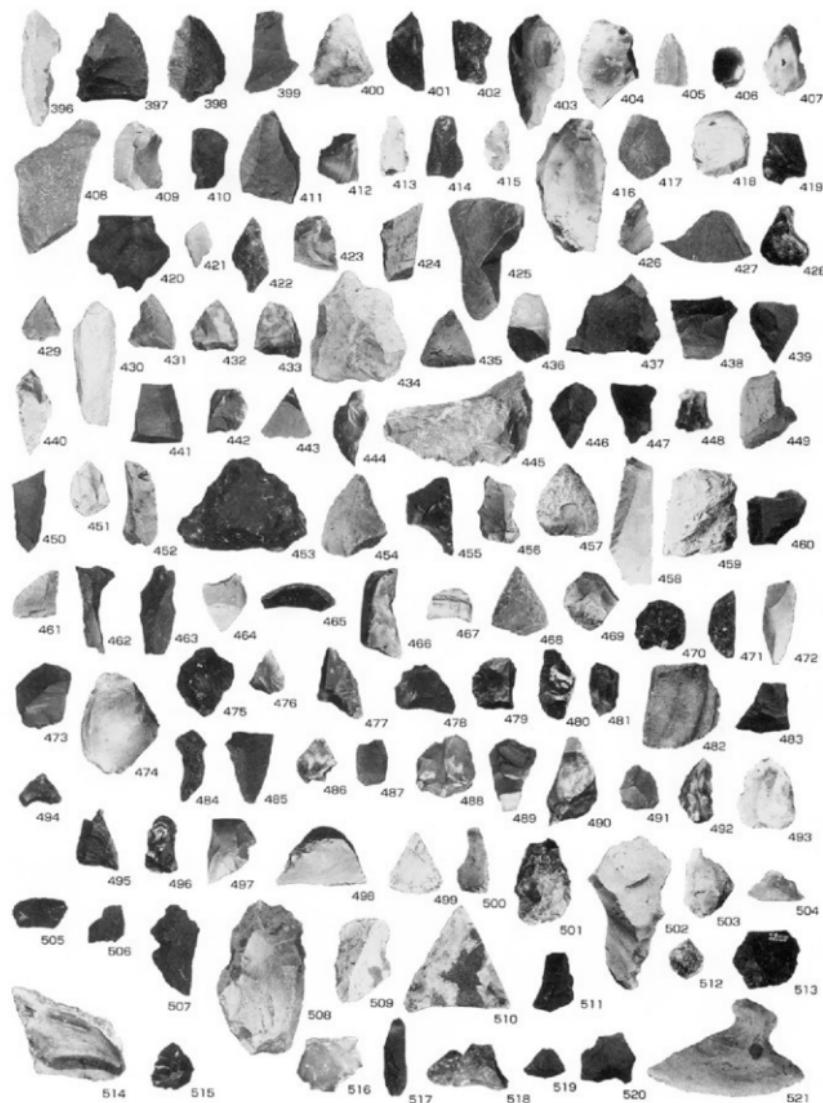
写真図版 14



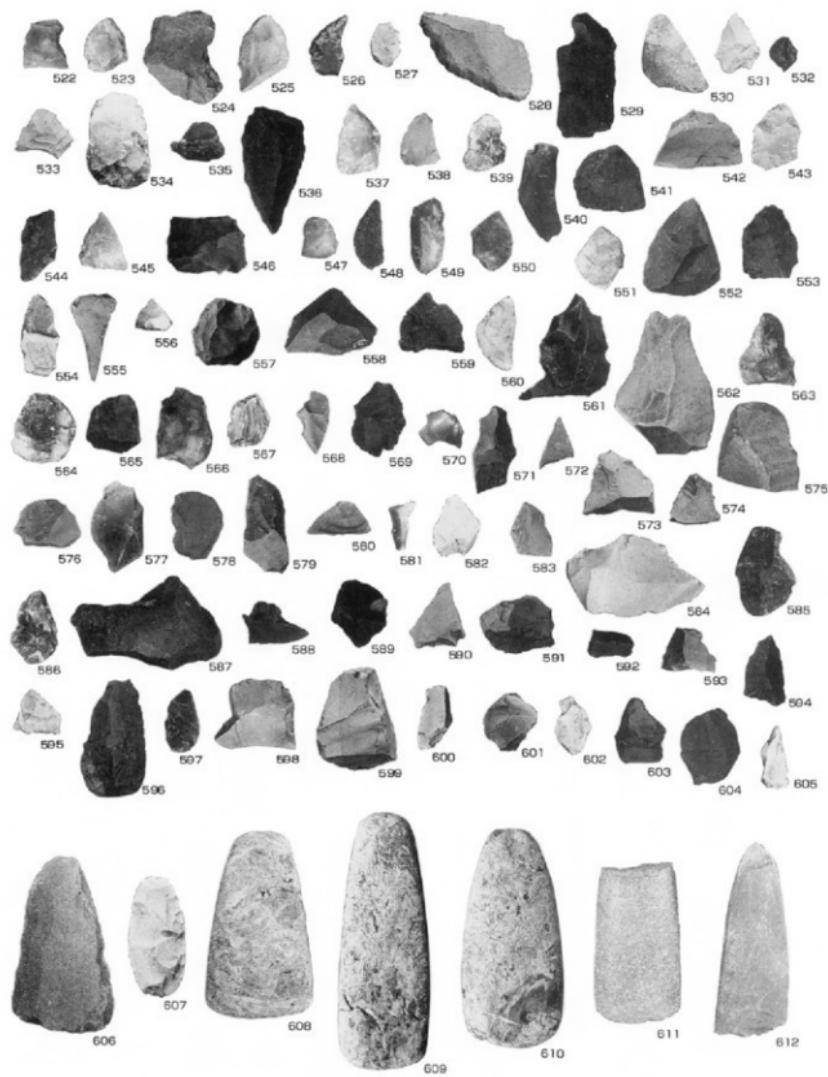
写真図版 15



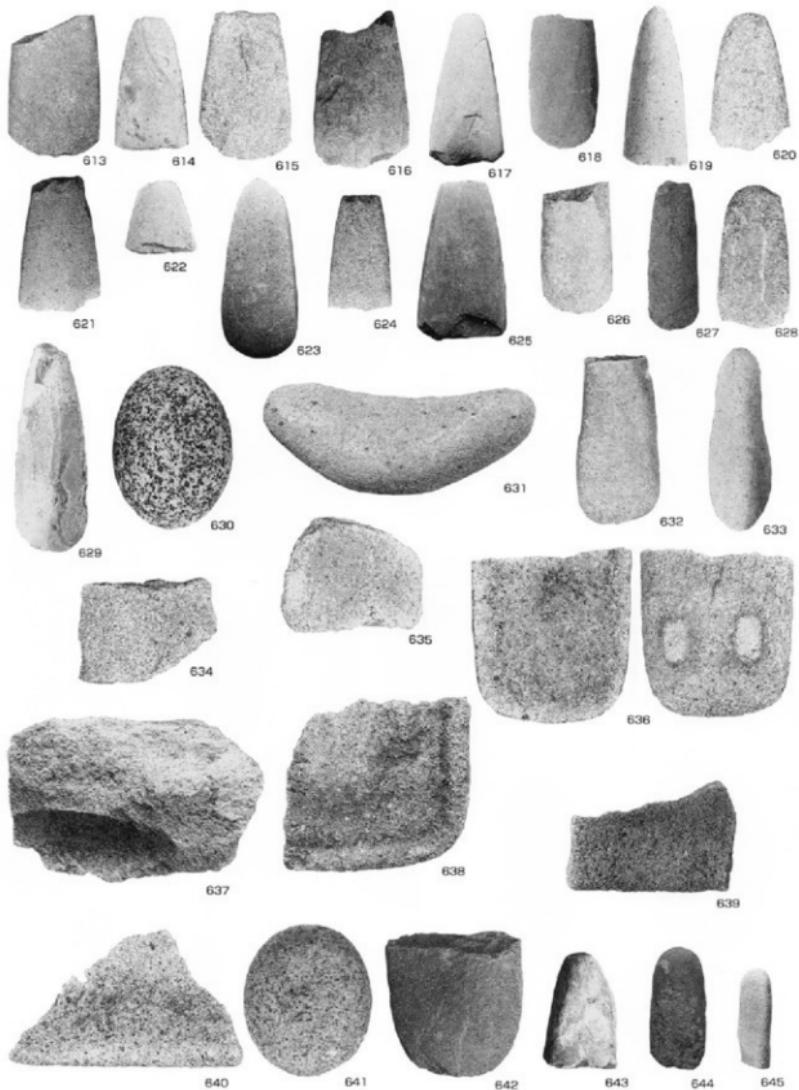
写真図版 16



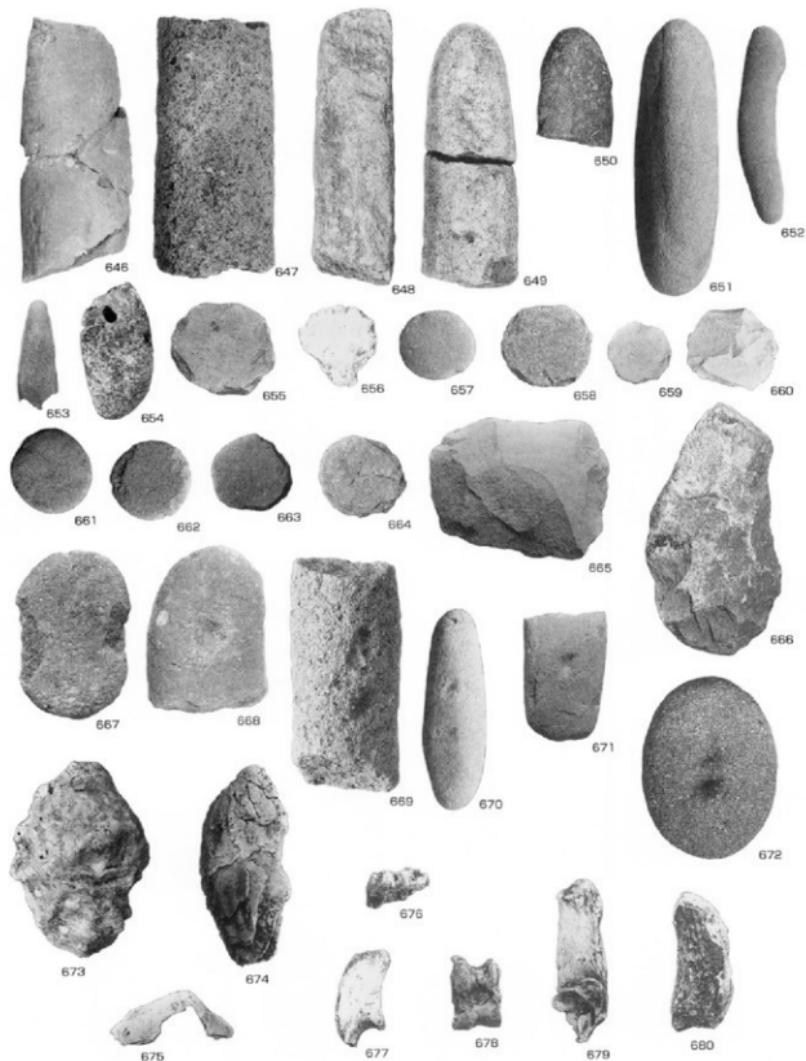
写真図版 17



写真図版 18



写真図版 19



写真図版 20

報告書抄録

ふりがな	どうのまえかいづかはっくつちょうさはうこくしょいち							
書名	堂の前貝塚発掘調査報告書1							
副書名	団体営農道整備事業農道久野立山線改良工事に伴う緊急発掘調査							
卷次								
シリーズ名	陸前高田市文化財調査報告書							
シリーズ番号	第21集							
編著者名	佐藤正彦 熊谷賢 高橋和弥							
編集機関	陸前高田市教育委員会							
所在地	〒029-2205 岩手県陸前高田市高田町字館の沖110 TEL 0192-54-2111							
発行年月日	西暦 1999年3月31日							
ふりがな 所収遺跡	ふりがな 所 在 地	コ ー ド		北緯	東經	調査期間	調査面積 m ²	調査原因
		市町村	遺跡番号					
堂の前貝塚	いわてけんとうぜんたかたし 岩手県陸前高田市 よねさきちようあざとやのまえ 米崎町字堂の前 85-1 ほか	NF68- 2130	38度 59分 56秒	141度 40分 37秒	1996.11.01~ 1996.12.14	196m ²	団体営農道 整備事業農 道久野立山 線改良工事	
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺跡		主な遺物		特記事項	
堂の前貝塚	貝塚 集落跡	縄文時代	竪穴住居 土坑	1棟 151基	縄文土器（中・後期） 土偶 土製品 石器 石製品 骨角器 自然遺物（動物遺存 体）	縄文時代後期の集落跡 縄文時代後期初頭の遺 物包含層		

岩手県陸前高田市
堂の前貝塚発掘調査報告書Ⅱ
(陸前高田市文化財調査報告第21集)

発行日 1999年3月
編集・発行 陸前高田市教育委員会
岩手県陸前高田市高田町館の沖110
TEL (0192) 54-2111
印 刷 (有)高田活版
岩手県陸前高田市高田町字馬場前114
TEL (0192) 55-2694